

2016 年（平成 28 年）

兵庫県感染症発生動向調査事業

年 報

兵庫県立健康生活科学研究所

健康科学研究センター

（兵庫県感染症情報センター）

はじめに

国際交流の進展に伴い、2016年の訪日外国人は約2400万人、出国日本人は1700万人となり、海外渡航歴のある方を発端とした麻疹の感染が、兵庫県を含む国内各地で確認されています。さらに、中南米で流行しているジカウイルス感染症など、海外からの新たな感染症の侵入が危惧されています。

また、20～40歳代を中心に梅毒患者が2年連続で倍増するほか、新たな結核患者が県内で例年1200人程度発生するなど、社会環境が大きく変化する中で、感染症発生動向調査事業はますます重要となっております。

県民の健康を守り、地域医療、公衆衛生行政を支えていくためには、感染症の流行状況を正確に把握する必要があり、2016年4月から、改正された「感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律」が全面施行され、サーベイランス体制の充実強化、検査の信頼性を確保する制度（感染症GLP）の導入が図られました。

今後、的確な感染症対策のための適切な情報提供が迅速に行えるよう、よりいっそう努力して参りますので、関係機関の皆様方には、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ここに2016年の事業年報をとりまとめました。本書を感染症対策の資料としてご活用いただければ幸いに存じます。

なお、この事業の実施にあたり、兵庫県医師会、郡市医師会、定点医療機関をはじめとする関係機関各位には、ひとかたならぬご理解とご尽力を賜っておりますことに心からお礼申し上げます。

2017年12月

兵庫県立健康生活科学研究所
健康科学研究センター
所長 大橋 秀隆

2016年報告週対応表

報告週	期 間	報告週	期 間
1	1月4日～1月10日	27	7月4日～7月10日
2	1月11日～1月17日	28	7月11日～7月17日
3	1月18日～1月24日	29	7月18日～7月24日
4	1月25日～1月31日	30	7月25日～7月31日
5	2月1日～2月7日	31	8月1日～8月7日
6	2月8日～2月14日	32	8月8日～8月14日
7	2月15日～2月21日	33	8月15日～8月21日
8	2月22日～2月28日	34	8月22日～8月28日
9	2月29日～3月6日	35	8月29日～9月4日
10	3月7日～3月13日	36	9月5日～9月11日
11	3月14日～3月20日	37	9月12日～9月18日
12	3月21日～3月27日	38	9月19日～9月25日
13	3月28日～4月3日	39	9月26日～10月2日
14	4月4日～4月10日	40	10月3日～10月9日
15	4月11日～4月17日	41	10月10日～10月16日
16	4月18日～4月24日	42	10月17日～10月23日
17	4月25日～5月1日	43	10月24日～10月30日
18	5月2日～5月8日	44	10月31日～11月6日
19	5月9日～5月15日	45	11月7日～11月13日
20	5月16日～5月22日	46	11月14日～11月20日
21	5月23日～5月29日	47	11月21日～11月27日
22	5月30日～6月5日	48	11月28日～12月4日
23	6月6日～6月12日	49	12月5日～12月11日
24	6月13日～6月19日	50	12月12日～12月18日
25	6月20日～6月26日	51	12月19日～12月25日
26	6月27日～7月3日	52	12月26日～平成29年1月1日

目 次

1. 事業の概要

- 1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム 1
- 1. 2 地域の区分と地域別定点数 4

2. 患者発生状況

- 2. 1 概要 6
- 2. 2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び
定点把握対象疾病の動向 8
 - (1) 結核 9
 - (2) 腸管出血性大腸菌感染症 10
 - (3) 侵襲性肺炎球菌感染症 11
 - (4) 梅毒 12
 - (5) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く） 14
 - (6) RS ウイルス感染症 15
 - (7) 咽頭結膜熱 16
 - (8) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 17
 - (9) 感染性胃腸炎 18
 - (10) 水痘 19
 - (11) 手足口病 20
 - (12) 伝染性紅斑 21
 - (13) 突発性発しん 22
 - (14) 百日咳 23
 - (15) ヘルパンギーナ 24
 - (16) 流行性耳下腺炎 25
 - (17) 急性出血性結膜炎 26
 - (18) 流行性角結膜炎 27
 - (19) 細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く) 28
 - (20) 無菌性髄膜炎 29
 - (21) マイコプラズマ肺炎 30
 - (22) クラミジア肺炎（オウム病を除く） 31
 - (23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る） 32
 - (24) 性器クラミジア感染症 33
 - (25) 性器ヘルペスウイルス感染症 35
 - (26) 尖圭コンジローマ 37
 - (27) 淋菌感染症 39

(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4 1
(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4 2
(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症	4 3

3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例	4 4
(2) 細菌による食中毒（疑）事例	4 4
(3) その他の細菌検査	4 5
(4) クドア（ヒラメ寄生虫）の検査	4 5
(5) 結核 QFT 検査	4 5
(6) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査	4 5
(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績	4 9
(8) 日本脳炎流行予測調査結果	4 9
(9) 蚊媒介感染症の検査	4 9
(10) リケッチア等の検査	4 9
(11) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果	5 0
(12) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数	5 1

4. 資料

(1) 全数把握対象疾病の患者数	5 4
(2) 定点把握対象疾病の週（月）別患者数	5 8
(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数	6 1
(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数	6 4
(5) 定点把握対象疾病（月報）の性別患者数	6 6

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

1. 事業の概要

1. 1 兵庫県における感染症発生動向調査システム

図1に患者情報に関する兵庫県感染症発生動向調査システムを示す。コンピュータ・オンライン・システムは、結核およびその他の感染症の患者情報を迅速に収集、解析、還元することにより、適切な予防措置を講じ、流行を未然に防止することを目的として、1987年に結核・感染症サーベイランスシステムとして導入された。1992年以降は厚生行政総合情報システム（WISH）上での運用となり、1998年に対象疾病の若干の増加と一部疾病名の変更および患者の年齢階級区分の変更が行われた。同時にシステムの名称も兵庫県結核・感染症発生動向調査システムと改められた。

1999年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」が施行された。これに伴い、当研究センター内に基幹地方感染症情報センターが設置され、政令市を含む兵庫県全域の感染症情報の集計・解析・情報還元の中核を担うこととなった。

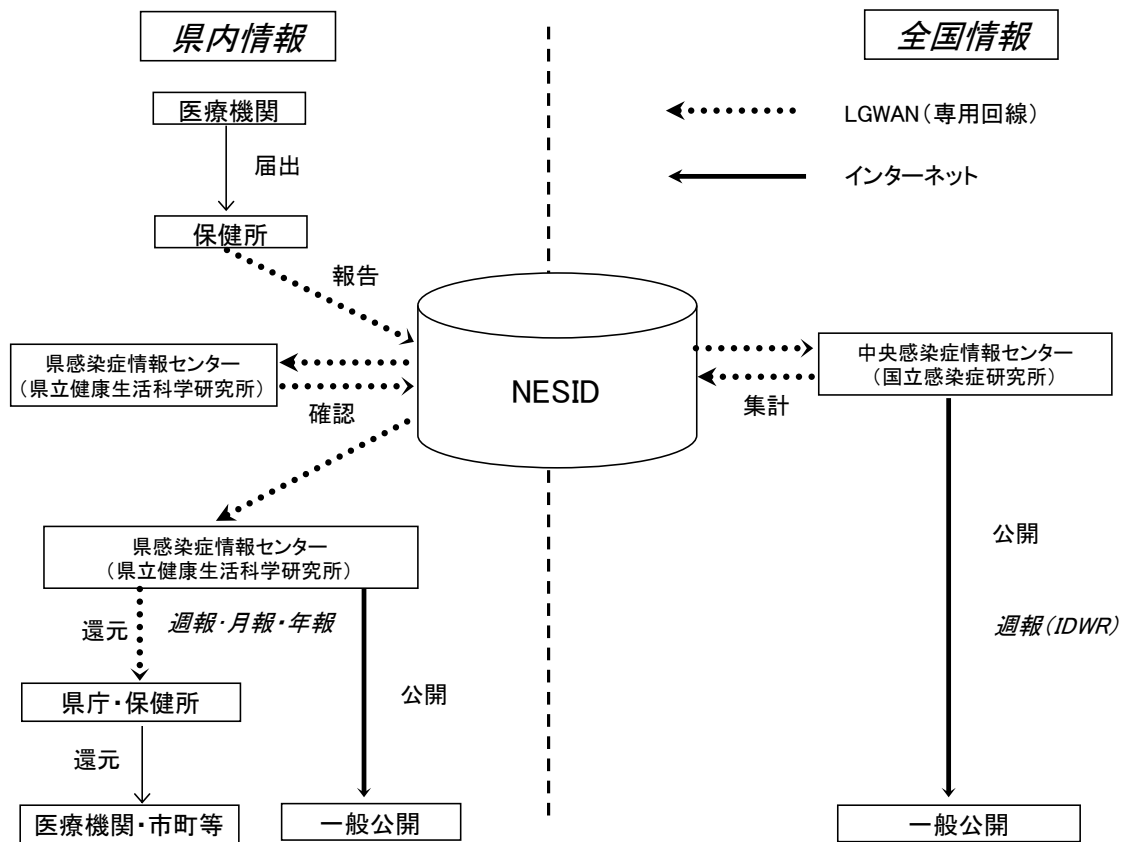
なお、この時点では結核予防法は感染症法に一元化されず、結核は感染症発生動向調査の対象疾病とはならなかった。2003年11月5日の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」の施行に伴い感染症発生動向調査も一部変更された。

2006年4月からは感染症発生動向調査システムが全面的に新しくなった。従来、収集された情報は全国の保健所、都道府県及び政令市、国の各レベルで集積され、そのためのデータベースプログラムが各組織に配布されていたが、新システム（NESID）では、これらの情報はブラウザで取り扱われて、国レベルで一元管理されることになった。ネットワークは従来どおりWISHを用い、インターネットからは隔離されたクローズドなイントラネットとなっている。回線は国と全国の地方自治体を相互接続した広域ネットワークであるLGWAN（総合行政ネットワーク）を用いている。新システムにより、情報伝達の迅速化、セキュリティ向上、対象疾病等に変更があった場合の迅速対応（全国にプログラムを配布し、インストールする必要がないため）が図られた。

2007年4月の感染症法の改正では、発生動向調査対象疾病の類型分けの変更や結核予防法の統合等がなされた。感染症法の改正がその後も行われた結果、2016年12月31日現在の対象疾病は疑似症を含めて114疾病（表1、表2）となっている。

当感染症情報センターでは、表1、表2に示す感染症発生動向調査システムの対象疾病である一類～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症の合計112疾病（疑似症を除く）のうち、全数把握対象疾病（87疾病）については県内すべての医療機関からの患者発生届出を、定点把握対象疾病（25疾病）については県内に指定された医療機関（全294定点）からの報告を、保健所を通じて集計・解析し、感染症の動向に関するコメント・グラフを付し週報、月報及び年報として保健所、市町、医師会、医療機関等に還元するとともに、ホームページを通じて広く県民に公開している。

図1 兵庫県感染症発生動向調査システム



NESID : National Epidemiological Surveillance of Infectious Diseases 厚生労働省感染症サーベイランスシステム

表1 全数把握の対象疾病（87疾病）

（2016年12月31日現在）

	対象疾病
一類感染症(7疾病)	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ベスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱
二類感染症(7疾病)	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群 ^A 、(12)中東呼吸器症候群 ^B 、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症(5疾病)	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス
四類感染症(44疾病)	(20)E型肝炎、(21)ウエストナイル熱 ^C 、(22)A型肝炎、(23)エキノコックス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサヌル森林病、(29)Q熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症 ¹ 、(34)重症熱性血小板減少症候群 ^D 、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ ^E 、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺炎候群、(48)Bウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兔病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱
五類感染症(22疾病)	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎 ^F 、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎 ^G 、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘(入院例に限る)、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトコックス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症
新型インフルエンザ等感染症(2疾病)	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ

^A 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^B 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。^C ウエストナイル脳炎を含む。^D 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^E H5N1及びH7N9を除く。^F E型肝炎及びA型肝炎を除く。^G ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。¹ 2016年2月15日より追加。

表2 定点把握対象疾病（五類感染症、疑似症）

（2016年12月31日現在）

患者定点	対象疾病
小児科定点(週報) 129定点、11疾病	(86)RSウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎
インフルエンザ定点(週報) 199定点、1疾病	(97)インフルエンザ ^H
眼科定点(週報) 35定点、2疾病	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎
STD定点(月報) 46定点、4疾病	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症
基幹定点(週報) 14定点、6疾病	(97)インフルエンザ ^H ※ただし、入院患者に限定する。 (89)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く)、(105)細菌性髄膜炎 ¹ 、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎
基幹定点(月報) 14定点、3疾病	(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症
疑似症 ² 295定点	法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (113)摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、(114)発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかなる場合を除く。)

^H 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。¹ インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。² 汎用サーベイランスシステムで実施。

1. 2 地域の区分と地域別定点数

図2に、二次医療圏を単位とする地域の区分を示す。表3に、五類感染症の地域別定点数と人口の関係を示す。

2016年の定点数は、インフルエンザ199定点、小児科129定点、眼科35定点、STD46定点、基幹14定点である。

図2 地域の区分

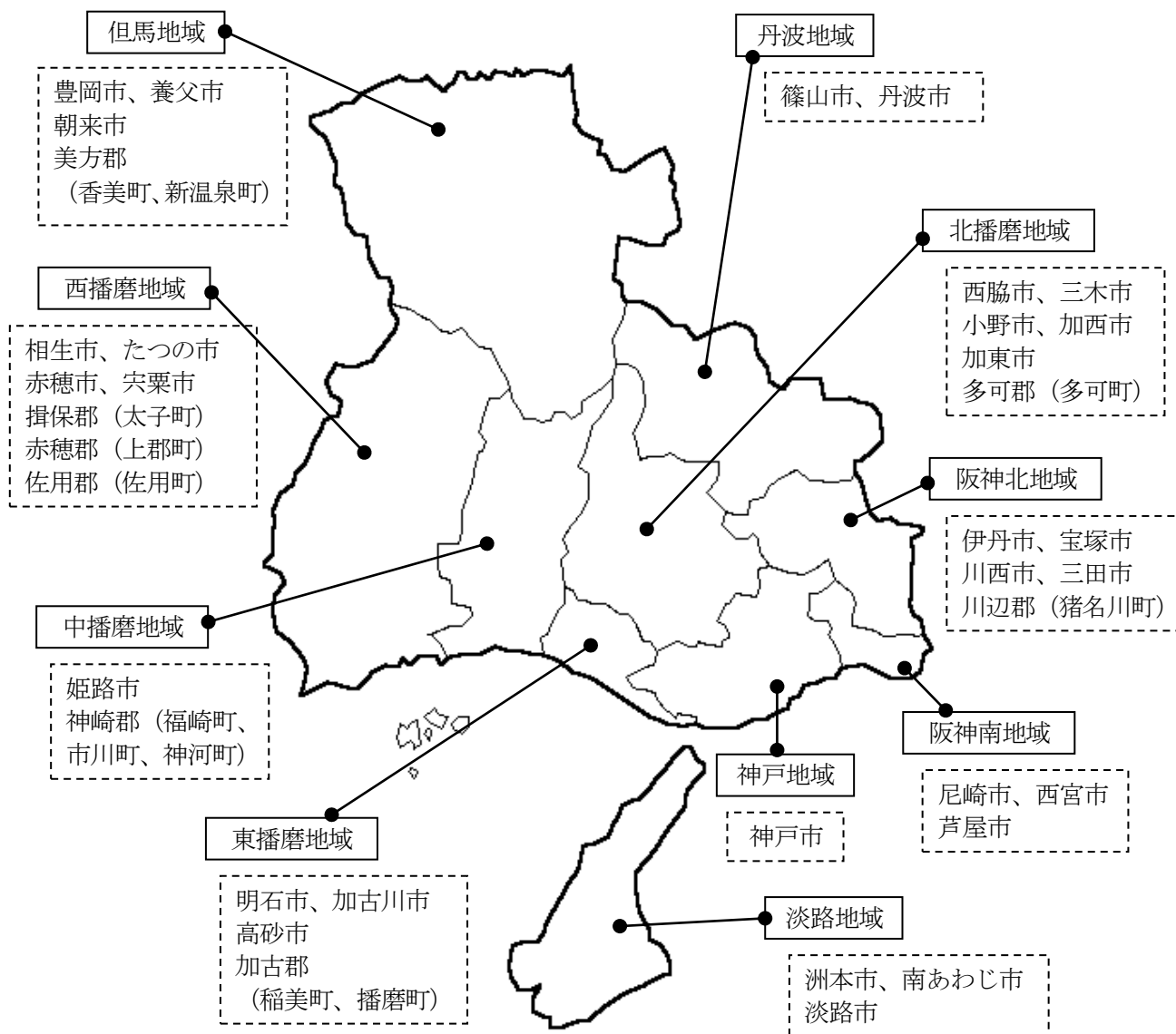


表3 地域別定点数と人口の関係

区 分	人 口 (万人)	人口比 (%)	インフルエンザ [※] 定点		小児科定点		眼科定点		STD定点		基幹定点	
			定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)	定点数	定点あたりの人口 (万人)
神戸地域	153.7	27.8	48	3.2	31	5.0	10	15.4	12	12.8	3	51.2
阪神南地域	103.6	18.8	32	3.2	21	4.9	7	14.8	8	12.9	2	51.8
阪神北地域	72.1	13.1	21	3.4	14	5.1	4	18.0	5	14.4	0	—
東播磨地域	71.6	13.0	25	2.9	16	4.5	5	14.3	6	11.9	1	71.6
北播磨地域	27.1	4.9	13	2.1	8	3.4	2	13.6	3	9.0	1	27.1
中播磨地域	57.8	10.5	21	2.8	14	4.1	4	14.5	5	11.6	1	57.8
西播磨地域	25.8	4.7	14	1.8	9	2.9	1	25.8	2	12.9	2	12.9
但馬地域	16.8	3.0	11	1.5	7	2.4	1	16.8	2	8.4	2	8.4
丹波地域	10.5	1.9	6	1.8	4	2.6	0	—	1	10.5	1	10.5
淡路地域	13.4	2.4	8	1.7	5	2.7	1	13.4	2	6.7	1	13.4
合 計	552.3	100.0	199	2.8	129	4.3	35	15.8	46	12.0	14	39.5

(人口:2016年7月1日推計人口)

2. 患者発生状況

2. 1 概要

2. 1. 1 全数把握対象疾病

表 4 に全数把握対象疾病の年間患者数を示す。2016 年は、一類感染症は報告がなく、二類感染症は結核 1,158 人であった。患者数の多い疾病は、三類感染症では腸管出血性大腸菌感染症 129 人、四類感染症ではレジオネラ症 71 人、五類感染症ではアメーバ赤痢 48 人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 75 人、急性脳炎 52 人、侵襲性肺炎球菌感染症 142 人、梅毒 184 人であった。

2015 年と比較すると、2016 年は急性脳炎、梅毒、麻しん等の患者数が増加した。急性脳炎患者の半数以上は病原体不明と報告されているが、2016 年はインフルエンザウイルスが原因と推定される患者が 13 人報告され、新型インフルエンザが流行した 2009 年の 7 人を超えて、過去 10 年間で最大となった。梅毒は、2 年連続して前年度の 2 倍以上に増加し、20～40 歳代男性と 20～30 歳代女性の異性間性的接触が主要な感染原因と考えられた。全国的にも、患者数の急増が見られ、厚生労働省や性感染症学会が梅毒の流行に関する注意喚起を促しているが、増加傾向が継続している。麻しんは、わが国に土着のウイルス（遺伝子型 D5）による伝搬がないことを確認し、2015 年 3 月に排除状態にあることが認定されたが、2016 年は海外渡航歴のある人を発端とする国内感染が発生し、遺伝子型 H1 及び D8 のウイルスが検出された。

蚊媒介性感染症のうち、デング熱の患者数は過去 10 年間で最大となったが、東南アジアを中心にすべて海外での感染と報告され、県内での 2 次感染は見られなかった。また、ダニ媒介感染症では、つつが虫病及び日本紅斑熱の患者数が増加し、県内での感染地域の拡大が見られた。

2. 1. 2 定点把握対象疾病

表 5 に週報疾病別年間患者数を、表 6 に月報疾病別年間患者数を示す。

週報対象疾病のうち、インフルエンザ定点及び小児科定点対象疾病で 2016 年の患者数が多い疾病は、インフルエンザ 66,751 人、感染性胃腸炎 53,815 人、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9,984 人、流行性耳下腺炎 7,799 人、の順であった。2015 年と比較すると、流行性耳下腺炎 [2,624 人→7,799 人]、インフルエンザ [43,699 人→66,751 人]、及びヘルパンギーナ [2,883 人→4,276 人] は患者数が増加し、手足口病 [18,344 人→1,475 人]、伝染性紅斑 [2,867 人→1,723 人]、及び A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 [13,444 人→9,984 人] は患者数が減少した。眼科定点対象疾病では、流行性角結膜炎の患者数が [1,473 人→706 人] と減少した。基幹定点対象疾病では、マイコプラズマ肺炎 [191 人→508 人] と感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。） [94 人→200 人] の患者数が増加した。

月報対象疾病のうち性感染症では、淋菌感染症の患者数が 2 年続けて減少した。薬剤耐性菌感染症では、顕著な変動はみられなかった。

表4 全数把握対象疾病の年間患者数（届出のあった疾病）

（2017年10月30日現在の当情報センターにおける把握）

	疾 病 名	2014年患者数	2015年患者数	2016年患者数
二類	結核	1,312	1,215	1,158
三類	コレラ	0	1	0
	細菌性赤痢	4	3	5
	腸管出血性大腸菌感染症	114	103	129
	腸チフス	1	2	0
	パラチフス	0	3	0
四類	E型肝炎	3	6	3
	A型肝炎	25	11	8
	チクングニア熱	0	1	0
	つつが虫病	3	5	9
	デング熱	7	9	16
	日本紅斑熱	11	9	13
	日本脳炎	1	0	0
	マラリア	2	0	0
	野兔病	1	0	0
	レジオネラ症	50	63	71
	レプトスピラ症	0	1	0
五類	アメーバ赤痢	44	44	48
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	11	21	16
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*1}	12	75	75
	急性脳炎 ^{*B}	16	18	52
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5	7	10
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12	17	27
	後天性免疫不全症候群	35	28	34
	ジアルジア症	3	2	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	13	11	17
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2	1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	98	108	142
	水痘（入院例） ^{*1}	7	13	9
	先天性風しん症候群	1	0	0
	梅毒	42	89	184
	播種性クリプトコックス症 ^{*1}	1	2	3
	破傷風	1	3	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3	0	0
	風しん	7	5	9
	麻しん	19	4	20

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

^{*1}2014年9月19日より追加。

表5 疾病別年間患者数（週報）

疾 病 名	2014年		2015年		2016年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
インフルエンザ ^{*A}	63,157	319.58	43,699	219.72	66,751	335.48
RSウイルス感染症	4,078	31.86	5,112	39.64	4,068	31.53
咽頭結膜熱	2,975	23.16	3,402	26.42	3,023	23.42
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8,320	64.88	13,444	104.38	9,984	77.33
感染性胃腸炎	49,331	384.75	49,328	382.97	53,815	416.92
水痘	6,713	52.37	3,258	25.29	2,903	22.49
手足口病	1,623	12.63	18,344	142.42	1,475	11.43
伝染性紅斑	665	5.18	2,867	22.26	1,723	13.35
突発性発しん	3,350	26.11	3,040	23.60	2,680	20.76
百日咳	72	0.56	132	1.02	102	0.79
ヘルパンギーナ	5,899	45.75	2,883	22.36	4,276	33.16
流行性耳下腺炎	1,179	9.19	2,624	20.36	7,799	60.43
急性出血性結膜炎	11	0.31	19	0.54	15	0.43
流行性角結膜炎	1,283	36.66	1,473	42.09	706	20.20
細菌性髄膜炎 ^{*B}	32	2.47	18	1.29	33	2.36
無菌性髄膜炎	29	2.23	42	3.01	50	3.57
マイコプラズマ肺炎	86	6.69	191	13.67	508	36.29
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0.00	1	0.07	1	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルス)	81	6.33	94	6.71	200	14.29

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表6 疾病別年間患者数（月報）

疾 病 名	2014年		2015年		2016年	
	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり	患者数	定点あたり
性器クラミジア感染症	873	18.98	880	19.13	862	18.74
性器ヘルペスウイルス感染症	317	6.89	303	6.59	310	6.74
尖圭コンジローマ	144	3.13	185	4.02	171	3.72
淋菌感染症	374	8.13	348	7.57	297	6.46
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	525	37.50	408	29.14	451	32.21
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	75	5.36	69	4.93	71	5.07
薬剤耐性緑膿菌感染症	10	0.71	4	0.29	9	0.64
薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*1}	2	0.14	—	—	—	—

^{*1}2014年9月19日より全数把握対象疾病に変更。

2. 2 結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病の動向

2016年の感染症発生動向調査事業における週報及び月報の患者情報を解析し、週（月）別患者数、保健所別患者数、及び年齢階級別患者数を求めた。STD対象疾病では性別・年齢階級別患者数を求めた。これらの統計表は付表として本誌54～66ページに掲載した。

全数把握対象疾病のうち患者数の多い結核、腸管出血性大腸菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、梅毒及び定点把握対象疾病について、各疾病の動向を以下に示す。

(1) 結核

結核の年間患者数は1,158人で、昨年の1,215人より減少した。2010～2013年は年間1,500人前後で推移していたが、2014年以降は、やや減少傾向を示している。性別分布は男性665人、女性493人であった。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満3%、10歳代1%、20歳代5%、30歳代6%、40歳代10%、50歳代10%、60歳代13%、70歳代20%、80歳代26%、90歳以上7%と、70歳以上の高齢者が全体の53%を占めていた。

病型別では、肺結核が569人(49%)、肺結核及びその他の結核が52人(4%)、その他の結核が250人(22%)、無症状病原体保有者が286人(25%)、疑似症患者が1人であった。

図 3-1 結核の患者発生状況

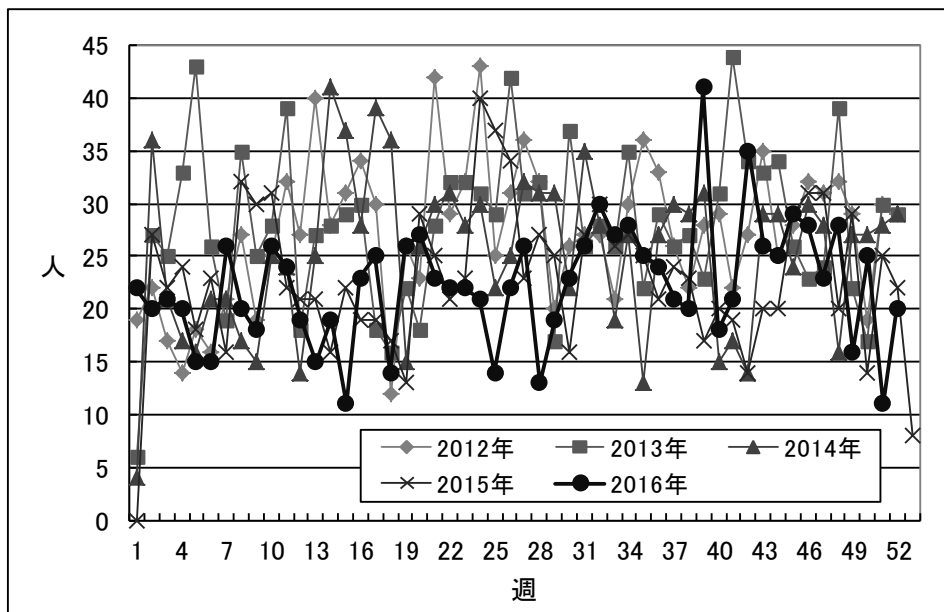
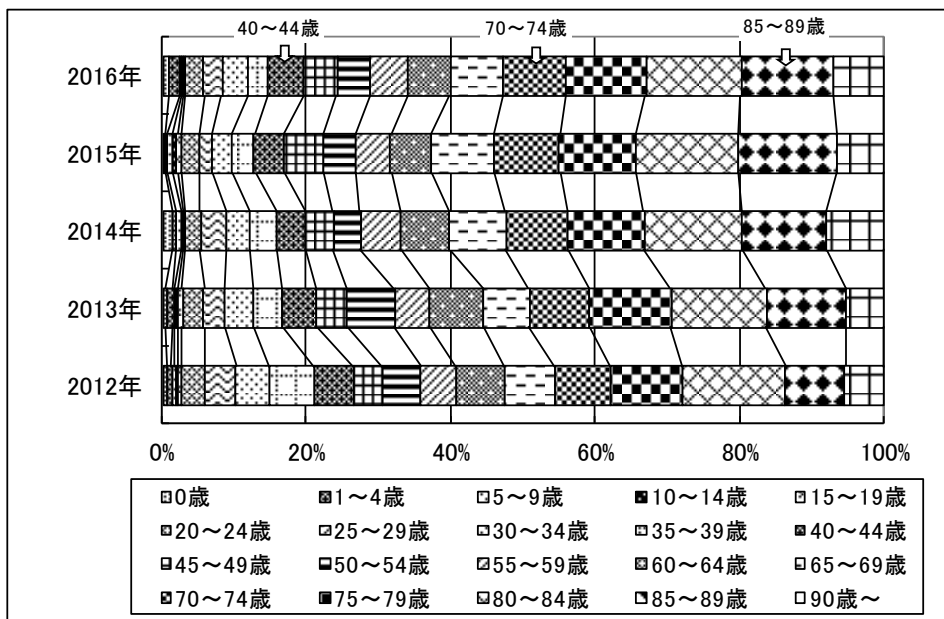


図 3-2 結核の年齢階級別患者発生割合



(2) 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の年間患者数は129人で、昨年の103人より増加した。27週（7月上旬）から35週（9月上旬）までが患者発生の多い時期となっていた。性別分布は男性58人、女性71人であった。30～31週（7月下旬から8月上旬）には、保育施設での感染に関連する患者が35人報告された。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満43%、10歳代7%、20歳代13%、30歳代16%、40歳代7%、50歳代4%、60歳代6%、70歳以上5%であった。

有症者は86人で、うち2人が溶血性尿毒症症候群を発症し、無症状病原体保有者は43人であった。O血清型別では、O157が83人、O26が39人の順で多くなった。

図4-1 腸管出血性大腸菌感染症の患者発生状況

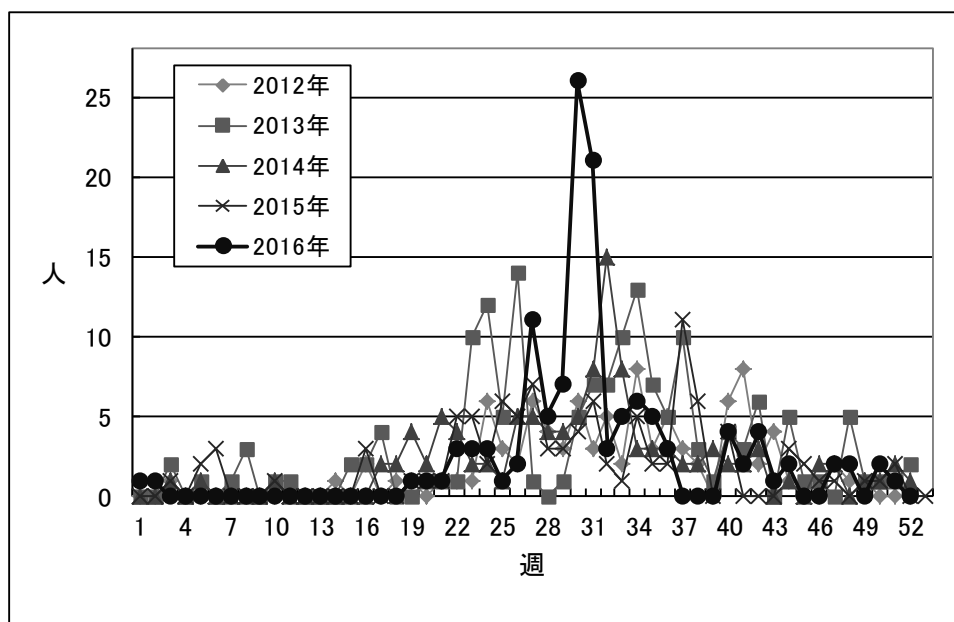
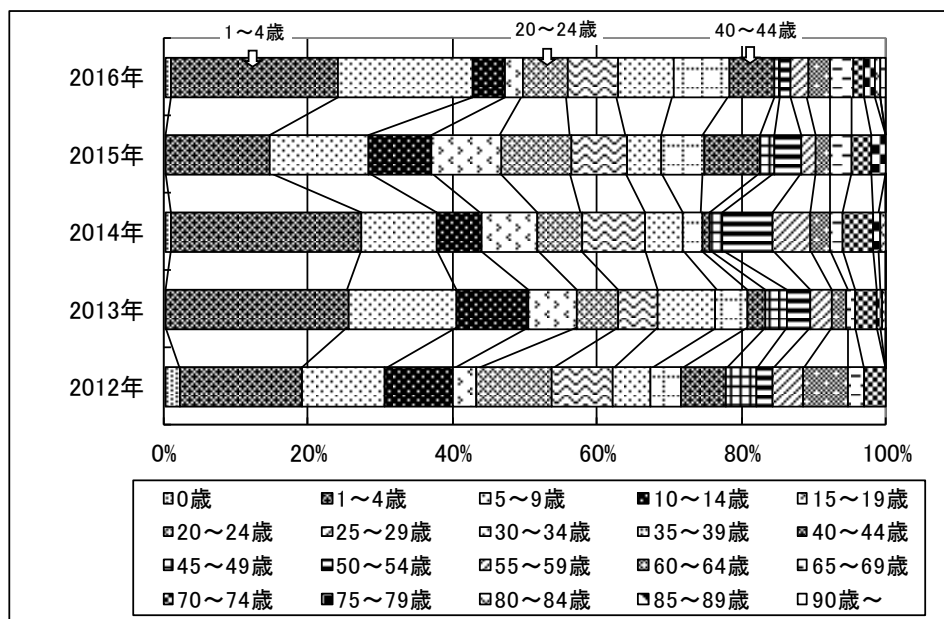


図4-2 腸管出血性大腸菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(3) 侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症の年間患者数は142人で、昨年の108人より増加した。性別分布は男性82人、女性60人であった。本疾病は、2013年4月1日より全数把握対象疾病に追加され、冬から初夏にかけて患者発生が増加する傾向が見られる。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満29%、10歳代1%、20歳代1%、30歳代3%、40歳代4%、50歳代5%、60歳代18%、70歳代18%、80歳代17%、90歳以上4%となり、4歳以下の乳幼児と65歳以上の高齢者とで全体の75%を占めていた。

4歳以下の患者33人中31人はワクチン接種をしていたが、65歳以上の患者74人中、ワクチン接種有りは8人、接種無しが29人、不明が37人であった。

図 5-1 侵襲性肺炎球菌感染症の患者発生状況

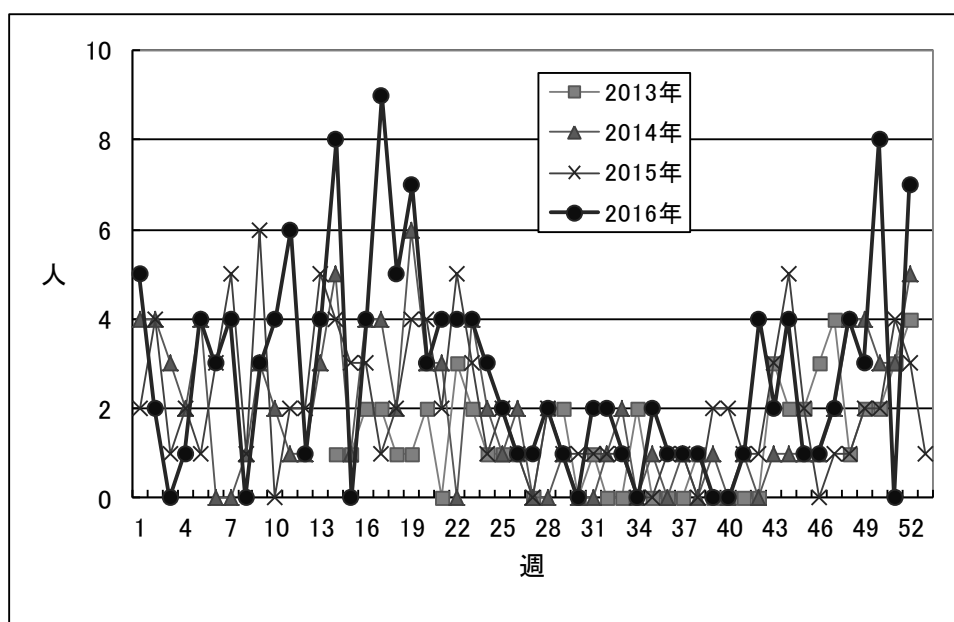
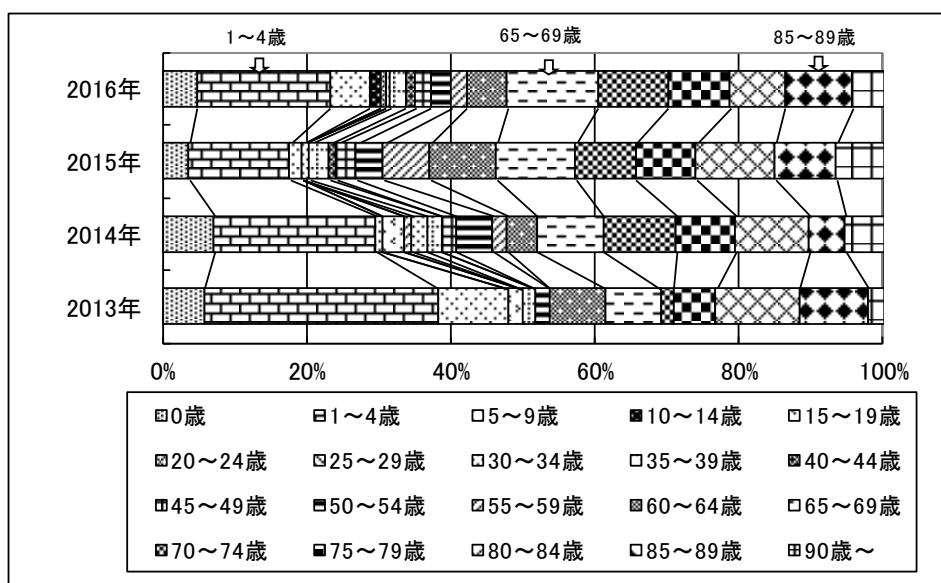


図 5-2 侵襲性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(4) 梅毒

梅毒の年間患者数は184人で、昨年の89人より2倍以上増加した。特に、若い女性患者の増加が著しく、性別分布は男性143人、女性41人となった。

年齢階級別患者発生割合は10歳未満1%、10歳代3%、20歳代28%、30歳代22%、40歳代22%、50歳代14%、60歳代5%、70歳代3%、80歳以上2%となり、20～40歳代の患者数が多くなっている。

感染原因として、9割が性的接触を報告しており、母子感染による先天梅毒が1例あった。

図 6-1 梅毒の患者発生状況

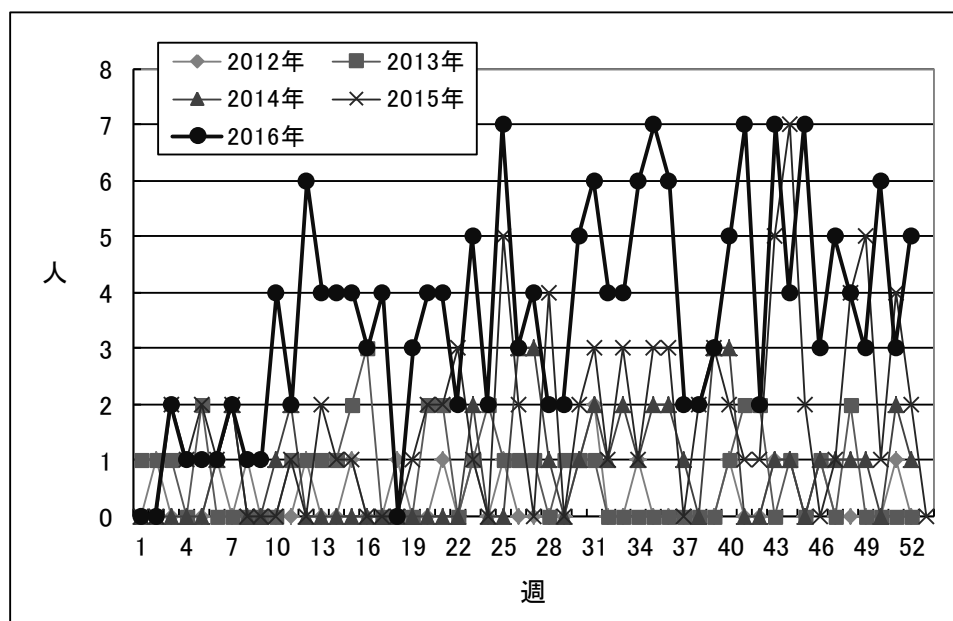


図 6-2 梅毒の年齢階級別患者発生割合

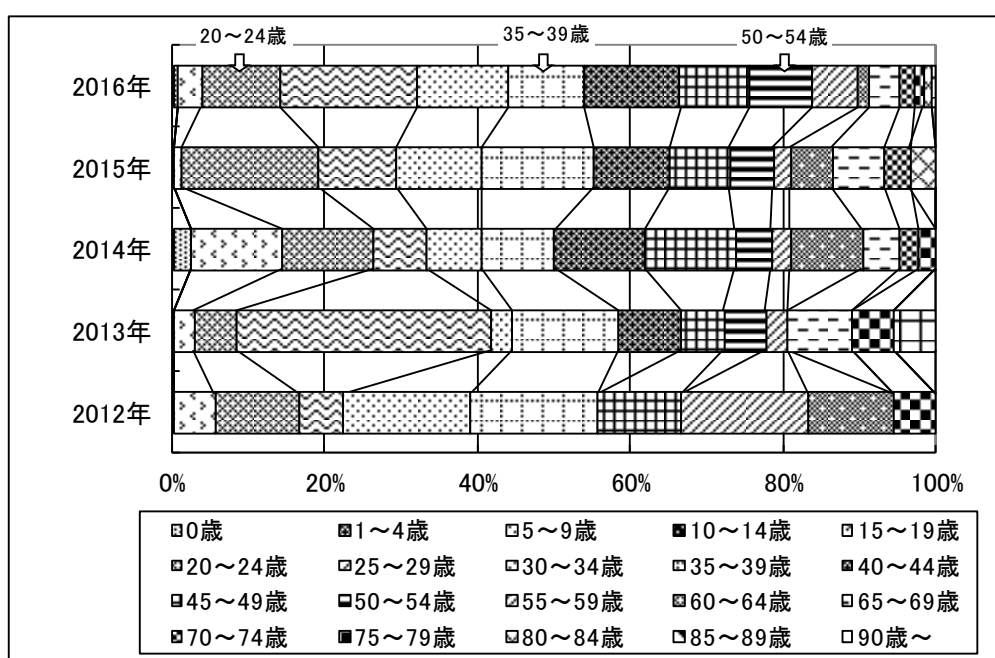


図 6-3 梅毒の年齢階級別患者発生状況（男性）

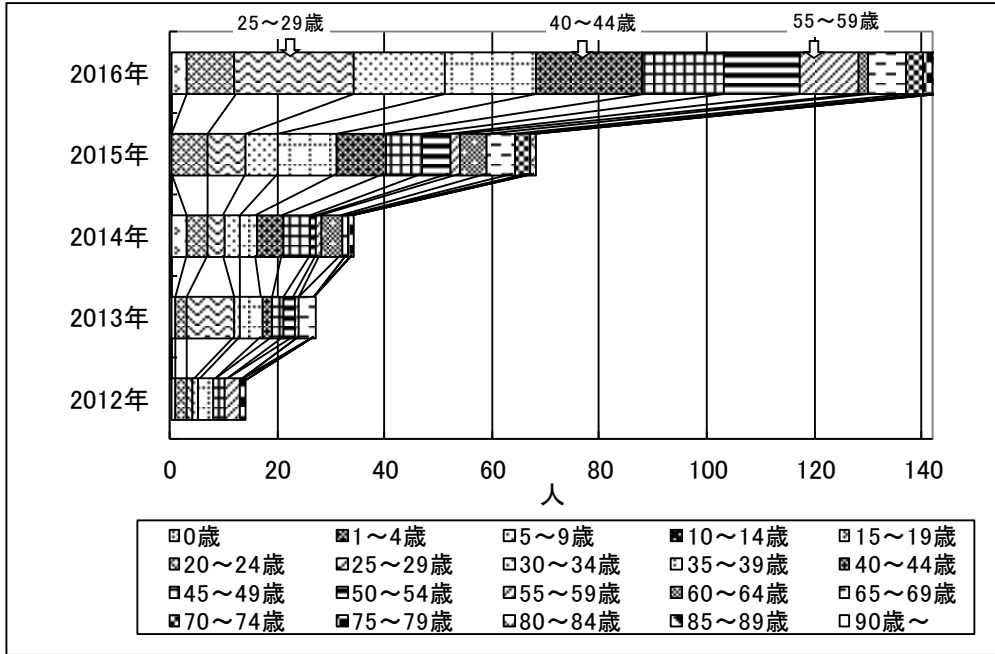
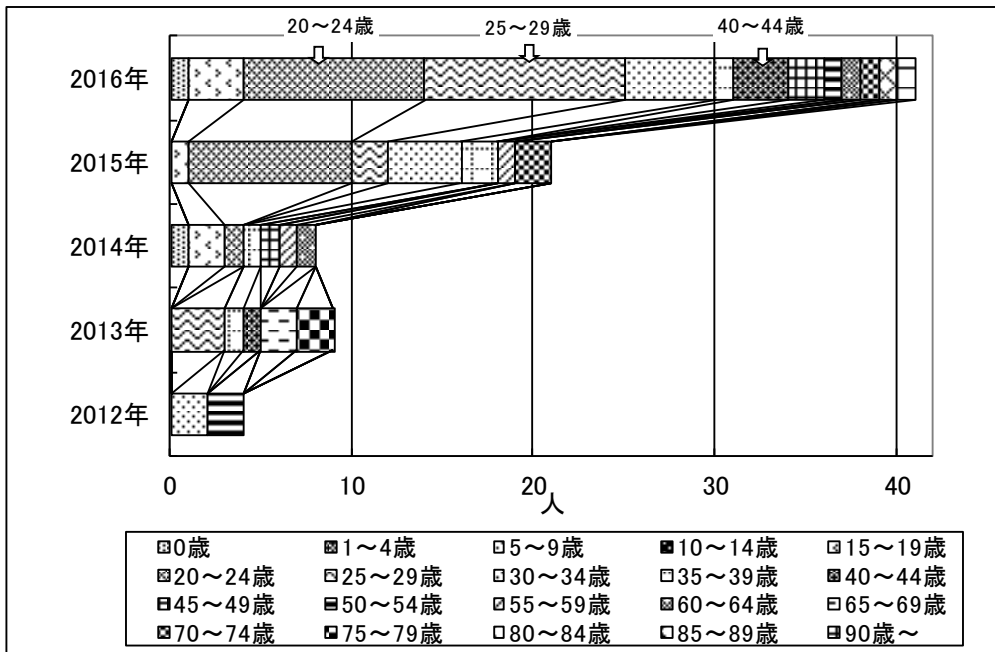


図 6-4 梅毒の年齢階級別患者発生状況（女性）



(5) インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

年間患者数は66,751人（定点あたり335.48人）で、昨年の43,699人（219.72人）より増加した。週別定点あたり患者数は5週（2月上旬）に定点あたり30人を超えて警報レベルとなり、9週（3月上旬）に最大のピーク（41.20人）を示した後、速やかに減少して、14週（4月上旬）には定点あたり10人を、18週（5月上旬）には定点あたり1.0人を下回った。また、年末47週（11月下旬）から流行開始の目安とされる定点あたり1.0人を超えて流行期に入った。

当研究所で行った検査ではA(H1N1)pdm09、A(H3N2)型、B型（Yamagata系統）及びB型（Victoria系統）のインフルエンザウイルスを269件検出した。年初から4週（1月下旬）は主にA(H1N1)pdm09を、5週から9週（3月上旬）は複数の型を検出し、その後21週（5月下旬）にかけて主にB型の検出が継続した。また、39週（9月下旬）から年末までは、主にA(H3N2)型を検出した。

年齢階級別患者発生割合では、9歳以下の患者が全体の55%、14歳以下の患者が全体の74%を占めていた。

図7-1 インフルエンザの週別定点あたり患者発生状況

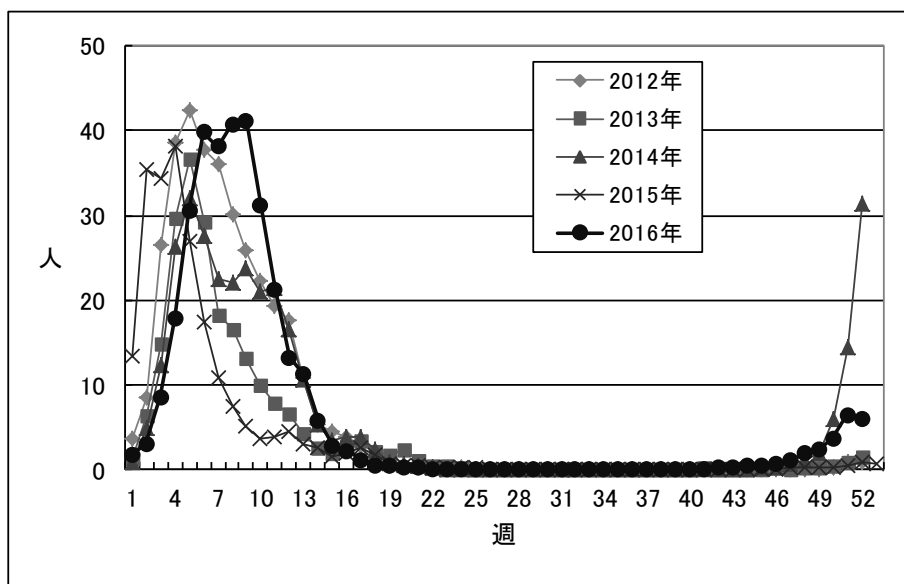
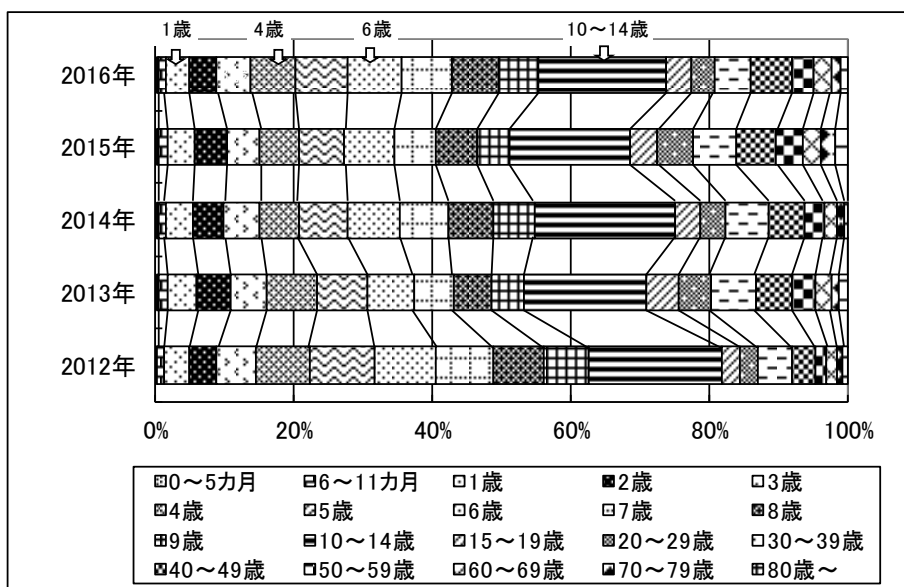


図7-2 インフルエンザの年齢階級別患者発生割合



(6) RSウイルス感染症

本疾病は2003年11月に小児科定点対象疾病となった。患者報告には検査診断が必要だが、2011年10月より迅速診断キットによる抗原検査の保険適用が拡大され、従来入院患者に加えて外来患者の乳児（1歳未満）等にも適用可能となっている。

2016年の年間患者数は4,068人（定点あたり31.53人）で、過去最大であった昨年の5,112人（39.64人）より減少した。

週別定点あたり患者数は35週（9月上旬）から増加し始め、40週（10月上旬）に最大のピーク（1.63人）を示した後、年末まで患者数の多い状態で推移した。

年齢階級別患者発生割合では、0歳の患者が全体の38%、1歳以下の患者が70%、2歳以下の患者が87%を占めていた。

図8-1 RSウイルス感染症の週別定点あたり患者発生状況

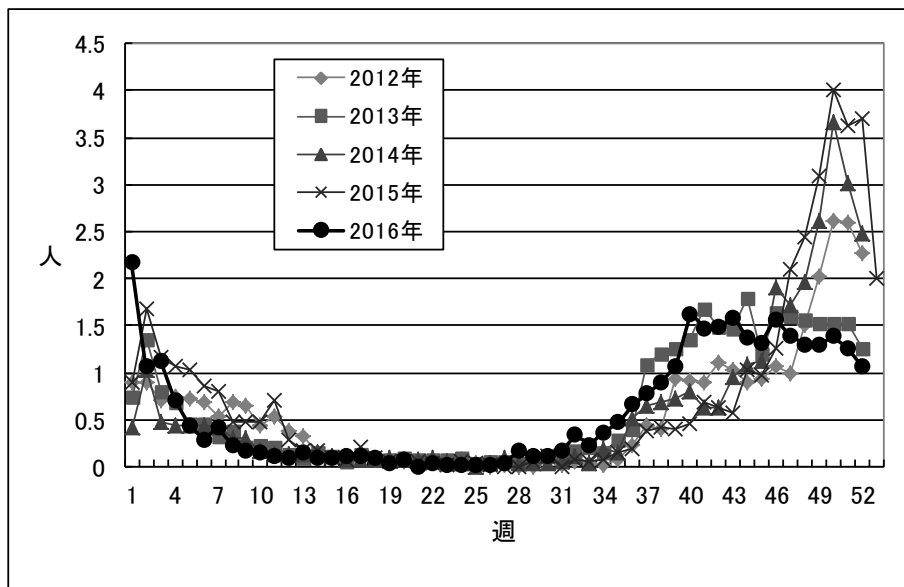
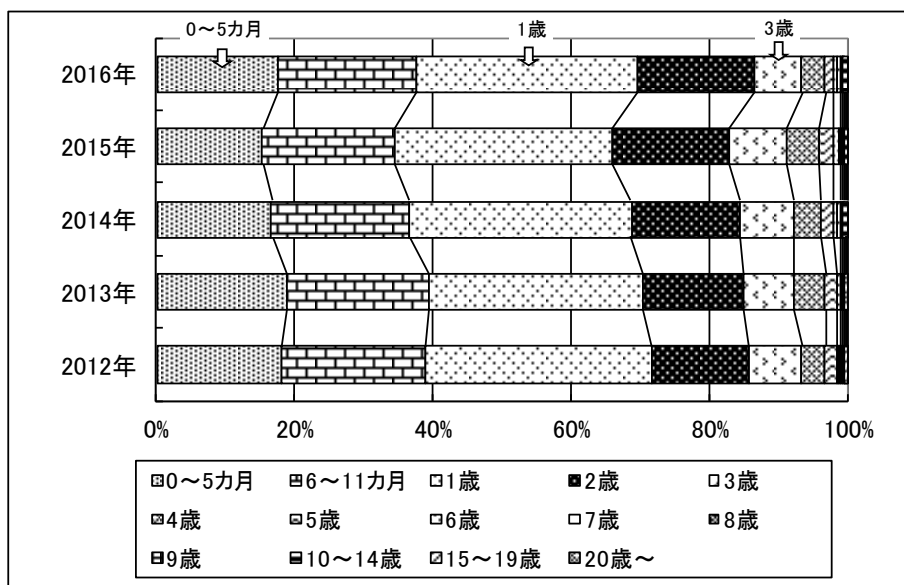


図8-2 RSウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合



(7) 咽頭結膜熱

年間患者数は3,023人（定点あたり23.42人）で、昨年の3,402人（26.42人）より減少した。

例年は夏に患者数が増加するが、2016年は7週（2月中旬）、24週（6月中旬）、35週（9月上旬）及び50週（12月中旬）に定点あたり患者数0.6人程度のピークを示しながら、大きな流行はなく推移した。

年齢階級別患者発生割合は1歳22%、2歳15%、3歳15%、4歳12%、5歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の79%、0～9歳の患者が全体の95%を占めていた。

図9-1 咽頭結膜熱の週別定点あたり患者発生状況

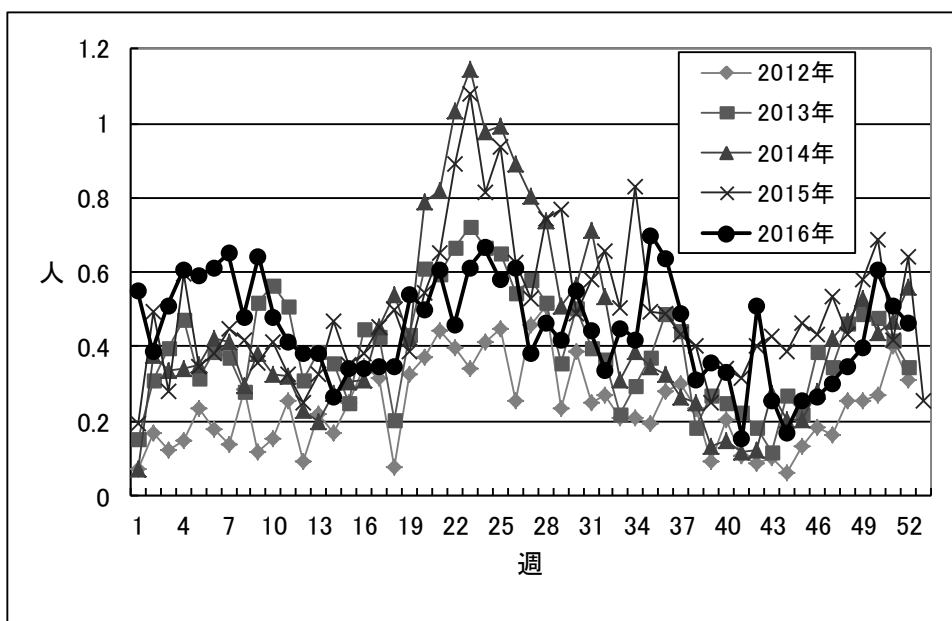
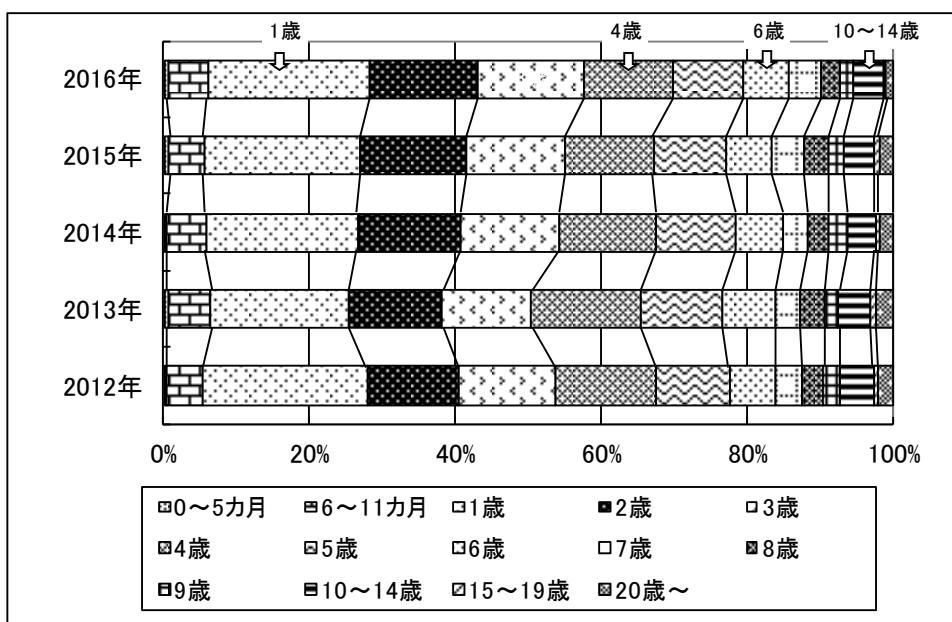


図9-2 咽頭結膜熱の年齢階級別患者発生割合



(8) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間患者数は9,984人（定点あたり77.33人）で、昨年の13,444人（104.38人）より減少した。

例年冬期から初夏に患者数の多い疾病であり、2016年の週別定点あたり患者数は、4週（1月下旬）と21週（5月下旬）にピーク（2.3～2.5人）を示した後、28週（7月中旬）以降は、比較的患者数が少ない状態が続いた。

年齢階級別患者発生割合は5歳14%、4歳12%、6歳12%、7歳10%、3歳10%の順で多く、1～9歳の患者が全体の82%、1～14歳の患者が全体の94%を占めていた。

図10-1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別定点あたり患者発生状況

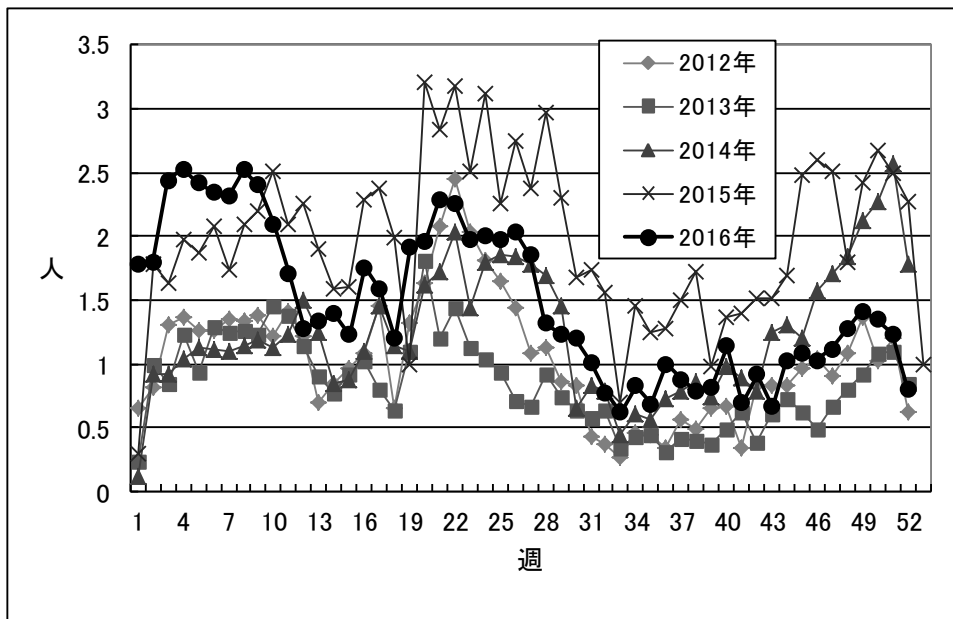
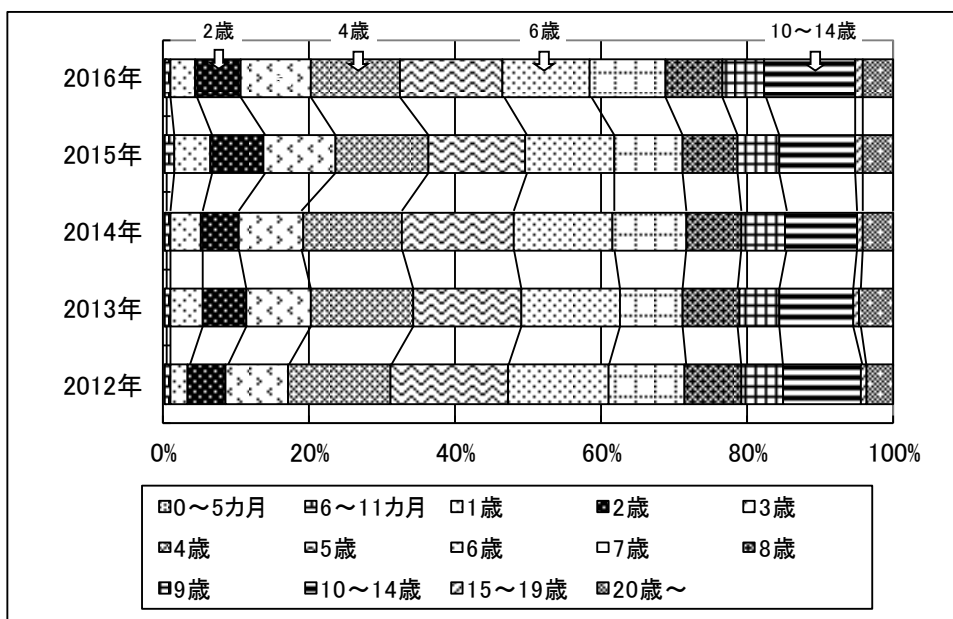


図10-2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢階級別患者発生割合



(9) 感染性胃腸炎

年間患者数は53,815人（定点あたり416.92人）で、昨年の49,328人（382.97人）より増加した。

週別定点あたり患者数は、1週（1月上旬）から26週（6月下旬）まで、大型連休期間中の18週には患者数の落ち込みがみられたが、ほぼ横ばいで推移した。その後、秋期に向けて減少したが、44週（11月上旬）以降に増加し、48週（12月上旬）には警報レベル開始基準値である20人を超え、50週（12月中旬）にピーク（24.38人）を示した。

年齢階級別患者発生割合は1歳13%、4歳11%、2歳10%、3歳10%、5歳10%の順で多く、0～5歳の患者が全体の60%、0～9歳の患者が全体の81%を占めていた。

図11-1 感染性胃腸炎の週別定点あたり患者発生状況

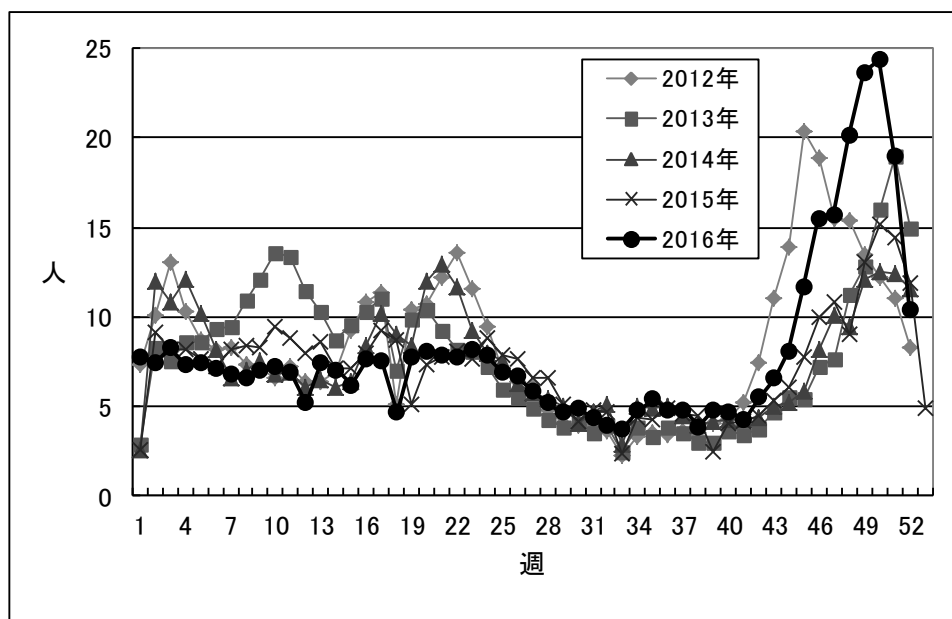
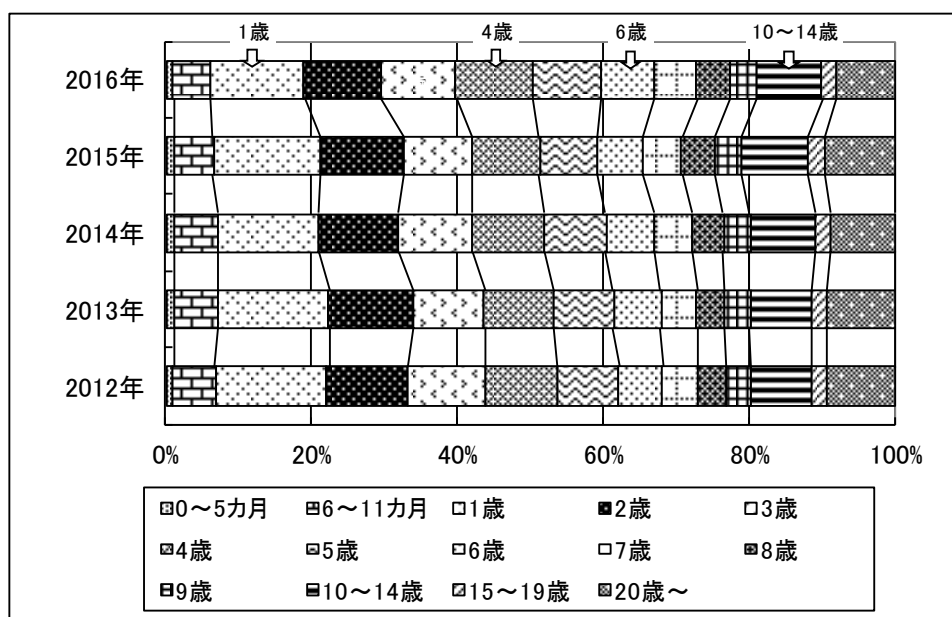


図11-2 感染性胃腸炎の年齢階級別患者発生割合



(10) 水痘

年間患者数は2,903人（定点あたり22.49人）で、昨年の3,258人（25.29人）より減少した。

2014年10月1日から水痘ワクチンが定期接種化され、これに先立って、2014年9月19日から24時間以上の入院を要した水痘症例が全数届出対象となった。

2015～2016年の小児科定点からの週別定点あたり患者数は、ワクチン接種の効果によるものか、以前よりも少なく、小さい変動で推移している。

年齢階級別患者発生割合は5歳17%、4歳14%、6歳13%、7歳9%、3歳8%の順で多く、0～7歳の患者が全体の81%を占めていた。昨年よりも、2～4歳の患者割合が減少した。

図12-1 水痘の週別定点あたり患者発生状況

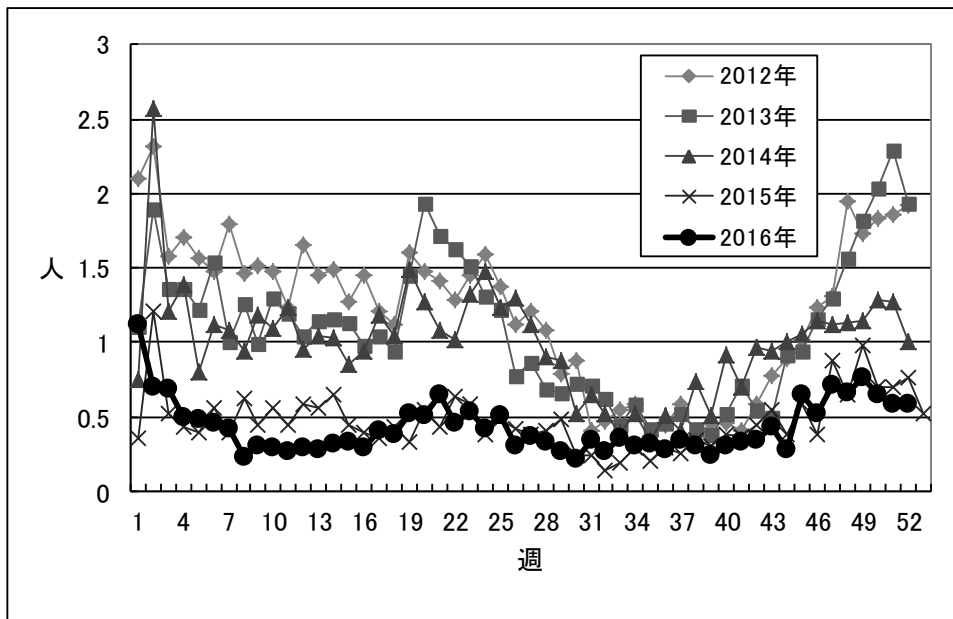
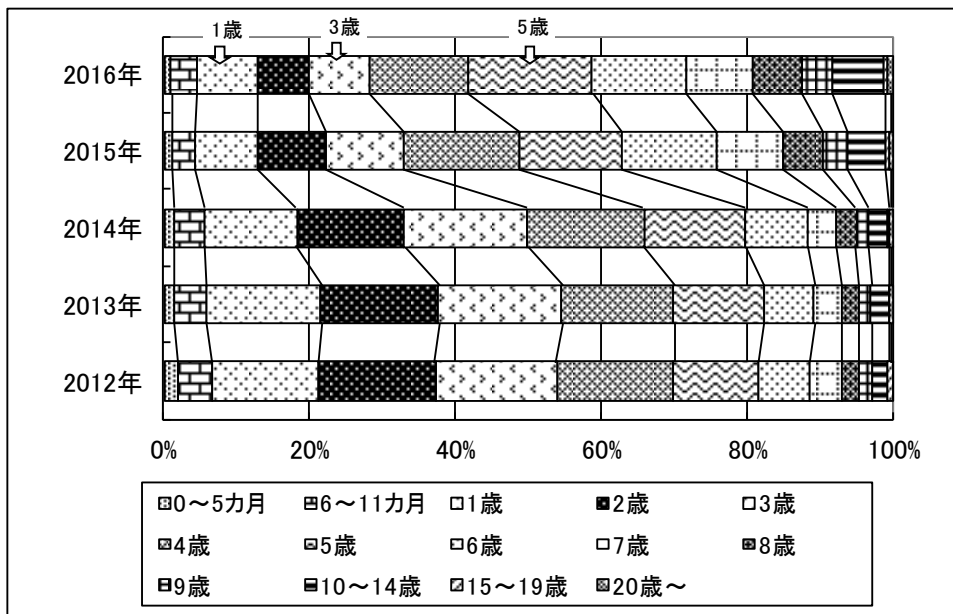


図12-2 水痘の年齢階級別患者発生割合



(11) 手足口病

年間患者数は1,475人（定点あたり11.43人）で、昨年の患者数18,344人（142.42人）より大幅に減少し、一昨年の患者数とほぼ等しくなった。

週別定点あたり患者数は、27週（7月上旬）の0.64人を最高に、1年を通じて患者数が少ない状態で推移した。

年齢階級別患者発生割合は1歳30%、2歳20%、3歳11%、4歳11%、5歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の89%を占めていた。

当研究所で行った検査では、主にコクサッキーウイルスA6型（CA6）が検出された。

図13-1 手足口病の週別定点あたり患者発生状況

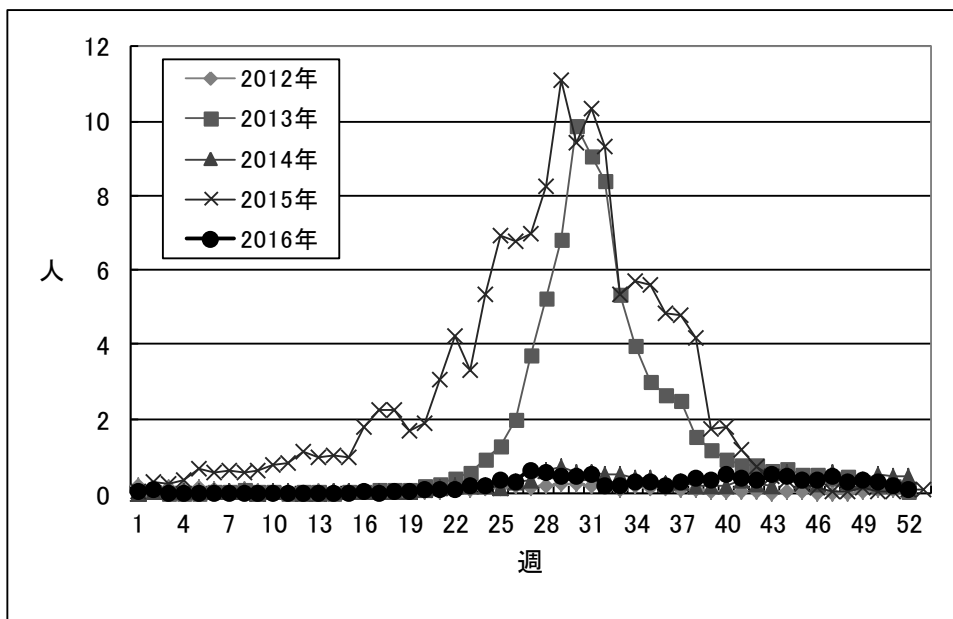
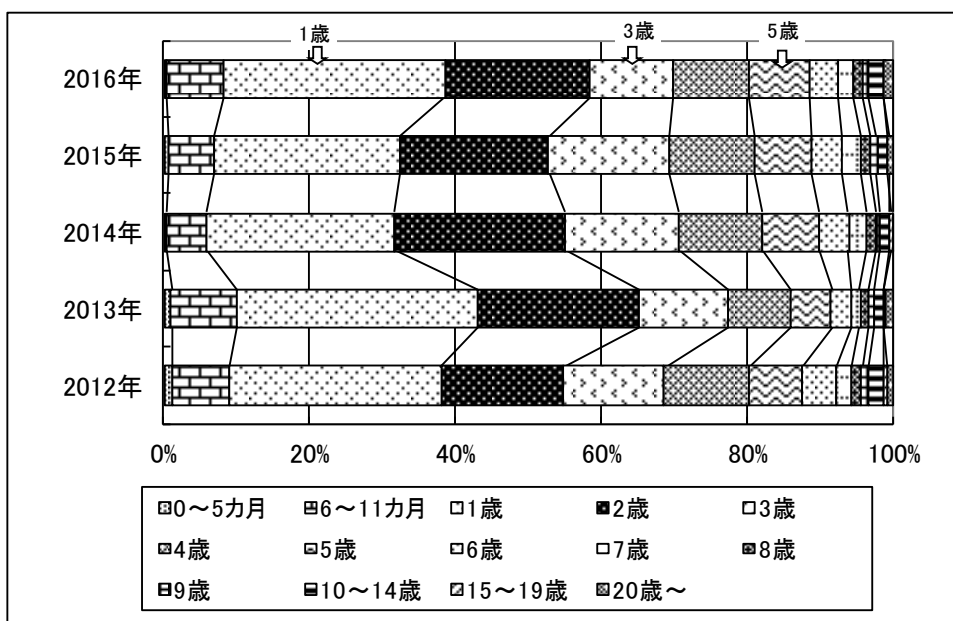


図13-2 手足口病の年齢階級別患者発生割合



(12) 伝染性紅斑

年間患者数は1,723人（定点あたり13.35人）で、昨年の2,867人（22.26人）より減少した。

週別定点あたり患者数は、2週（1月中旬）の0.63人をピークに減少傾向を示し、30週（7月下旬）以降は0.20人未満で推移した。

年齢階級別患者発生割合は5歳18%、4歳15%、6歳14%、7歳10%、3歳9%の順で多く、0～9歳の患者が全体の93%を占めていた。

図14-1 伝染性紅斑の週別定点あたり患者発生状況

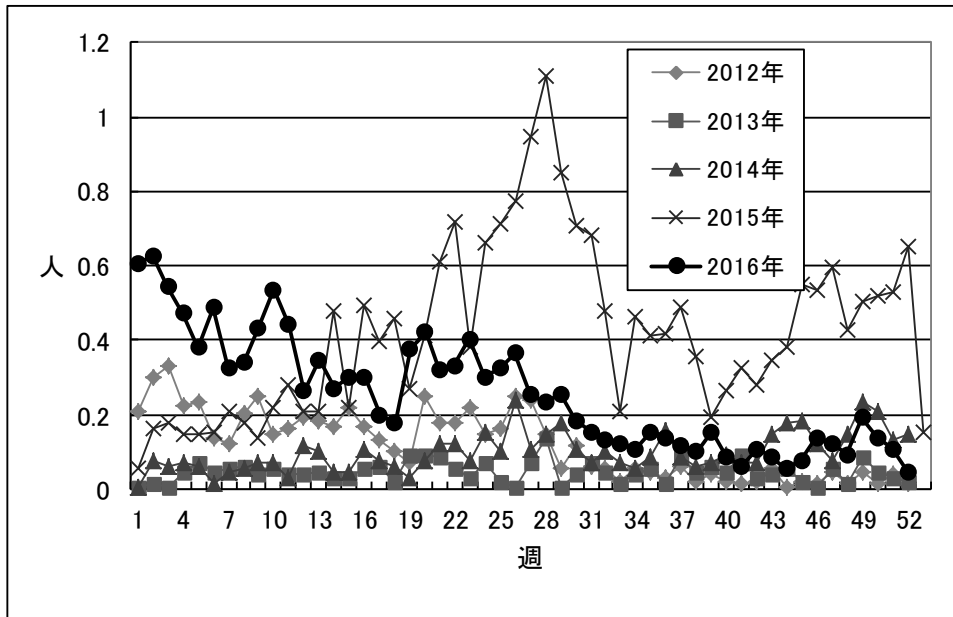
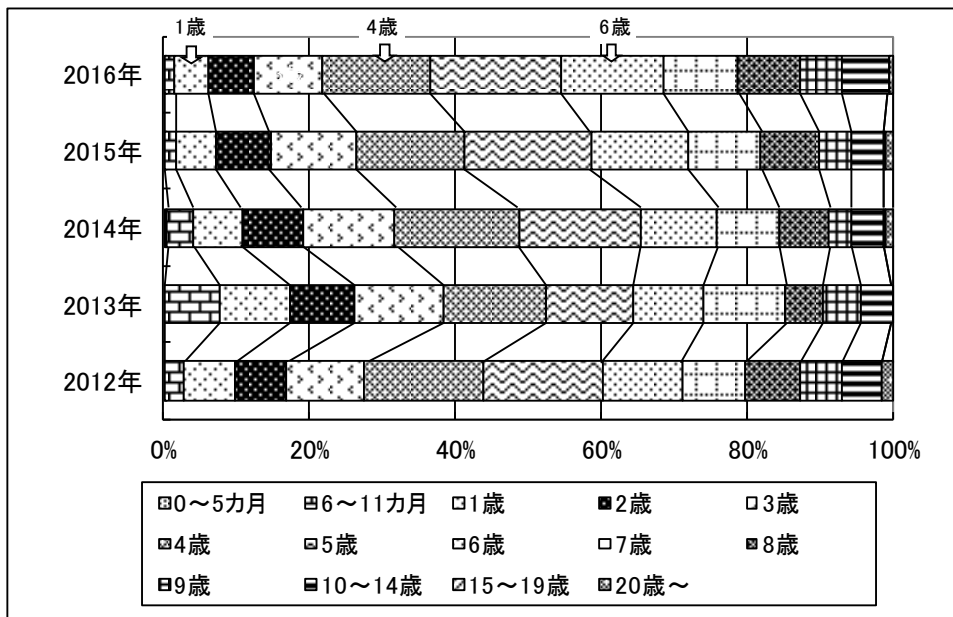


図14-2 伝染性紅斑の年齢階級別患者発生割合



(13) 突発性発しん

年間患者数は2,680人（定点あたり20.76人）で、昨年の3,040人（23.60人）より減少した。年間患者数の経年的推移に多少のバラツキはみられるが、2000年以降緩やかな減少傾向を続けている。本疾病は1年を通じて患者が発生し、季節性が明瞭でない。週別定点あたり患者数は、0.20～0.61人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合は、0歳が41%、1歳が48%、2歳が8%を占めていた。

図15-1 突発性発しんの週別定点あたり患者発生状況

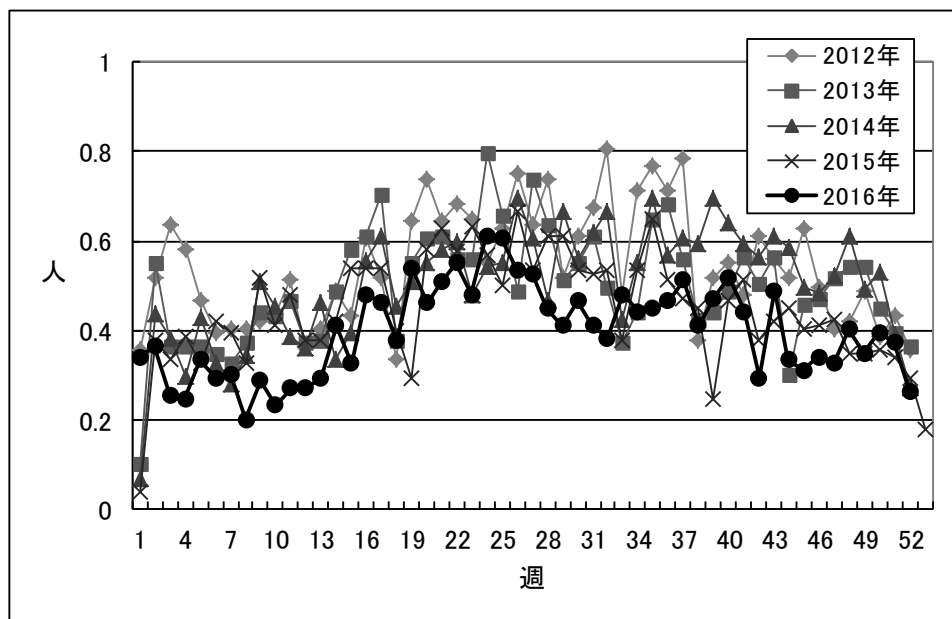
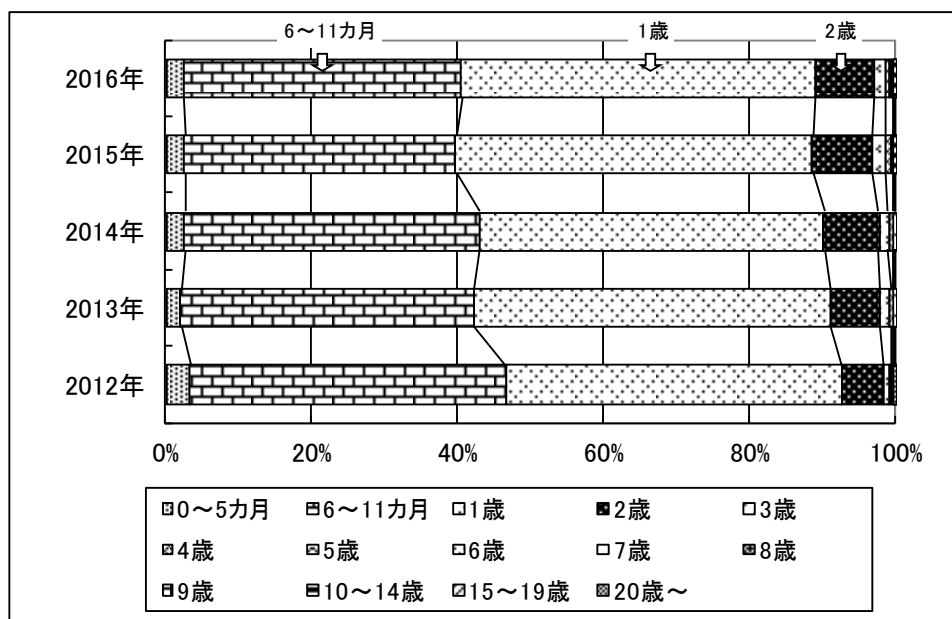


図15-2 突発性発しんの年齢階級別患者発生割合



(14) 百日咳

本疾病は患者発生数が比較的少ない疾病である。2016年の年間患者数は102人（定点あたり0.79人）で、昨年（2015年）の132人（1.02人）より減少した。

週別定点あたり患者数は、0.00～0.06人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合は、0歳15%、1～4歳25%、5～9歳28%、10歳代22%、20歳以上10%となり、小児科定点からの報告にもかかわらず成人患者の発生割合も10%を占めていた。

図16-1 百日咳の週別定点あたり患者発生状況

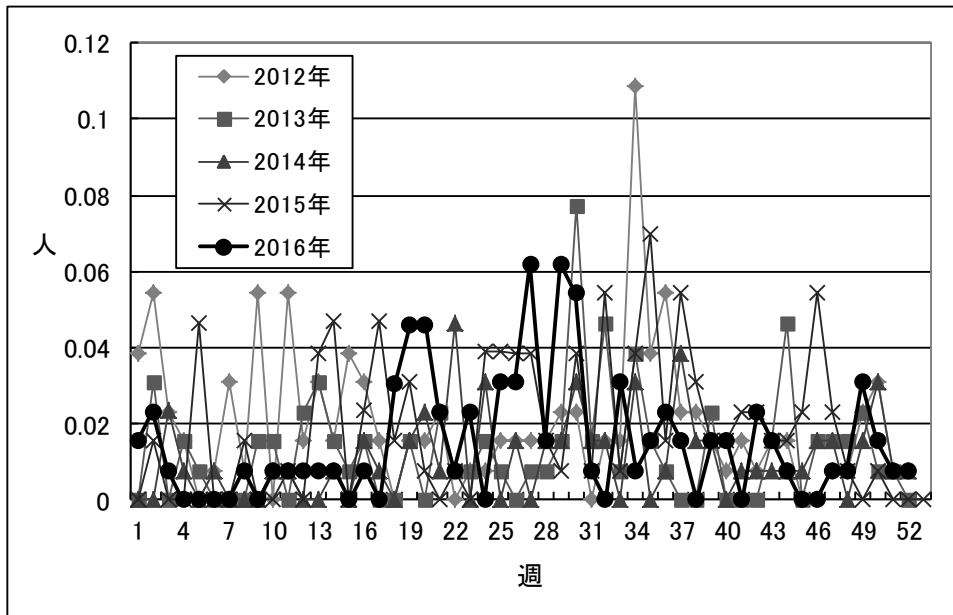
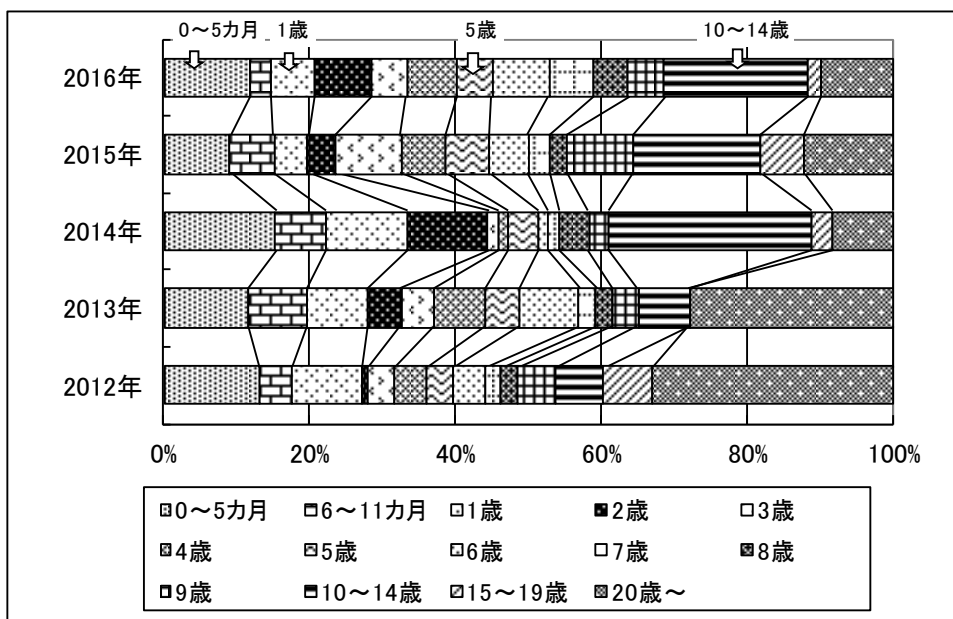


図16-2 百日咳の年齢階級別患者発生割合



(15) ヘルパンギーナ

年間患者数は4,276人（定点あたり33.16人）で、昨年の2,883人（22.36人）より増加した。

週別定点あたり患者数は、21週（5月下旬）頃から増加が始まり、28週（7月中旬）にピーク（5.41人）を示した後減少に転じ、48週（12月上旬）頃に終息した。

年齢階級別患者発生割合は1歳28%、2歳22%、3歳14%、4歳11%、0歳8%の順で多く、0～5歳の患者が全体の91%を占めていた。

図17-1 ヘルパンギーナの週別定点あたり患者発生状況

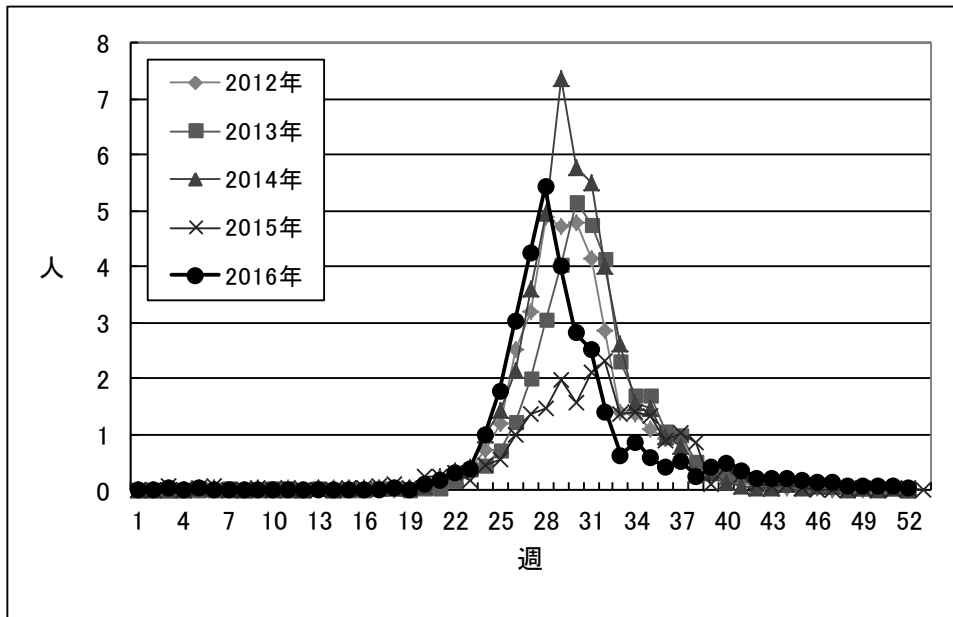
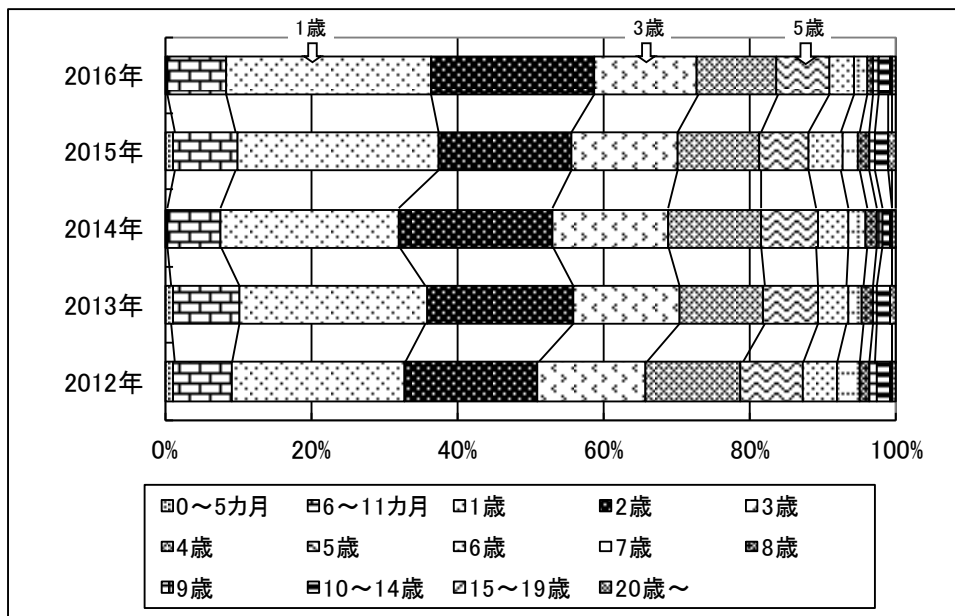


図17-2 ヘルパンギーナの年齢階級別患者発生割合



(16) 流行性耳下腺炎

年間患者数は7,799人（定点あたり60.43人）で、昨年の2,624人（20.36人）の約3倍に増加し、5年ぶりの流行となった。

週別定点あたり患者発生状況をみると、2015年43週（10月下旬）から増加傾向が続き、2016年42週（10月中旬）にピーク（1.98人）を示した後、減少に転じた。

年齢階級別患者発生割合は5歳17%、4歳14%、6歳14%、7歳11%、3歳10%の順で多く、2～9歳の患者が全体の86%を占めていた。

図18-1 流行性耳下腺炎の週別定点あたり患者発生状況

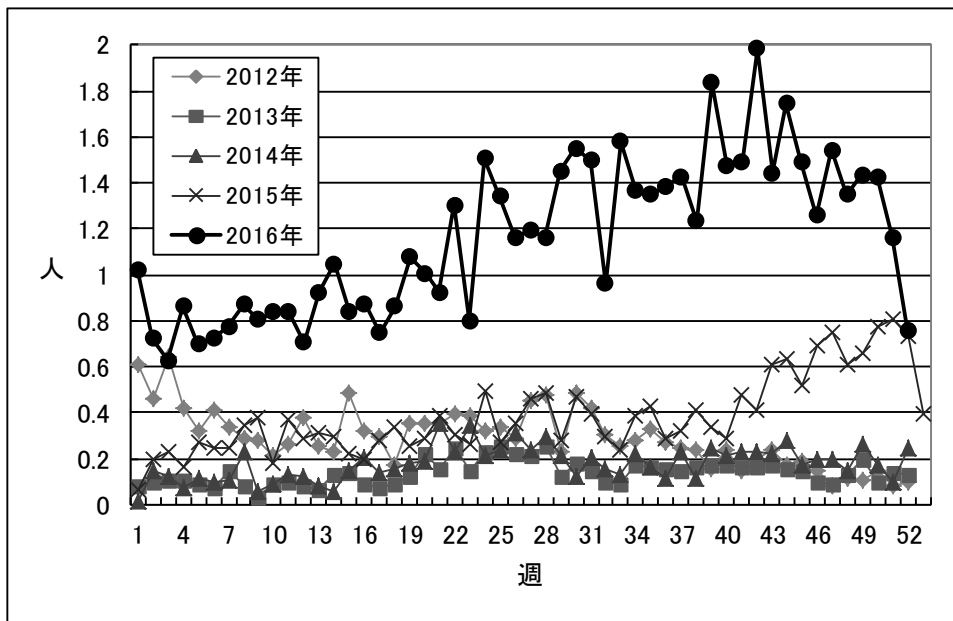
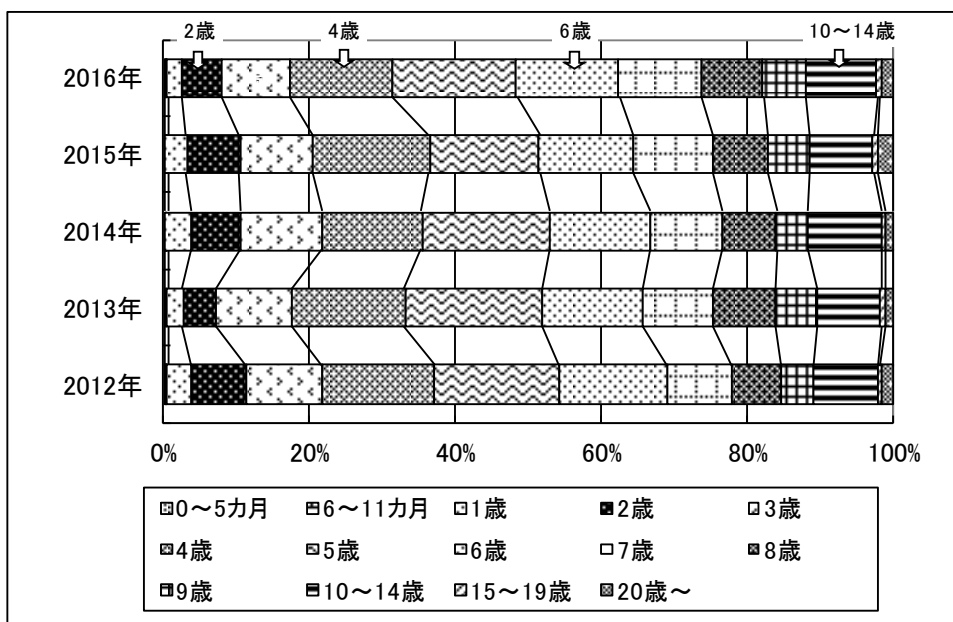


図18-2 流行性耳下腺炎の年齢階級別患者発生割合



(17) 急性出血性結膜炎

本疾病は、2007年以降患者数の少ない状態で推移している。2016年の年間患者数は15人（定点あたり0.43人）で、昨年（2015年）の19人（0.54人）より減少した。

年齢階級別患者発生割合は30歳代が27%と最も多くなり、20歳以上の患者が全体の87%を占めていた。

図19-1 急性出血性結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

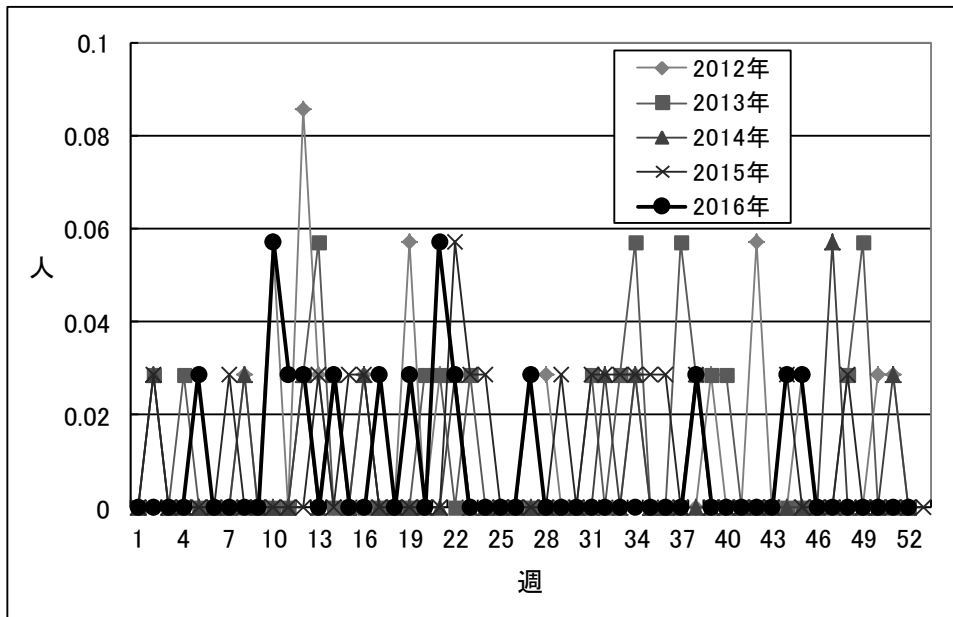
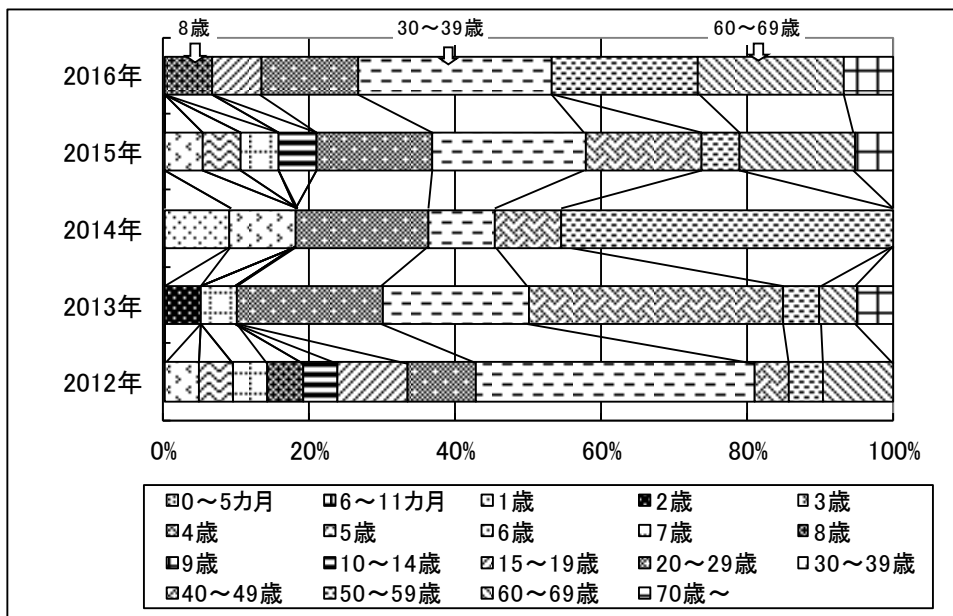


図19-2 急性出血性結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(18) 流行性角結膜炎

年間患者数は706人（定点あたり20.20人）で、昨年の1,473人（42.09人）より半減した。定点あたり患者数の週別変化に季節性は見られず、0.17～0.63人の間で推移した。

年齢階級別患者発生割合は0～9歳28%、30歳代20%がやや多いが、各年齢層で患者が発生していた。

図20-1 流行性角結膜炎の週別定点あたり患者発生状況

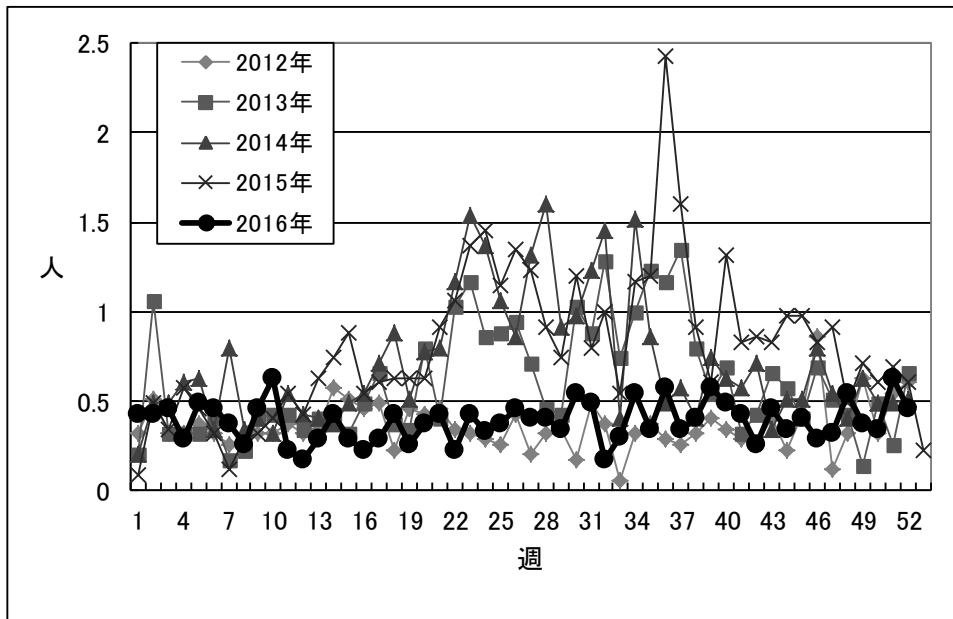
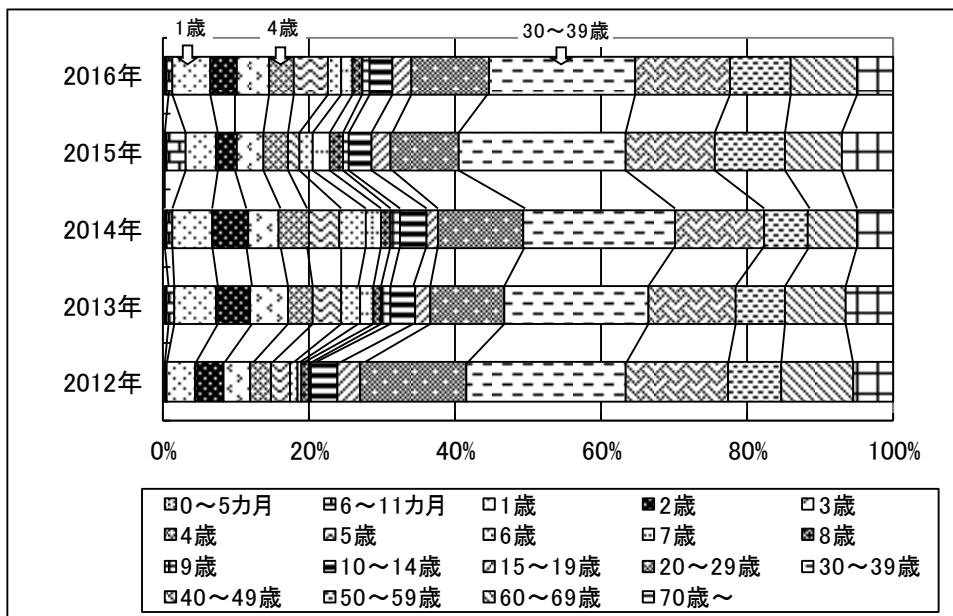


図20-2 流行性角結膜炎の年齢階級別患者発生割合



(19) 細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）
 年間患者数は33人（定点あたり2.36人）で、昨年の18人（1.29人）より増加し、一昨年と同レベルとなった。

患者の年齢分布は70歳以上が13人（39%）、55～59歳と60～64歳が各4人（12%）、0歳と5～9歳が各3人（9%）の順となっていた。

図 21-1 細菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

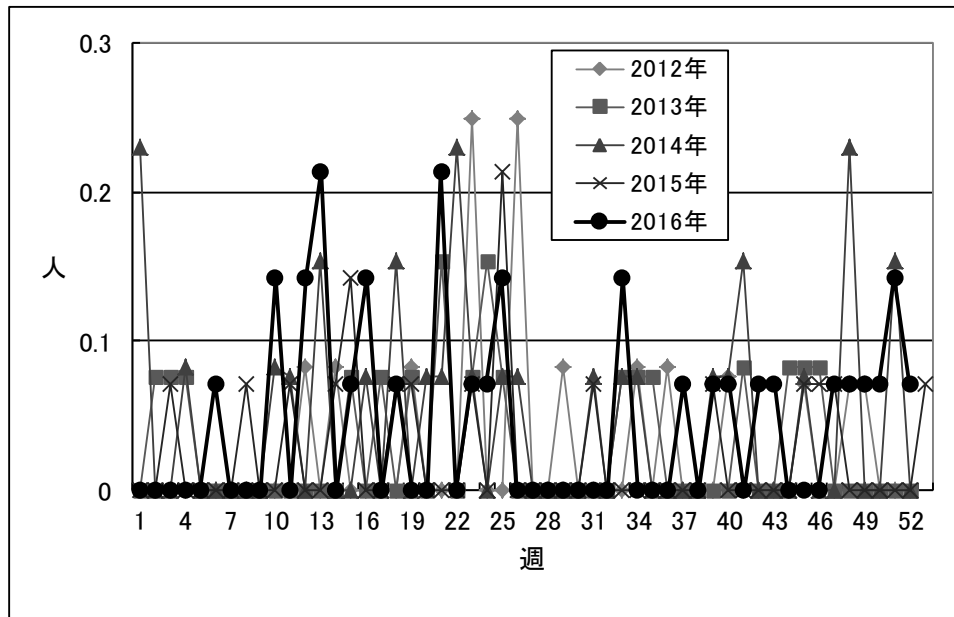
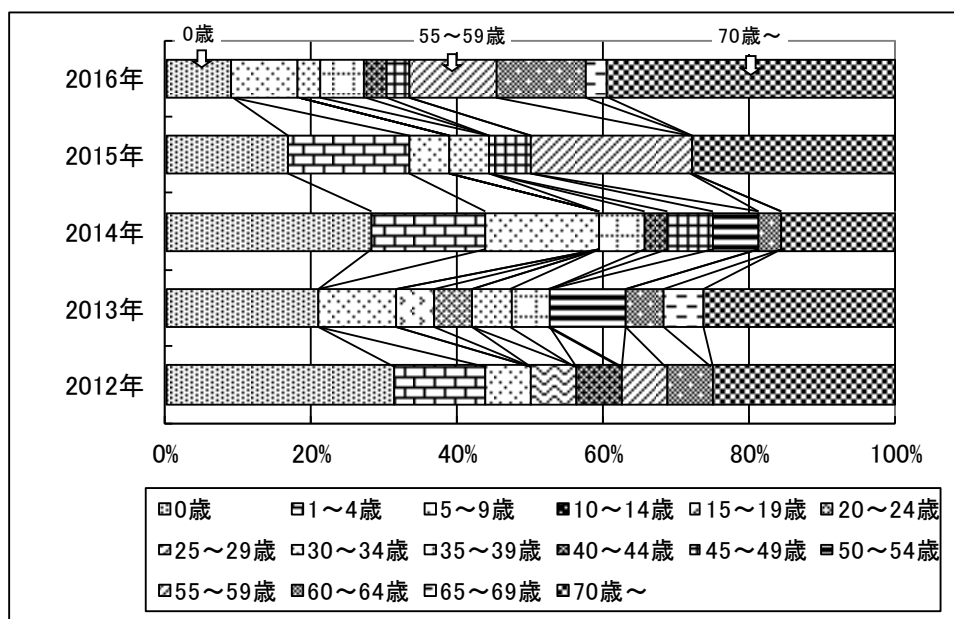


図 21-2 細菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(20) 無菌性髄膜炎

年間患者数は2004年以降20～61人の範囲で増減を繰り返しており、2016年は50人（定点あたり3.57人）で、昨年の42人（3.01人）より増加した。

患者の年齢分布は0歳9人（18%）、5～9歳8人（16%）、25～29歳6人（12%）の順となっていた。

図 22-1 無菌性髄膜炎の週別定点あたり患者発生状況

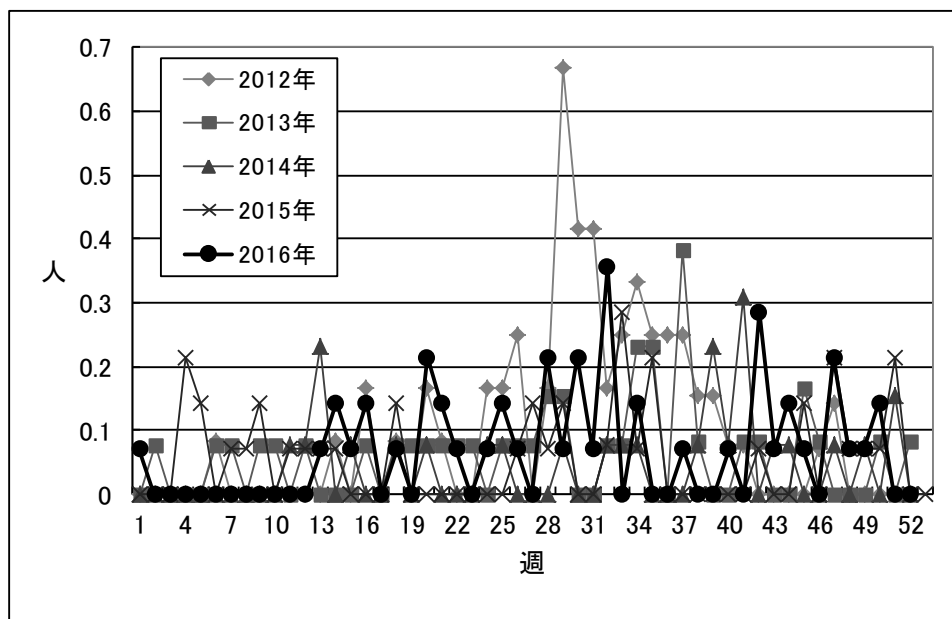
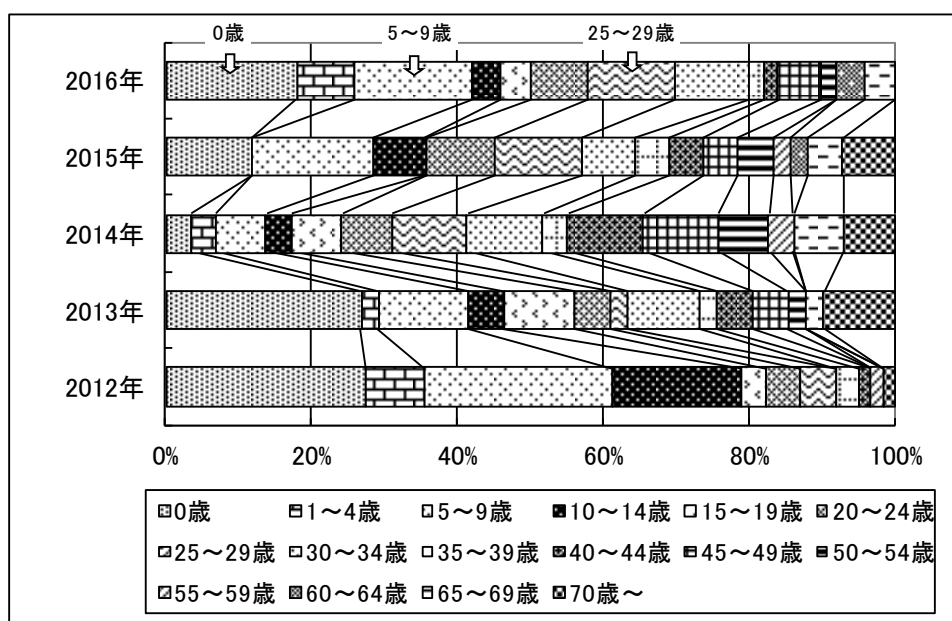


図 22-2 無菌性髄膜炎の年齢階級別患者発生割合



(21) マイコプラズマ肺炎

年間患者数は508人（定点あたり36.29人）で、昨年の191人（13.67人）の3倍近くまで増加し、4年ぶりの流行となった。

週別定点あたり患者数は、29週（7月下旬）以降一段と増加し、40週（10月上旬）にピーク（2.00人）を示した。

年齢階級別患者発生割合は5～9歳32%、1～4歳28%、10～14歳18%の順で多く、15歳未満の患者が全体の79%を占めていた。

図 23-1 マイコプラズマ肺炎の週別定点あたり患者発生状況

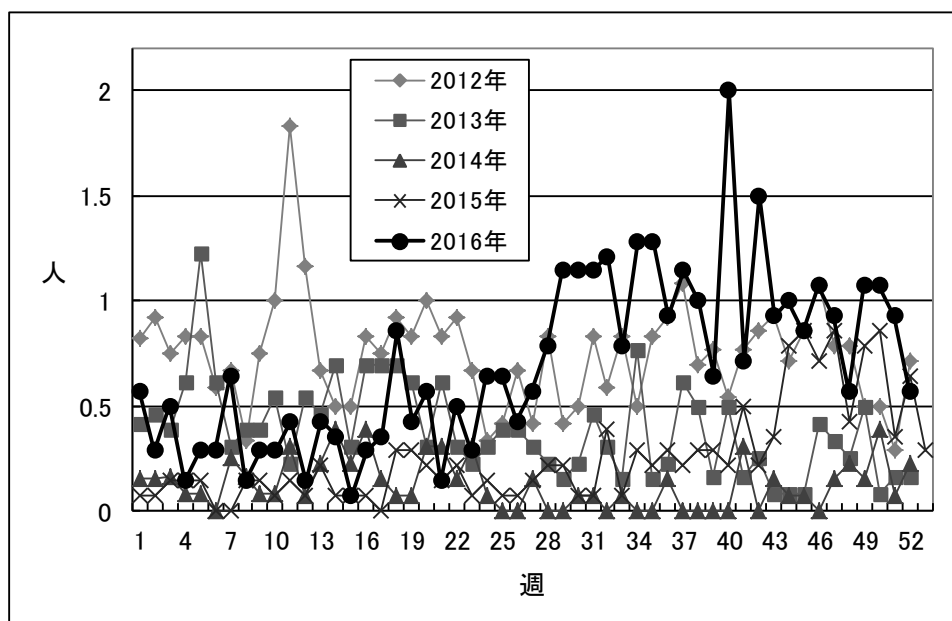
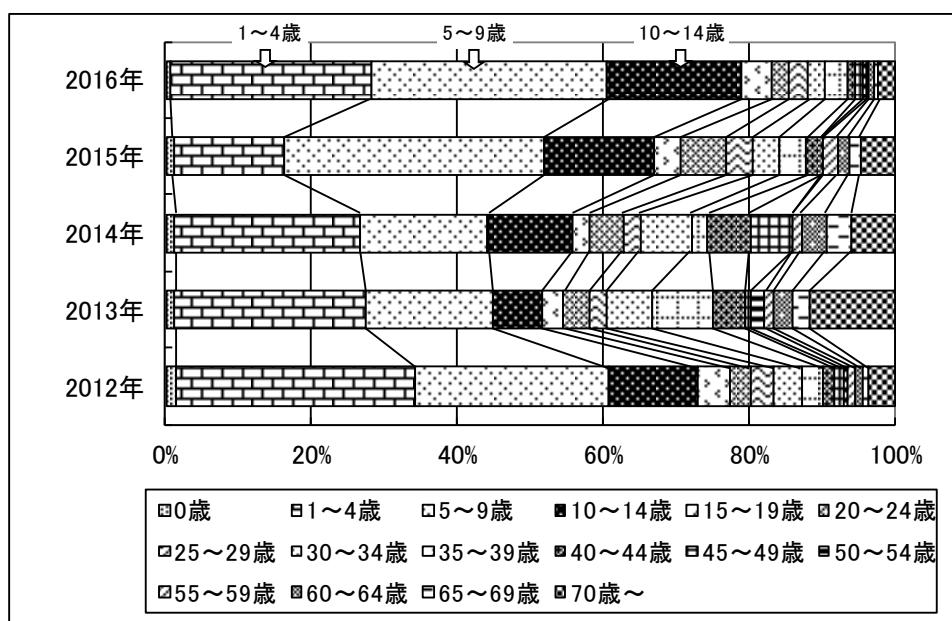


図 23-2 マイコプラズマ肺炎の年齢階級別患者発生割合



(22) クラミジア肺炎（オウム病を除く）

年間患者数は1人（定点あたり0.07人）で、10週（3月上旬）に5～9歳の女性患者が発生した。2012年には年間25人の患者があったが、2014年は発生がなく、2015年以降は1人と少ない状況が続いている。

図 24-1 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の週別定点あたり患者発生状況

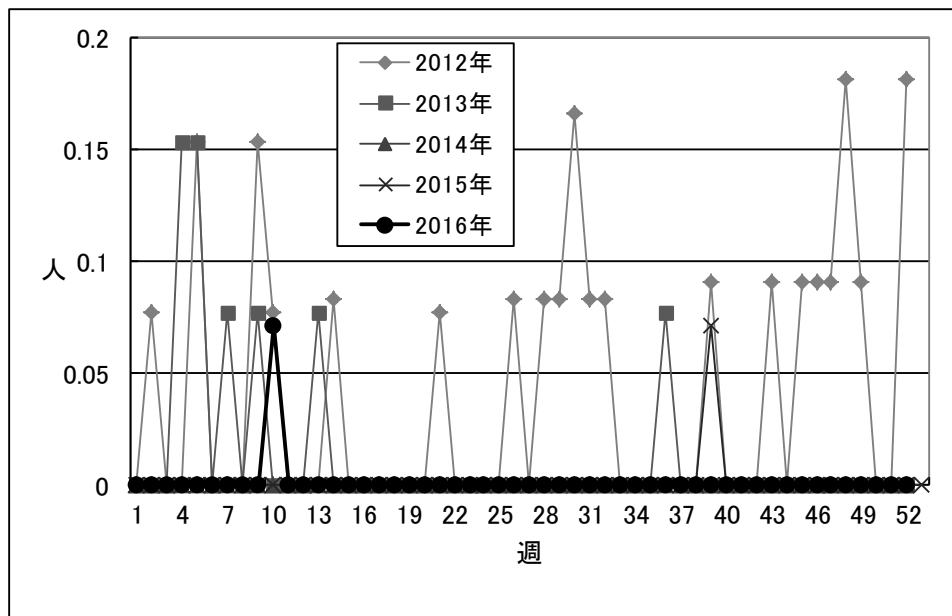
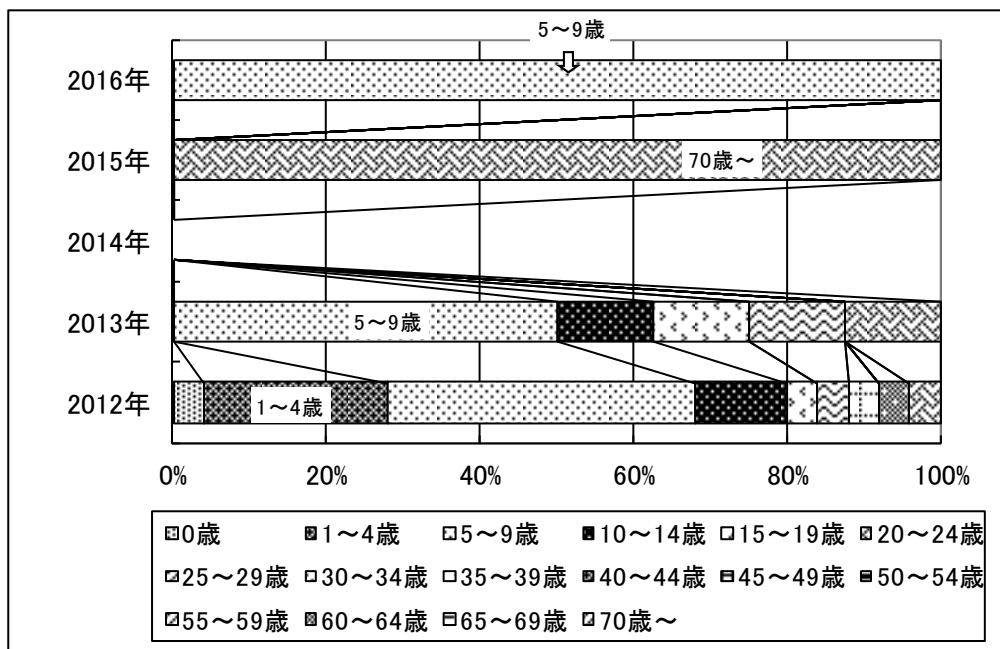


図 24-2 クラミジア肺炎（オウム病を除く）の年齢階級別患者発生割合



(23) 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

本疾病は2013年10月24日より基幹定点対象疾病に追加された。2016年の年間患者数は200人（定点あたり14.29人）で、昨年の94人（6.71人）より倍増した。

週別定点あたり患者数は9週（3月上旬）をピーク（1.36人）に、4週（1月下旬）から20週（5月中旬）に多くなった。

年齢階級別患者発生割合は1～4歳69%、5～9歳20%、0歳8%の順で多く、10歳未満の患者が全体の97%を占めていた。

図 25-1 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の週別定点あたり患者発生状況

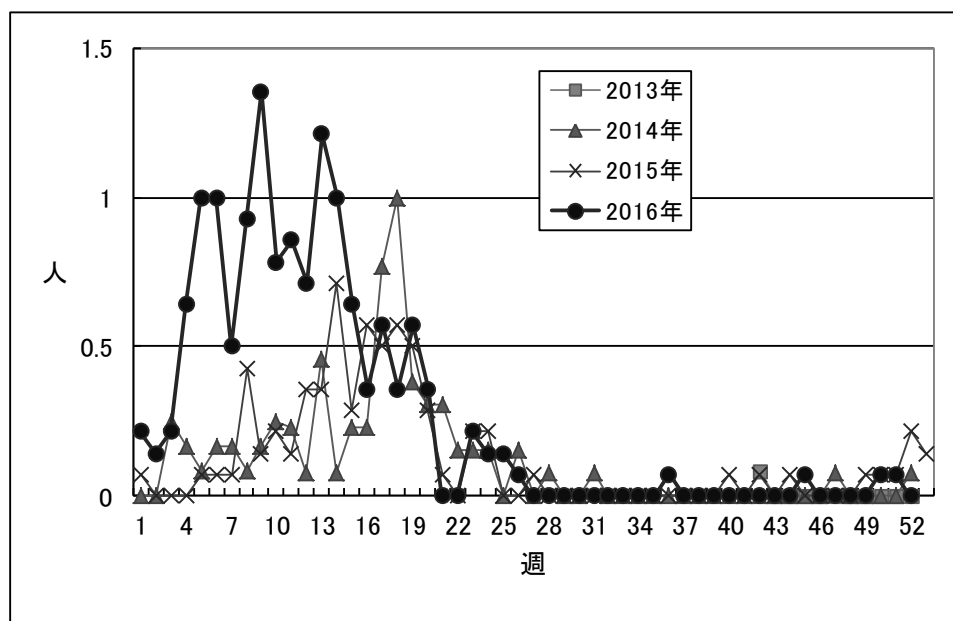
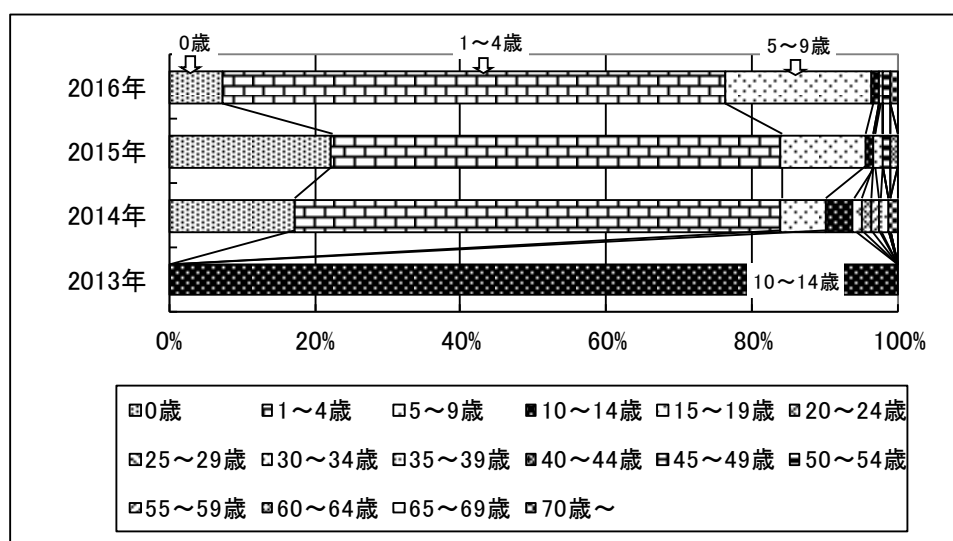


図 25-2 感染性胃腸炎（病原体がロタウイルス）の年齢階級別患者発生割合



(24) 性器クラミジア感染症

年間患者数は862人（定点あたり18.74人）で、昨年の880人（19.13人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性53%、女性47%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は25～29歳24%、20～24歳17%、30～34歳16%、35～39歳12%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は20～24歳38%、25～29歳25%、15～19歳12%、30～34歳11%の順で多く、15～34歳の患者が女性患者の84%を占めていた。

図 26-1 性器クラミジア感染症の月別定点あたり患者発生状況

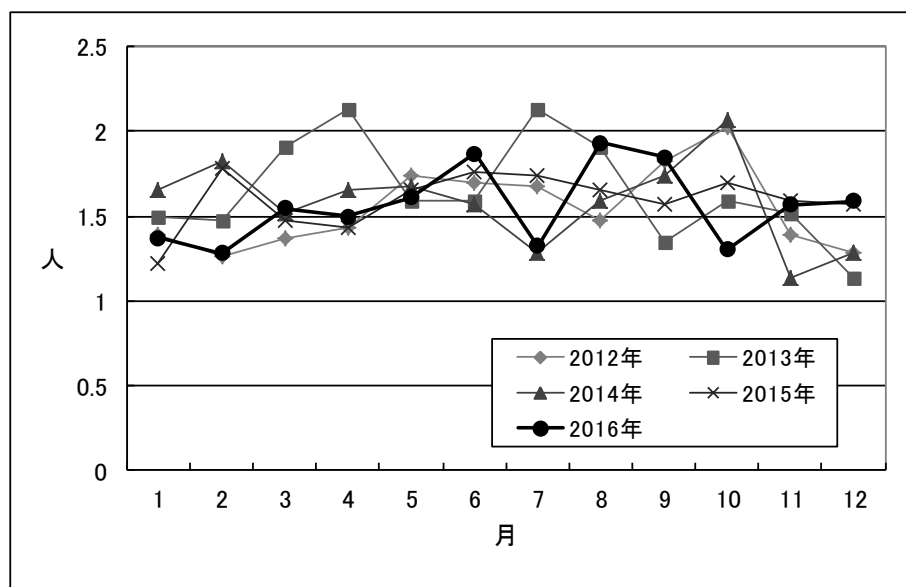


図 26-2 性器クラミジア感染症の性別患者発生割合

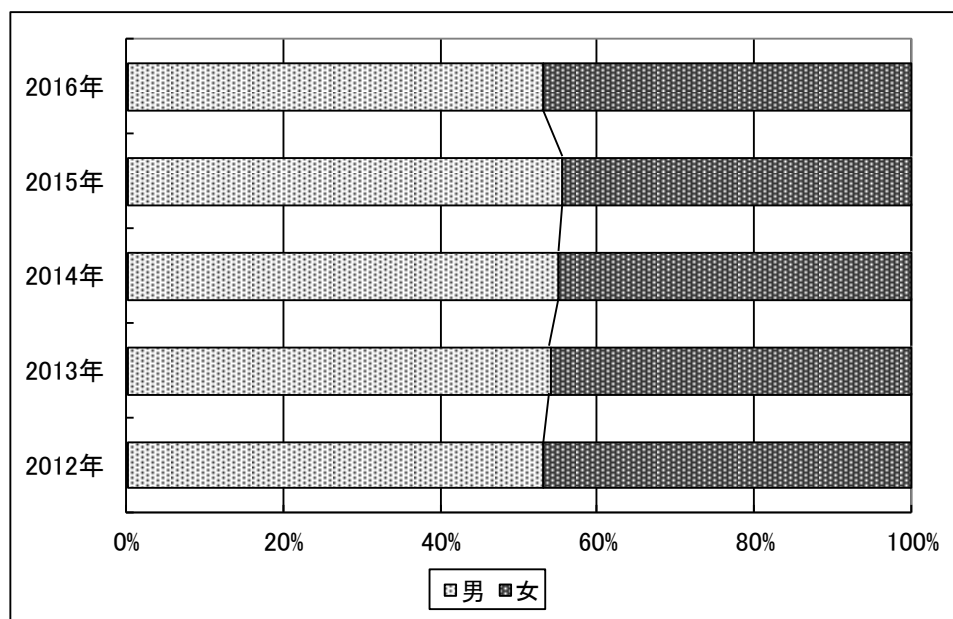


図 26-3 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

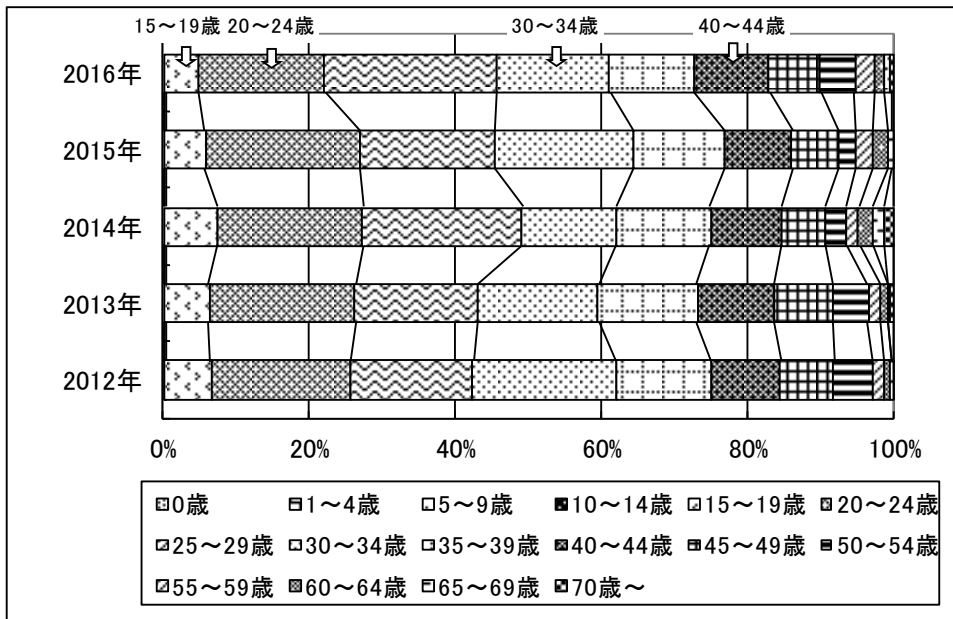
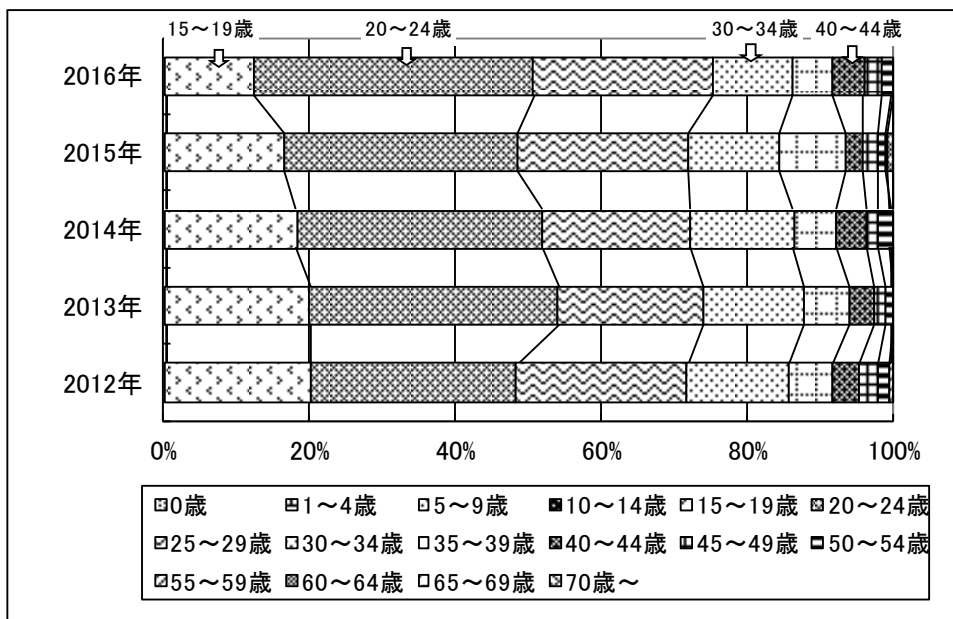


図 26-4 性器クラミジア感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(25) 性器ヘルペスウイルス感染症

年間患者数は310人（定点あたり6.74人）で、昨年の303人（6.59人）よりわずかに増加した。性別患者発生割合は、男性26%、女性74%と女性の割合が大きくなった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳19%、25～29歳16%、20～24歳、30～34歳、40～44歳及び45～49歳が11%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の79%を占めていた。女性は30～34歳16%、45～49歳12%、20～24歳11%、35～39歳10%の順で多く、20～49歳の患者が女性患者の65%を占めていた。

図 27-1 性器ヘルペスウイルス感染症の月別定点あたり患者発生状況

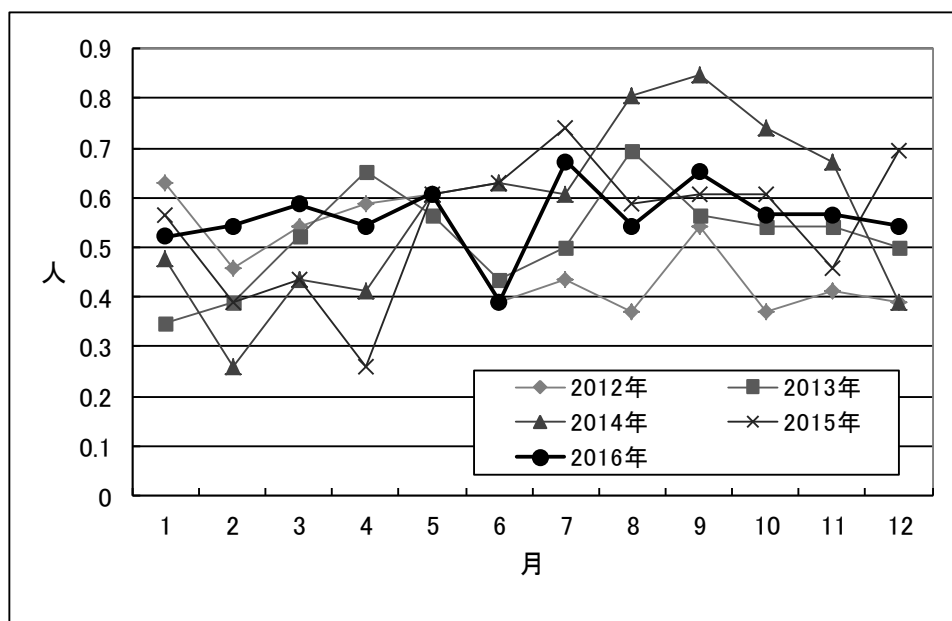


図 27-2 性器ヘルペスウイルス感染症の性別患者発生割合

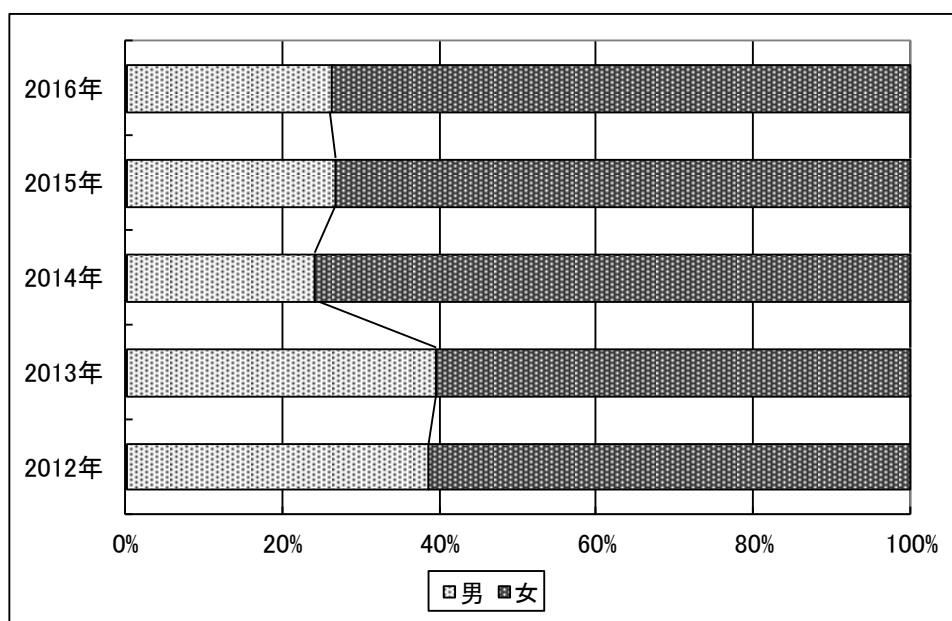


図 27-3 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

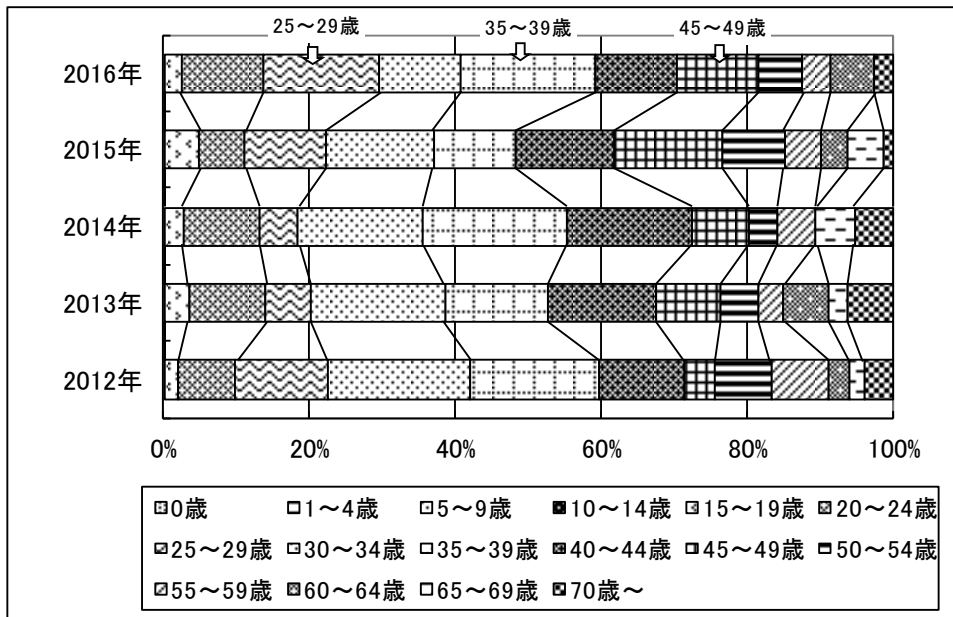
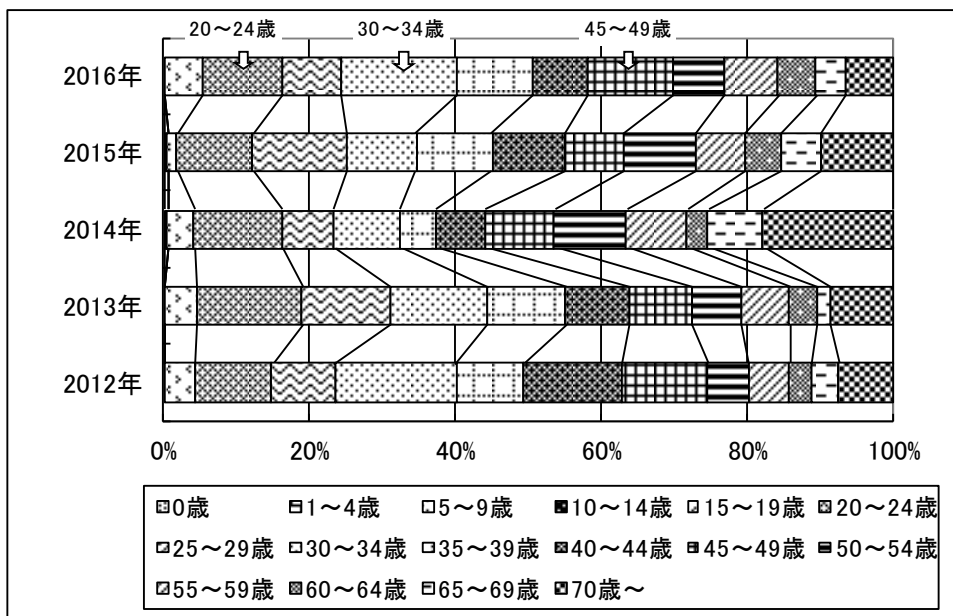


図 27-4 性器ヘルペスウイルス感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(26) 尖圭コンジローマ

年間患者数は171人（定点あたり3.72人）で、昨年の185人（4.02人）よりわずかに減少した。性別患者発生割合は、男性73%、女性27%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は35～39歳17%、20～24歳と30～34歳15%、25～29歳13%の順で多く、20～49歳の患者が男性患者の81%を占めていた。女性は20～24歳30%、25～29歳26%、35～39歳15%、30～34歳9%の順で多く、20～39歳の患者が女性患者の79%を占めていた。

図 28-1 尖圭コンジローマの月別定点あたり患者発生状況

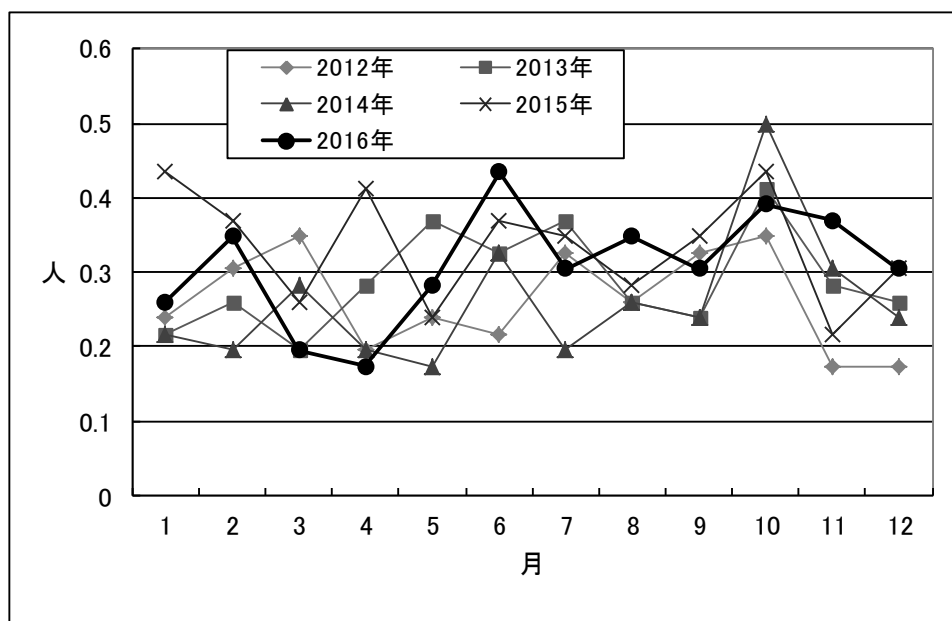


図 28-2 尖圭コンジローマの性別患者発生割合

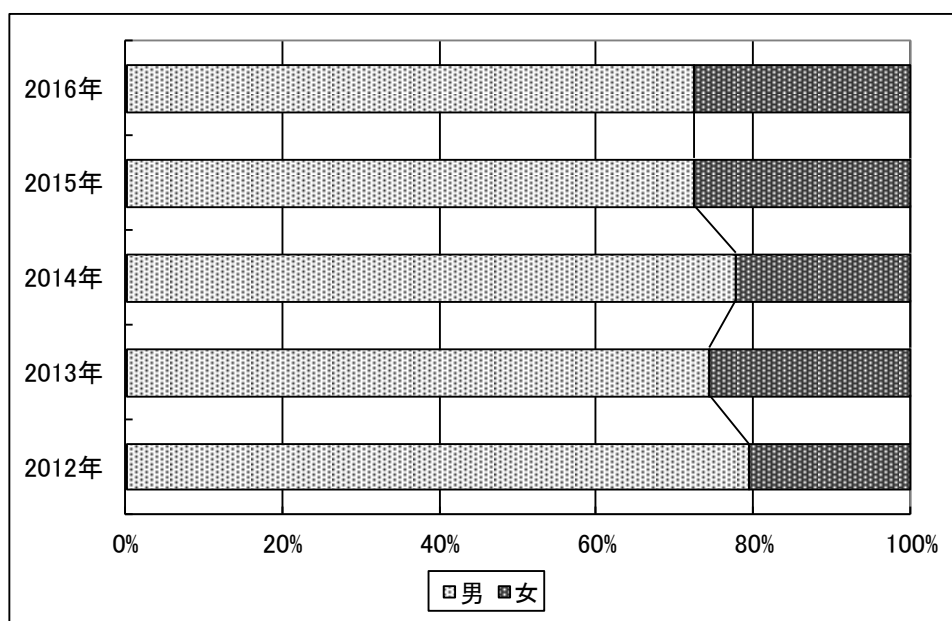


図 28-3 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（男性）

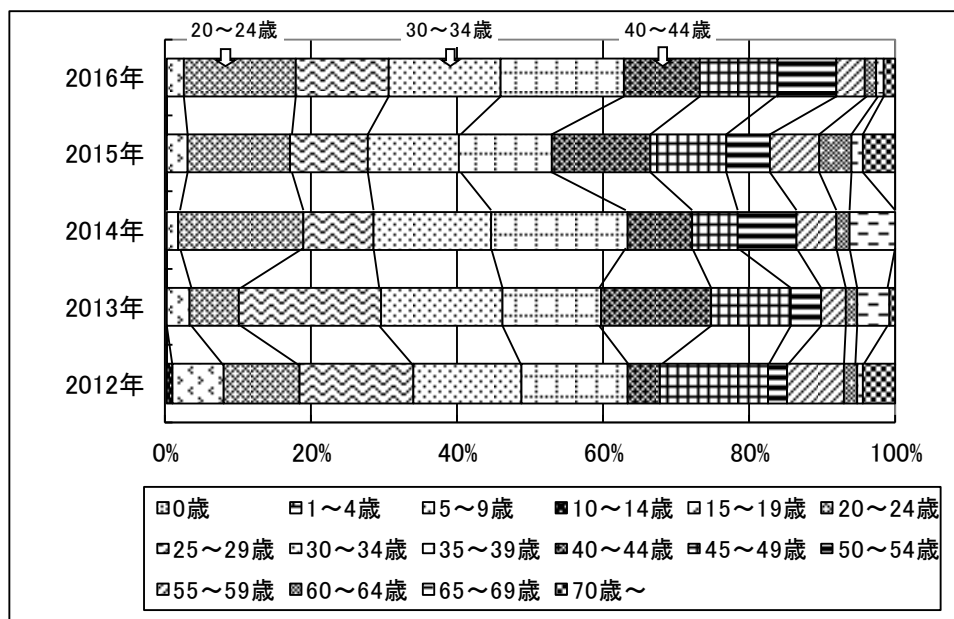
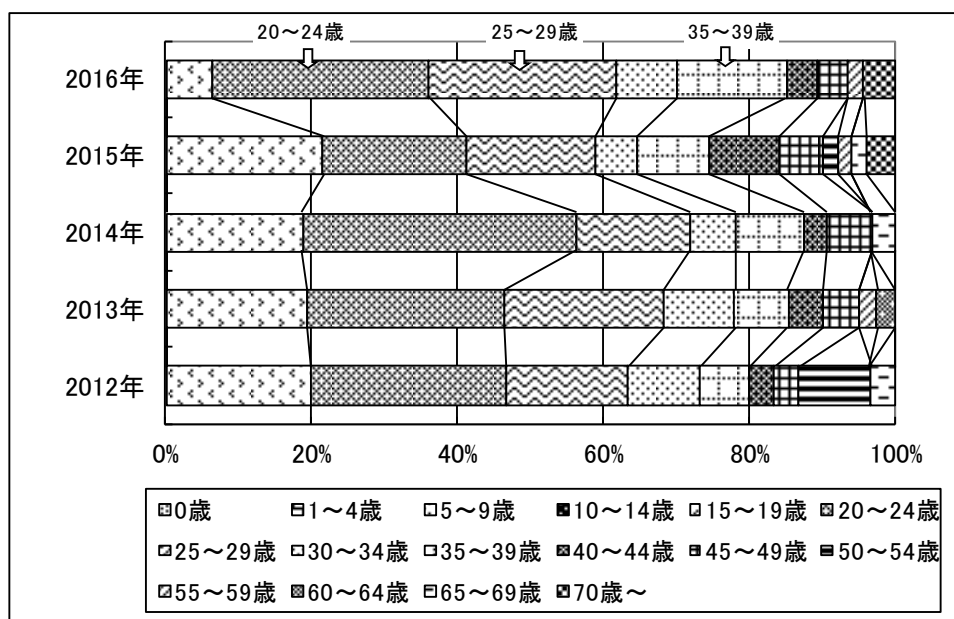


図 28-4 尖圭コンジローマの年齢階級別患者発生割合（女性）



(27) 淋菌感染症

年間患者数は297人（定点あたり6.46人）で、昨年の348人（7.57人）より減少した。性別患者発生割合は、男性84%、女性16%であった。

性別年齢階級別患者発生割合では、男性は20～24歳22%、25～29歳17%、30～34歳、35～39歳及び40～44歳が13%の順で多く、20～44歳の患者が男性患者の78%を占めていた。女性は15～19歳27%、20～24歳25%、25～29歳17%の順で多く、15～29歳の患者が女性患者の69%を占めていた。

図 29-1 淋菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

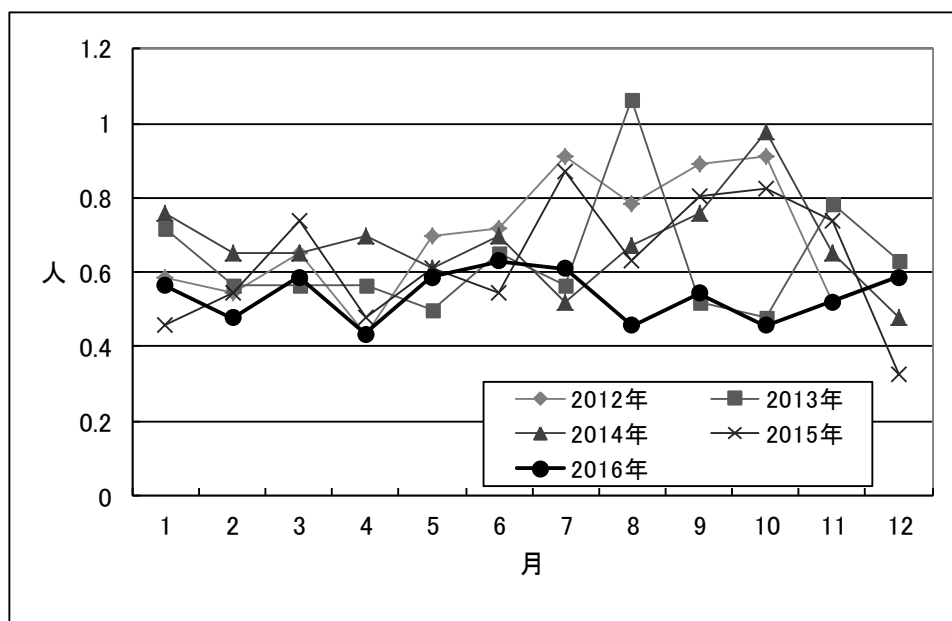


図 29-2 淋菌感染症の性別患者発生割合

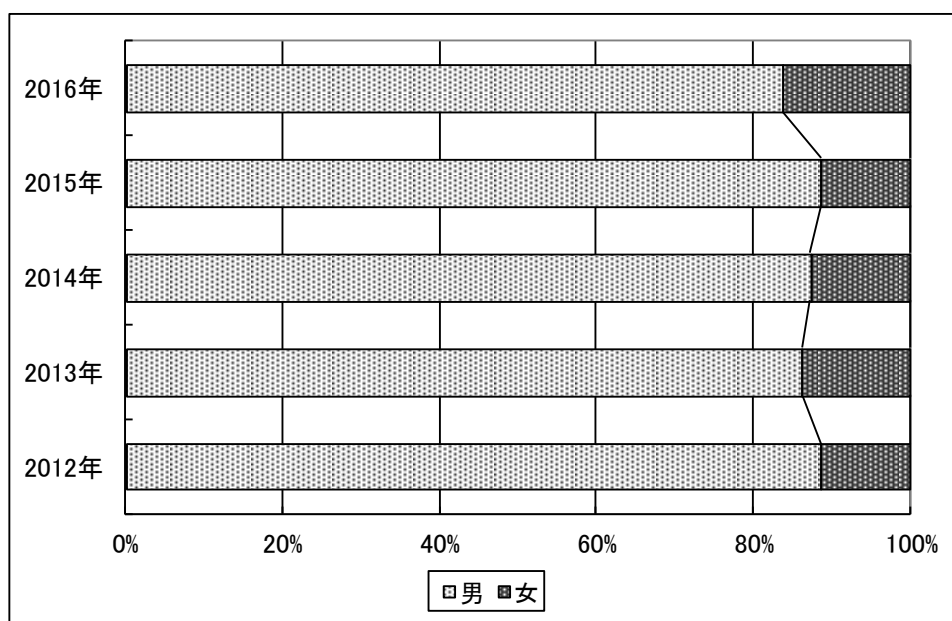


図 29-3 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（男性）

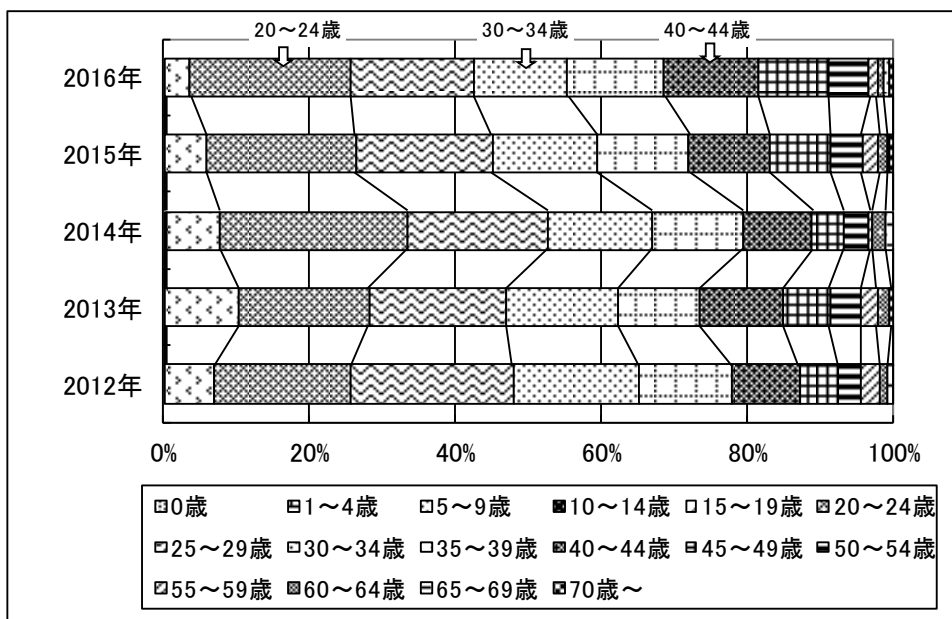
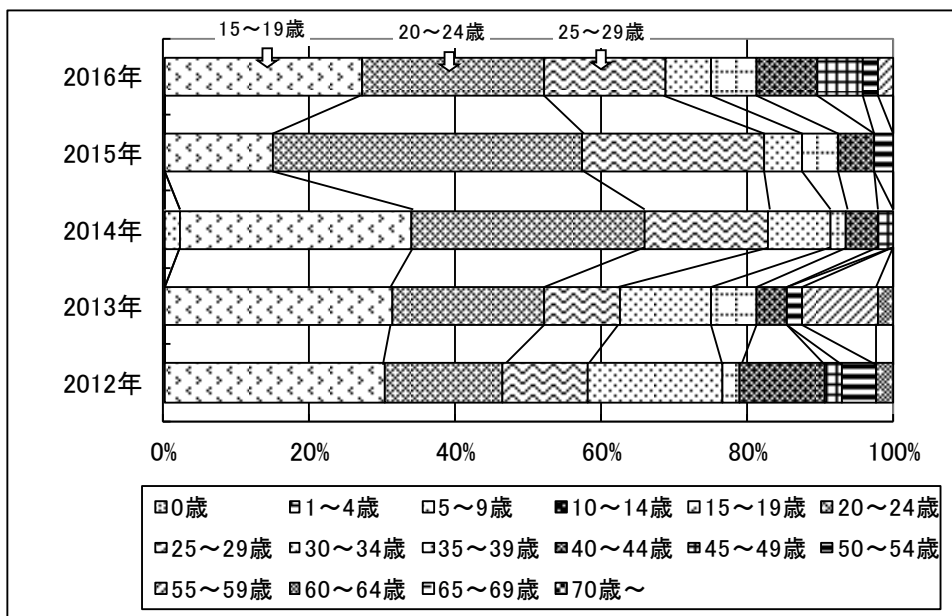


図 29-4 淋菌感染症の年齢階級別患者発生割合（女性）



(28) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間患者数は451人（定点あたり32.21人）で、昨年の408人（29.14人）より増加した。
 年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の59%、60歳以上が全体の73%を占めていた。

図 30-1 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

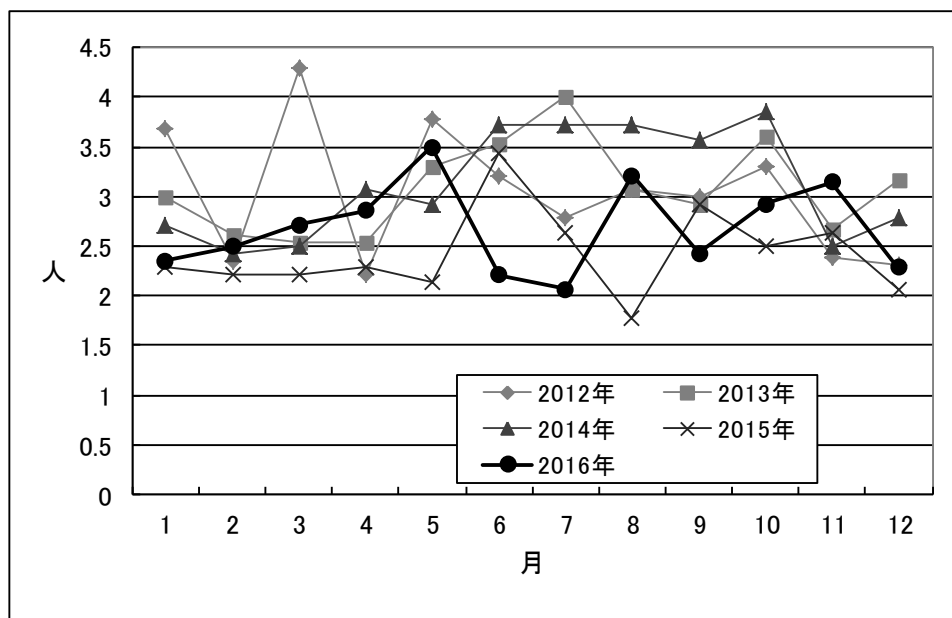
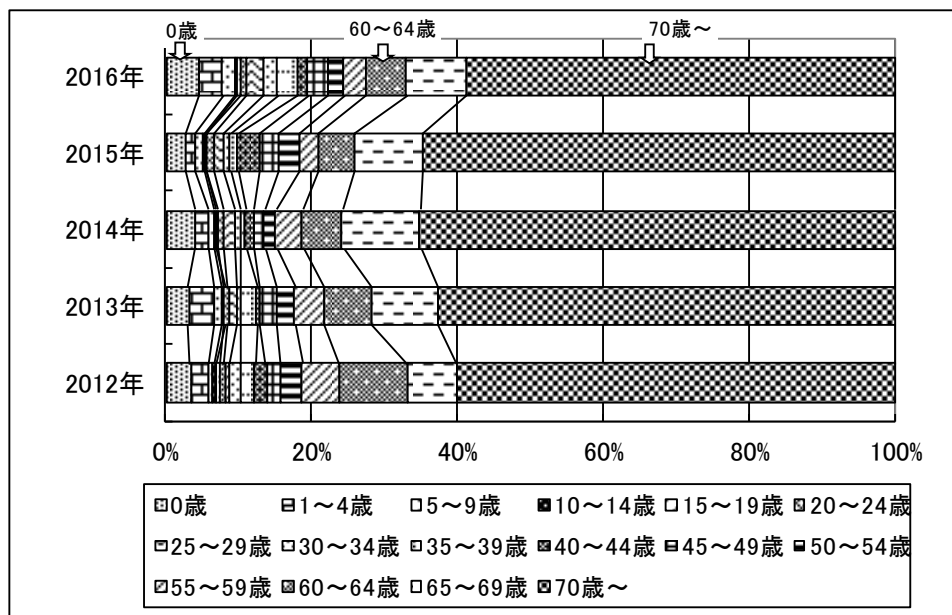


図 30-2 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(29) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間患者数は71人（定点あたり5.07人）で、昨年の69人（4.93人）よりわずかに増加した。年齢階級別患者発生割合は、70歳以上の患者が全体の52%、60歳以上が全体の79%を占めていた。

図 31-1 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

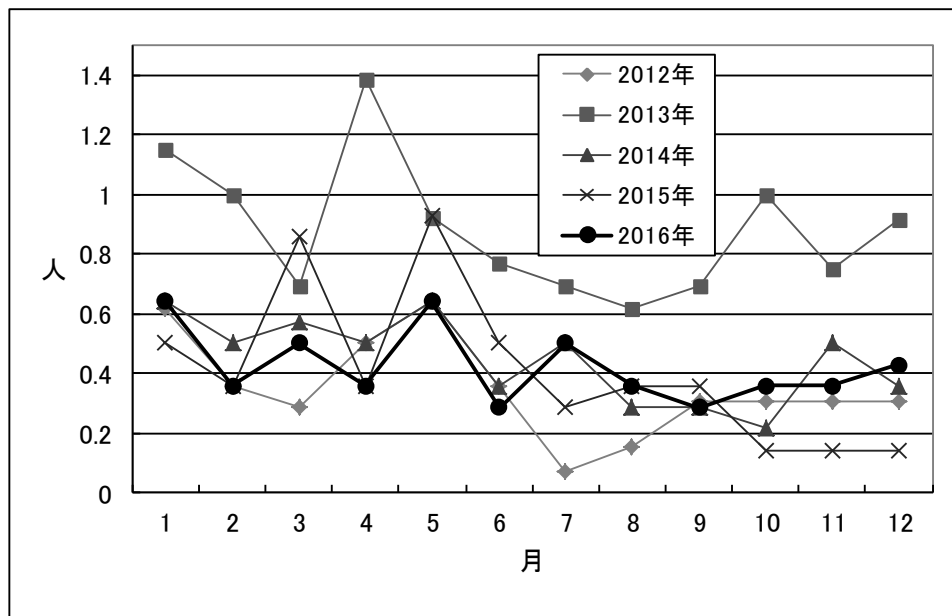
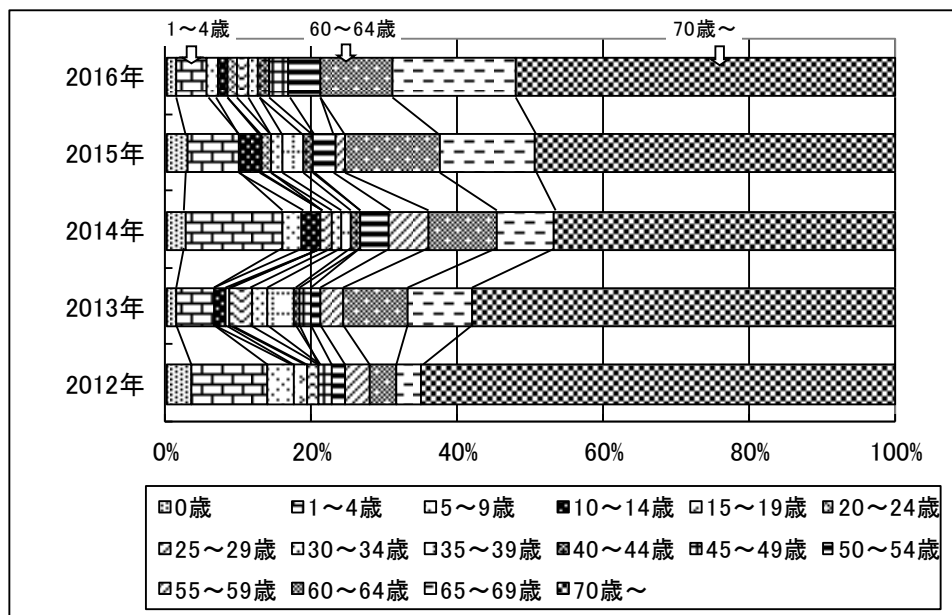


図 31-2 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の年齢階級別患者発生割合



(30) 薬剤耐性緑膿菌感染症

年間患者数は9人（定点あたり0.64人）で、昨年の4人（0.29人）より増加した。
 年齢階級別患者数は70歳以上が7人、50～54歳と65～69歳が各1人であった。

図 32-1 薬剤耐性緑膿菌感染症の月別定点あたり患者発生状況

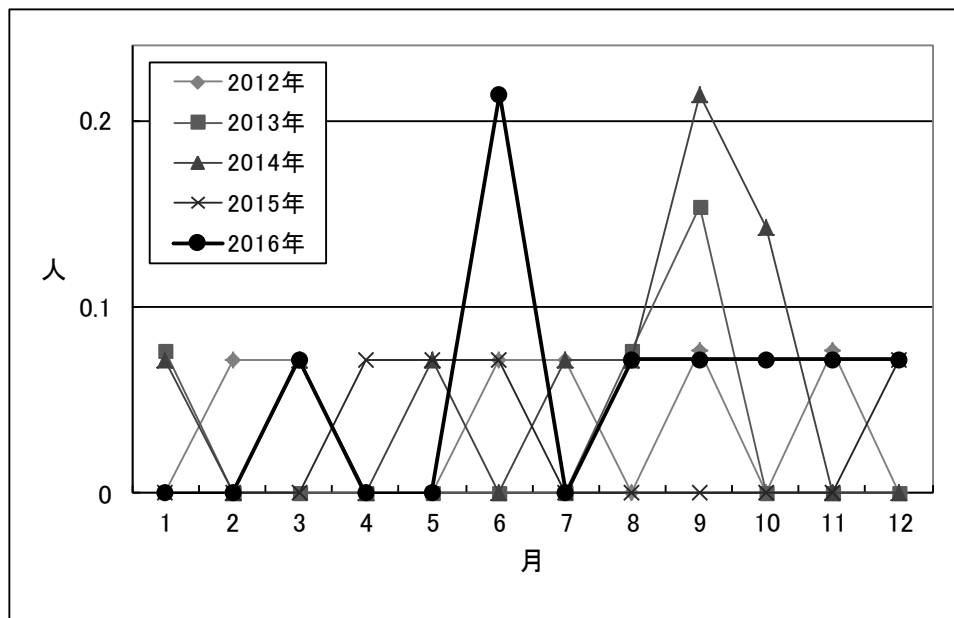
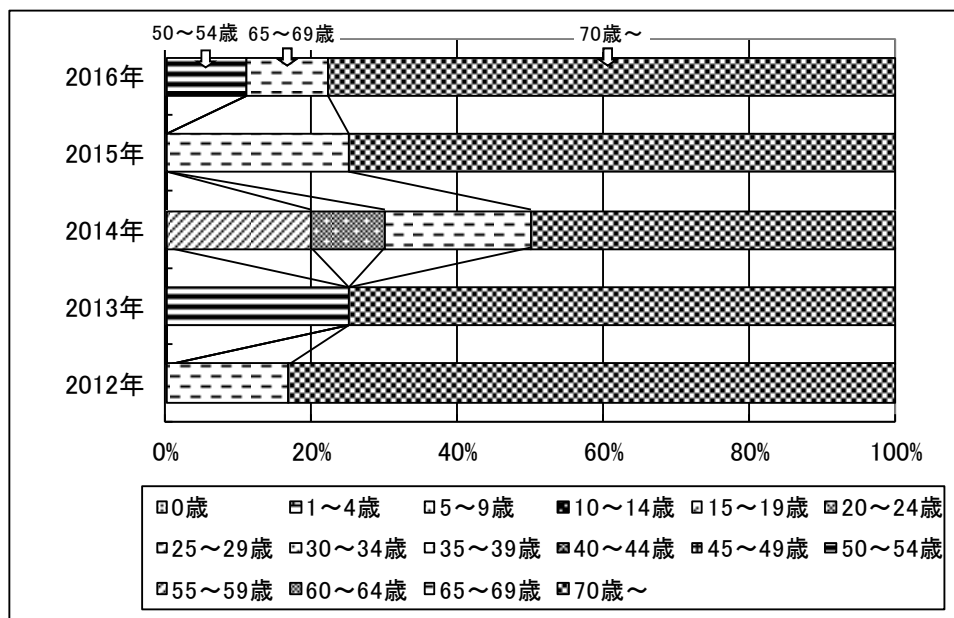


図 32-2 薬剤耐性緑膿菌感染症の年齢階級別患者発生割合



3. 病原微生物検出状況

(1) 腸管出血性大腸菌感染症事例 (2016年)

年月日	保健所	血清型	毒素型 (VT)	感染者数 (株数)	感染者間の関係等	PFGE型	MLVA型※
2016.05.26	明石	O157:H7	1&2	1	保菌者	160157001	16m0033 (16c043)
2016.06.02	伊丹	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0036
2016.06.15	宝塚	O157:H7	2	1	—	—	16m0098
2016.06.16	洲本	O157:H7	2	1	—	—	16m0107
2016.07.15	加東	O157:H7	1&2	2	家族	160157001	16m0033 (16c043)
2016.07.15	加東	O26:H11	1	1	—	—	15m2116
2016.07.20	洲本	O157:H7	2	1	保菌者	—	16m0109
2016.07.25	宝塚	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0040 (16c008)
2016.07.25	宝塚	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0095
2016.08.01	龍野	O26:H11	1	1	—	—	16m2068
2016.08.02	丹波	O157:H7	2	1	—	160157002	16m0203 (16c035)
2016.08.02	豊岡	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0193 (16c010)
2016.08.26	丹波	O157:H7	2	2	8/2 (丹波) の家族	160157002	16m0203 (16c035)
2016.08.29	加古川	O157:H7	2	1	—	—	16m0110 (16c027)
2016.08.29	加古川	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0194
2016.08.29	加古川	O157:H7	1&2	1	—	—	15m0129 (16c051)
2016.08.31	加古川	O157:H7	1&2	4	家族 (保菌者3)	160157003, 3b	16m0197
2016.08.31	伊丹	O157:H7	1&2	2	家族	160157004	16m0196
2016.09.14	芦屋	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0234 (16c044)
2016.09.14	芦屋	O121:H19	2	1	—	TN121※	—
2016.09.15	加東	O26:H11	1	30	保育所関連 (保菌者18)	16026001	16m2117 (16c204)
				3			13m2040 (16c204)
				1			16m2116 (16c204)
				1			15m2115
2016.10.07	洲本	O157:H7	2	1	保菌者	—	16m0334
2016.10.18	伊丹	O157:H7	1&2	1	—	—	16m0360
2016.11.02	明石	O103:H25	1	1	—	TN103m5※	—
2016.11.07	明石	O111:H-	1	1	—	—	16m3021
2016.12.27	洲本	O26:H11	1	1	—	—	16m2170

※国立感染症研究所で実施

(2) 細菌による食中毒 (疑) 事例 (2016年)

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
2016.02.05	宝塚	カンピロバクター	1	カンピロバクター属菌の同定
2016.06.20	宝塚	カンピロバクター	1	カンピロバクター属菌の同定

(3) その他の細菌検査 (2016年)

年月日	保健所	病原菌	件数	当所での検査等
2016.02.25	豊岡	赤痢菌	2	性状試験、血清型別、病原遺伝子検出、MLVA型※
2016.04.01	尼崎市	ボツリヌス菌	2	ボツリヌス毒素およびボツリヌス菌の検出
2016.05.31	加東	赤痢菌	1	性状試験、血清型別、病原遺伝子検出、MLVA型※
2016.06.21	加古川	溶血性レンサ球菌	1	T型別※、M型別※、毒素型※
2016.07.25	宝塚	溶血性レンサ球菌	1	T型別※、M型別※、毒素型※
2016.07.26	洲本	サルモネラ	1	サルモネラの血清型別
2016.07.26	洲本	溶血性レンサ球菌	1	T型別※、M型別※、毒素型※
2016.08.26	丹波	溶血性レンサ球菌	1	T型別※、M型別※、毒素型※
2016.11.15	加東	肺炎球菌	2	肺炎球菌の血清型別

※国立感染症研究所で実施

(4) クドア (ヒラメ寄生虫) の検査 (2016年)

月日	保健所	病原体	検査件数	陽性検体	陰性検体
2016.03.26	明石	クドア	1	1 ヒラメ	0
2016.08.24	伊丹	クドア	1	0	1 患者便

(5) 結核 QFT 検査 (2016年)

年月日	保健所	件数	陽性	判定保留	陰性	判定不可
2016.01.19	芦屋	7	0	0	7	0
2016.01.26	芦屋	5	0	0	5	0
2016.09.30	龍野	33	0	0	33	0
2016.12.26	加東	26	0	2	24	0

(6) 結核菌の同定試験及び結核の感染源調査 (2016年)

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験※ ³ (耐性を示した薬剤)
			JATA(12)-VNTR ^o ロファイル※ ¹	※ ²	
2016.01.18	宝塚	MY15073	252343243564		
2016.01.21	洲本	MY15074	4332737457A5	A	
2016.01.21	洲本	MY15075	231322243C43		
2016.01.21	洲本	MY15076	231342543C53	B	
2016.01.21	洲本	MY15077	333473754725		INH, SM
2016.01.21	洲本	MY15078	231332543E33	C	
2016.01.21	洲本	MY15079	231332544C33		
2016.01.21	洲本	MY15080	152123123DA4		
2016.01.21	洲本	MY15081	413272745765		
2016.01.21	洲本	MY15082	433333745594		
2016.02.02	赤穂	MY15083	413274745793		
2016.02.02	赤穂	MY15084	434363744583		
2016.02.04	朝来	MY15085	243363433854	D	
2016.02.04	朝来	MY15086	243363433854	D	
2016.02.04	朝来	MY15087	413264745785	E	
2016.02.04	朝来	MY15088	413264745785	E	
2016.02.04	朝来	MY15089	413264745785	E	
2016.02.04	朝来	MY15090	430343744184	F	
2016.02.04	朝来	MY15091	430343744184	F	
2016.02.04	朝来	MY15092	430343744184	F	
2016.02.18	加古川	MY15093	443332745794		
2016.02.18	加古川	MY15094	433333843784		耐性なし

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験 ^{※3} (耐性を示した薬剤)
			JATA(12)-VNTR [°] ロファイル ^{※1}	※2	
2016.02.23	加古川	MY15095	433363845785		
2016.02.23	加古川	MY15096	141342343B53		
2016.02.08	加古川	MY15097	333473755725	G	
2016.02.08	加古川	MY15099	333473755725	G	
2016.02.08	加古川	MY15100	434363744783	H	
2016.02.08	加古川	MY15101	434353745783	I	TH
2016.02.26	伊丹	MY15102	313274744785		
2016.02.26	伊丹	MY15103	413264945785		
2016.03.23	加東	MY15104	231322543D53		
2016.03.23	加東	MY15105	433371745785		
2016.03.23	加東	MY15106	415264745785		
2016.03.23	加東	MY15107	231332543C53		耐性なし
2016.03.23	加東	MY15108	434353645A83	J	耐性なし
2016.04.21	加古川	MY15109	413274645794		
2016.03.23	洲本	MY15110	433333745794		
2016.03.23	洲本	MY15111	413264845785		
2016.03.24	加古川	MY15112	433333747794		
2016.03.24	加古川	MY15113	413274445785	K	
2016.03.24	加古川	MY15114	231332443C23		
2016.03.31	福崎	MY15115	223341543D83		
2016.04.06	龍野	MY16001	231332344C33		
2016.04.21	加東	MY16002	231332543C33		
2016.05.19	加東	MY16003	233323325B84		
2016.05.19	加東	MY16004	433333645684		
2016.05.19	加東	MY16006	420352543B63		
2016.05.19	加東	MY16007	413274645782		
2016.05.19	加東	MY16008	149391244772		
2016.05.24	加古川	MY16009	313264745785		
2016.05.24	加古川	MY16010	433343745785		
2016.05.24	加古川	MY16011	434353745783	I	
2016.06.08	加古川	MY16012	252123124D74		
2016.06.02	加古川	MY16013	149392244752		
2016.06.13	豊岡	MY16014	332443655725		
2016.06.16	洲本	MY16015	4203X3744184		
2016.07.07	豊岡	MY16016	342122123D84		
2016.07.07	加古川	MY16017	231342544C33		
2016.07.07	加古川	MY16018	413284742663		
2016.07.07	加古川	MY16019	232323526785		
2016.07.07	加古川	MY16020	533363745775		
2016.06.30	赤穂	MY16021	4132K6745885		
2016.07.07	朝来	MY16022	413262845785	M	
2016.07.07	朝来	MY16023	413262845785	M	
2016.07.07	朝来	MY16024	149391244572	N	
2016.07.07	朝来	MY16025	149391244572	N	
2016.07.07	朝来	MY16026	149391244572	N	
2016.07.07	朝来	MY16027	149391244572	N	
2016.07.07	朝来	MY16028	334332735884	O	
2016.07.07	朝来	MY16029	334332735884	O	
2016.07.07	朝来	MY16030	334332735884	O	
2016.07.07	朝来	MY16031	334332735884	O	

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験 ^{※3} (耐性を示した薬剤)
			JATA(12)-VNTR [°] ロファイル ^{※1}	※2	
2016.07.29	加古川	MY16032	313274945785		
2016.08.02	龍野	MY16033	434353745783	I	
2016.08.02	龍野	MY16034	333443755725		
2016.08.02	龍野	MY16035	434373745783		
2016.08.02	龍野	MY16036	433363745885		
2016.08.02	龍野	MY16037	221332543943		
2016.08.02	龍野	MY16038	413255745775		
2016.08.02	龍野	MY16039	434353745883	P	
2016.08.10	龍野	MY16040	434383745783	Q	
2016.08.26	丹波	MY16041	233373734785		
2016.08.26	丹波	MY16042	131332743F53		
2016.09.16	加古川	MY16043	433332735884		
2016.09.14	明石	MY16044	433353745775		
2016.09.14	加古川	MY16045	231332533B43		
2016.09.14	加古川	MY16046	233333743474		
2016.10.12	豊岡	MY16048	149381242772		
2016.10.12	朝来	MY16049	148381242B72		
2016.10.11	加古川	MY16050	231342543C53	B	
2016.10.11	加古川	MY16051	434363745563		
2016.10.11	加古川	MY16052	334263745783		
2016.10.11	加古川	MY16053	484283744A62		
2016.10.24	赤穂	MY16054	4152X4745795		
2016.10.24	赤穂	MY16055	333573755725		TH, CS
2016.10.24	赤穂	MY16056	4332737456A5		
2016.11.30	伊丹	MY16057	433333643774		
2016.12.19	豊岡	MY16058	434363745783	R	
2016.12.19	豊岡	MY16059	434363745783	R	
2016.12.19	豊岡	MY16060	233364725A74	S	
2016.12.19	豊岡	MY16061	233364725A74	S	
2016.12.26	龍野	MY16062	413274745465		
2016.12.26	龍野	MY16063	221342543A43		
2016.12.26	龍野	MY16064	434363744783	H	
2016.12.26	龍野	MY16065	433463544725		
2016.12.26	龍野	MY16066	4332X57457A5		
2016.12.26	龍野	MY16067	2223X2543B72		
2016.12.26	龍野	MY16068	149381244772		
2016.12.26	龍野	MY16069	433363745685		
2016.12.26	龍野	MY16070	333473755725	G	耐性なし
2016.12.26	龍野	MY16071	221442543783		
2016.12.26	龍野	MY16072	213276745783		
2016.12.26	龍野	MY16073	433323745784		
2016.12.26	龍野	MY16074	233334645784		耐性なし
2016.12.26	龍野	MY16075	231332543C73		
2016.12.26	龍野	MY16076	413264743885	T	
2016.12.26	赤穂	MY16077	413274445785	K	
2016.12.27	洲本	MY16078	413274145785		
2016.12.27	洲本	MY16079	433333742484		
2016.12.27	洲本	MY16080	433373745785	U	
2016.12.27	洲本	MY16081	534364724783		
2016.12.27	洲本	MY16082	333473755725	G	

菌株搬入日	保健所	菌株番号	遺伝子		薬剤感受性試験 ^{※3} (耐性を示した薬剤)
			JATA(12)-VNTR [°] プロファイル ^{※1}	※2	
2016.08.26	尼崎市	MY16201	434353945763		
2016.08.26	尼崎市	MY16202	235363945783		
2016.08.26	尼崎市	MY16203	434383745783	Q	
2016.08.26	尼崎市	MY16204	434383745783	Q	
2016.08.26	尼崎市	MY16205	531333745794		
2016.08.26	尼崎市	MY16206	434363445783	V	
2016.08.26	尼崎市	MY16207	334353624E92		
2016.08.26	尼崎市	MY16208	231342543C53	B	
2016.08.26	尼崎市	MY16209	251473543973		
2016.08.26	尼崎市	MY16210	413274744785		
2016.08.26	尼崎市	MY16211	434363445783	V	
2016.08.26	尼崎市	MY16212	434363745783	R	
2016.08.26	尼崎市	MY16213	434383745783	Q	
2016.08.26	尼崎市	MY16214	4332737457A5	A	
2016.08.26	尼崎市	MY16215	434383745783	Q	
2016.08.26	尼崎市	MY16216	434353645A93		
2016.08.26	尼崎市	MY16217	331342533C33		
2016.08.26	尼崎市	MY16218	333383345775		
2016.08.26	尼崎市	MY16219	434353745883	P	
2016.08.26	尼崎市	MY16220	233473755735		
2016.08.26	尼崎市	MY16221	320332543B83		
2016.12.27	尼崎市	MY16222	444373745785		
2016.12.27	尼崎市	MY16223	342323542B63		
2016.12.27	尼崎市	MY16224	434355645783		
2016.12.27	尼崎市	MY16225	413264745795		
2016.12.27	尼崎市	MY16226	434353545783		
2016.12.27	尼崎市	MY16227	333373755725		
2016.12.27	尼崎市	MY16228	333473755725	G	
2016.12.27	尼崎市	MY16229	2223X3543A72		
2016.12.27	尼崎市	MY16230	434353741783		
2016.12.27	尼崎市	MY16231	213262744755		
2016.12.27	尼崎市	MY16232	231332543C43		
2016.12.27	尼崎市	MY16233	434353645A83	J	
2016.12.27	尼崎市	MY16234	333473755725	G	
2016.12.27	尼崎市	MY16235	433363645883		
2016.12.27	尼崎市	MY16236	433333742462		
2016.12.27	尼崎市	MY16237	432273745775		
2016.12.27	尼崎市	MY16239	433373745785	U	
2016.12.27	尼崎市	MY16240	231332543E33	C	
2016.12.27	尼崎市	MY16241	413264743885	T	
2016.12.27	尼崎市	MY16242	131342543B53		
2016.12.27	尼崎市	MY16243	134353545793		
2016.12.27	尼崎市	MY16244	434363745783	R	
2016.12.27	尼崎市	MY16245	333473655725		

※1: JATA(12)-VNTRプロファイルの桁数をそろえるために、反復数が2桁の場合、10=A、11=B、・・・、20以上=Kとした。また、増幅産物が得られなかった場合はXとした。

※2: JATA(12)-VNTR型が一致する菌株を同じアルファベットで表示した。

※3: 検査対象薬剤:INH(イソニアジド)、RFP(リファンピシン)、SM(硫酸ストレプトマイシン)、EB(塩酸エタンプトール)、KM(硫酸カナマイシン)TH(エチオナミド)、EVM(硫酸エンビオマイシン)、PAS(パラアミノサリチル酸ナトリウム)、CS(サイクロセリン)、LVFX(レボフロキサシン)、PZA(ピラジナミド)

(7) インフルエンザ流行予測調査検査成績 (2016年)

検体採取年月	検体数	ウイルス検出数				陰性
		A(H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	
2016.01	47	32	5	3	7	0
2016.02	89	32	10	16	30	1
2016.03	56	10	4	18	23	1
2016.04	23	3	1	1	16	2
2016.05	5	0	0	3	2	0
2016.06	1	1	0	0	0	0
2016.07	0	0	0	0	0	0
2016.08	0	0	0	0	0	0
2016.09	1	0	1	0	0	0
2016.10	1	0	1	0	0	0
2016.11	17	0	15	0	0	2
2016.12	36	1	34	0	0	1
合計	276	79	71	41	78	7

(8) 日本脳炎流行予測調査結果：ブタ血清中の HI 抗体価 (2016年)

採血 年月日	検査頭数	HI抗体価								陽性率 (%)	2ME 感受性(%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
2016.07.06	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.07.13	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.07.20	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.08.03	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.08.17	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.08.24	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.09.07	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2016.09.14	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(9) 蚊媒介感染症の検査 (2016年)

疾患名	検体数 (患者数)	陽性 患者数	ウイルス型	渡航先
デング熱	32 (21)	6	デングウイルス1型	タイ、モルジブ、インド、フィリピン、 ベトナム、シンガポール、マレーシア
		1	デングウイルス2型	スリランカ
		2	デングウイルス3型	フィリピン、ミャンマー
チクングニア熱		0	—	—
ジカウイルス感染症		0	—	—

(10) リケッチア等の検査 (2016年)

疾患名	検体数 (患者数)	陽性患者数	備考
日本紅斑熱	42 (20)	7	遺伝子及び抗体検査
つつが虫病	16 (9)	3	遺伝子及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	10 (9)	0	遺伝子検査

(11) 集団嘔吐下痢症事例からのノロウイルス等検出結果 (2016年)

事例No.	月	日	保健所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1	1	6	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	9	6	有症	1	1	NoV G II
2	1	6	明石	飲食店	食品疑い	不明	13	10	有症	1	1	NoV G II
3	1	7	福崎	旅館	食品疑い	不明	72	15	有症	1	1	NoV G II
4	1	9	明石	ホテル	食品疑い	不明	299	77	有症	2	0	-
5	1	12	朝来	飲食店	食品疑い	不明	30	11	有症	4	4	NoV G II
									調理従事者	4	3	NoV G II
									拭き取り	9	0	-
6	1	13	加古川	飲食店	食品疑い	不明	7	5	有症	1	1	NoV G II
7	1	13	伊丹	病院	食品疑い	不明	120	42	有症	19	16	NoV G II
									調理従事者	19	4	NoV G II
8	1	16	加東	飲食店	食品疑い	不明	24	22	有症	7	0	-
									調理従事者	3	0	-
9	1	19	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	16	11	有症	1	1	NoV G II
10	1	19	明石	飲食店	食品疑い	不明	384	24	有症	6	0	-
									調理従事者	5	0	-
11	1	20	宝塚	仕出し	食品疑い	不明	184	15	有症	1	1	NoV G II
									調理従事者	11	3	NoV G II
									伊丹	有症	6	5
12	1	23	宝塚	仕出し	食品疑い	不明	25	13	有症	1	1	NoV G II
									伊丹	有症	1	1
13	1	2	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	58	4	有症	1	0	-
14	2	5	宝塚	病院	ヒトヒト疑い	-	不明	24	有症	7	5	NoV G II
									調理従事者	11	1	NoV G II
									調理従事者	5	1	NoV G I
15	2	8	朝来	旅館	ヒトヒト疑い	-	215	48	拭き取り	5	0	-
									有症	19	18	NoV G I
									加古川	有症	1	0
16	2	23	加古川	飲食店	食品疑い	不明	5	5	有症	1	0	-
17	3	3	朝来	飲食店	食品疑い	不明	14	7	有症	4	4	NoV G II
									調理従事者	2	2	NoV G II
18	3	8	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	10	8	有症	2	2	NoV G II
19	3	14	生活衛生課	幼稚園	ヒトヒト疑い	-	不明	32	有症	3	3	RVA
									調理従事者	5	0	-
20	4	11	伊丹	ホテル	食品疑い	不明	77	44	有症	1	0	-
21	4	14	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	34	23	有症	1	1	NoV G II
22		21	芦屋	飲食店	食品疑い	不明	60	26	有症	1	0	-
23		27	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	30	10	有症	1	0	-
24	5	23	加東	飲食店	食品疑い	不明	不明	不明	調理従事者	10	5	NoV G II
25	6	1	明石	飲食店	食品疑い	不明	7	5	拭き取り	10	1	NoV G II
26									有症	1	0	-
27	7	4	明石	小学校	ヒトヒト	-	209	69	有症	2	2	NoV G I
28		26	洲本	飲食店	食品疑い	不明	17	8	有症	4	4	NoV G II
29	8	30	加東	飲食店	食品疑い	不明	不明	不明	調理従事者	9	0	-
30	10	26	伊丹	飲食店	食品疑い	不明	15	8	有症	1	0	-
									有症	1	0	-
31	11	7	伊丹	ホテル	食品疑い	不明	不明	不明	有症	1	0	-
									有症	1	0	-
32	11	15	龍野	飲食店	食品疑い	不明	47	21	有症	4	4	NoV G II
33		17	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	8	8	有症	3	3	NoV G II
									有症	1	0	-
34	12	19	加古川	こども園	ヒトヒト疑い	-	不明	30	有症	6	4	NoV G II
									調理従事者	5	0	-
									有症	2	2	NoV G II
35	12	9	加東	飲食店	食品疑い	不明	142	15	吐物	2	2	NoV G II
									調理従事者	11	3	NoV G II
									拭き取り	10	0	-
36	12	14	加古川	飲食店	食品疑い	不明	43	不明	有症	1	1	NoV G II
有症									1	1	NoV G II	
有症									1	1	NoV G II	
37	22	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	41	25	有症	1	1	NoV G II	
								有症	1	1	NoV G II	
38	28	明石	飲食店	食品疑い	不明	36	18	有症	4	3	NoV G II	
39	31	宝塚	飲食店	食品疑い	不明	不明	不明	有症	1	1	NoV G II	

NoVG I : ノロウイルス G I, NoVG II : ノロウイルス G II, RVA : A 群ロタウイルス

(12) 感染症発生動向調査における月別病原体検出件数 (2016年)

(インフルエンザの検体を除く)

(検体数)

		2016年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
検体数		79	45	39	36	40	50	64	48	44	39	54	47	585
患者数		41	30	26	27	29	33	40	29	29	27	43	35	389
検査材料	咽頭ぬぐい液	14	13	8	9	12	19	29	16	12	8	12	6	158
	鼻腔ぬぐい液	22	7	9	3	6	9	10	11	14	17	19	12	139
	髄液	9	7	6	3	2	1	1	5	1	2	3	1	41
	便	16	10	10	16	12	8	10	7	5	5	10	18	127
	尿	9	2	3	1	2	4	4	4	6	2	2	5	44
	血液	7	5	1	3	6	6	9	5	6	3	5	2	58
	気管吸引液	2	0	2	1	0	1	1	0	0	2	1	3	13
	その他	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	5

(検出件数)

疾患名	検出病原体	2016年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	アデノウイルス 3型	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 64型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
手足口病	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	1	9
	コクサッキーウイルス A9型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	エンテロウイルス 71型	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	パルボウイルスB19	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	4	5	1	0	0	0	0	10
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B1型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3
	エコーウイルス 6型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	ムンプスウイルス	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	水痘帯状疱疹ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎	ノロウイルス GII.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6
	ノロウイルス GII.3	2	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	6
	ノロウイルス GII.4	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
	ノロウイルス GII.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5
	ノロウイルス GII.17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	A群ロタウイルスG2	0	3	3	5	1	1	0	0	0	0	0	0	13
	A群ロタウイルスG3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	A群ロタウイルスG9	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	サボウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	4
	アストロウイルス 1型	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	アデノウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	アデノウイルス 2型	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	アデノウイルス 41型	0	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	エコーウイルス 18型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	エコーウイルス 25型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	パレコウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ライノウイルス	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
RSウイルス感染症	RSウイルス	14	4	2	0	1	0	0	3	9	12	12	9	66
	コクサッキーウイルス A2型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	エコーウイルス 6型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4
	ライノウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	1	3	9

疾患名	検出病原体	2016年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
百日咳	百日咳菌	0	2	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	6
	コクサッキーウイルス B1型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
流行性耳下腺炎	ムンプスウイルス	0	0	0	0	0	2	1	3	1	2	1	1	11
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
水痘	水痘帯状疱疹ウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
伝染性紅斑	パルボウイルスB19	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	エコーウイルス 9型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	A群溶血性レンサ球菌	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	エコーウイルス 25型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
発疹症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	麻疹ウイルス A型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	EBウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	サイトメガロウイルス	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	3
	RSウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	4	0	0	0	1	6	0	2	0	0	1	0	14
	RSウイルス	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	5
	ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	4
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	3
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	コクサッキーウイルス B5型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	パレコウイルス 1型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	アデノウイルス 2型	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	0	1	7
	アデノウイルス 3型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	5
	アデノウイルス 4型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 6型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	インフルエンザ菌	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	肺炎球菌	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	急性脳炎・脳症	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1
ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
水痘帯状疱疹ウイルス		0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4
ライノウイルス		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他 (不明熱・けいれん等)	アデノウイルス 1型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 2型	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	コクサッキーウイルス A4型	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
	コクサッキーウイルス A6型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	コクサッキーウイルス B1型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	パレコウイルス 3型	0	0	0	0	0	0	5	0	2	0	0	0	7
	ライノウイルス	1	0	7	0	0	1	0	0	1	0	1	0	11
	RSウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	単純ヘルペスウイルス 1型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	EBウイルス	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	6
	サイトメガロウイルス	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV6)	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	5
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV7)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	パルボウイルスB19	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5
ノロウイルス GⅡ.3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
検出数(合計)		36	17	24	24	18	29	43	27	28	33	43	38	360

4. 資 料

(1) 全数把握対象疾病の患者数

付表 1 - 1 : 全数把握対象疾病の年間患者数 (2016年)	5 4
付表 1 - 2 : 全数把握対象疾病の週別患者数 (届出のあった疾病) (2016年)	5 5
付表 1 - 3 : 全数把握対象疾病の保健所別患者数 (届出のあった疾病) (2016年)	5 6
付表 1 - 4 : 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数 (届出のあった疾病) (2016年)	5 7

(2) 定点把握対象疾病の週 (月) 別患者数

付表 2 - 1 : 週報対象疾病の週別患者数 (2016年)	5 8
付表 2 - 2 : 週報対象疾病の週別定点あたり患者数 (2016年)	5 9
付表 2 - 3 : 月報対象疾病の月別患者数 (2016年)	6 0
付表 2 - 4 : 月報対象疾病の月別定点あたり患者数 (2016年)	6 0

(3) 定点把握対象疾病の保健所別患者数

付表 3 - 1 : 週報対象疾病の保健所別患者数 (2016年)	6 1
付表 3 - 2 : 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数 (2016年)	6 2
付表 3 - 3 : 月報対象疾病の保健所別患者数 (2016年)	6 3
付表 3 - 4 : 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数 (2016年)	6 3

(4) 定点把握対象疾病の年齢階級別患者数

付表 4 - 1 : 週報対象疾病の年齢階級別患者数 (2016年)	6 4
付表 4 - 2 : 週報対象疾病の年齢階級別患者割合 (2016年)	6 5
付表 4 - 3 : 月報対象疾病の年齢階級別患者数 (2016年)	6 6
付表 4 - 4 : 月報対象疾病の年齢階級別患者割合 (2016年)	6 6

(5) 定点把握対象疾病 (月報) の性別患者数

付表 5 : 月報対象疾病の性別患者数と割合 (2016年)	6 6
--------------------------------------	-----

付表1-1 全数把握対象疾病の年間患者数(2016年)

疾病名		計	疾病名		計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	四類 感染症 (2)	ニパウイルス感染症	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0		日本紅斑熱	13
	痘そう	0		日本脳炎	0
	南米出血熱	0		ハンタウイルス肺症候群	0
	ペスト	0		Bウイルス病	0
	マールブルグ病	0		鼻疽	0
	ラッサ熱	0		ブルセラ症	0
二類 感染症	急性灰白髄炎	0		ベネズエラウマ脳炎	0
	結核	1158		ヘンドラウイルス感染症	0
	ジフテリア	0		発しんチフス	0
	重症急性呼吸器症候群 ^{*A}	0		ボツリヌス症	0
	中東呼吸器症候群 ^{*B}	0		マラリア	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0		野兔病	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0		ライム病	0
三類 感染症	コレラ	0		リッサウイルス感染症	0
	細菌性赤痢	5		リフトバレー熱	0
	腸管出血性大腸菌感染症	129		類鼻疽	0
	腸チフス	0		レジオネラ症	71
	パラチフス	0		レプトスピラ症	0
四類 感染症 (1)	E型肝炎	3		ロッキー山紅斑熱	0
	ウエストナイル熱 ^{*C}	0		アメーバ赤痢	48
	A型肝炎	8		ウイルス性肝炎 ^{*F}	16
	エキノコックス症	0	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	75	
	黄熱	0	急性脳炎 ^{*G}	52	
	オウム病	0	クリプトスポリジウム症	0	
	オムスク出血熱	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	10	
	回帰熱	0	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	27	
	キャサナル森林病	0	後天性免疫不全症候群	34	
	Q熱	0	ジアルジア症	2	
	狂犬病	0	侵襲性インフルエンザ菌感染症	17	
	コクシジオイデス症	0	侵襲性髄膜炎菌感染症	3	
	サル痘	0	侵襲性肺炎球菌感染症	142	
	ジカウイルス感染症 ^{*1}	0	水痘(入院例)	9	
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*D}	0	先天性風しん症候群	0	
	腎症候性出血熱	0	梅毒	184	
	西部ウマ脳炎	0	播種性クリプトコックス症	3	
	ダニ媒介脳炎	0	破傷風	0	
	炭疽	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	
	チクングニア熱	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	
	つつが虫病	9	風しん	9	
	デング熱	16	麻しん	20	
	東部ウマ脳炎	0	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	
鳥インフルエンザ ^{*E}	0				

^{*A}病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。^{*B}病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。
^{*C}ウエストナイル脳炎を含む。^{*D}病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。^{*E}H5N1及びH7N9を除く。^{*F}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*G}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

^{*1}2016年2月15日より追加

付表1-2 全数把握対象疾病の週別患者数(届出のあった疾病)(2016年)

疾病名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
二類感染症	結核	22	20	21	20	15	15	26	20	18	26	24	19	15	19	11	23	25	14	26	27	23	22	22	21	14	22	26		
	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
四類感染症	E型肝炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	A型肝炎	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
	つつが虫病	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	デング熱	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	レジオネラ症	1	2	1	1	1	3	1	0	2	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	4	1	1	6	2	2	2	
	アメーバ赤痢	1	1	1	1	0	3	0	1	0	1	2	2	0	0	0	2	2	0	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	
五類感染症	ウイルス性肝炎* ^A	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	1	1	2	2	2	2	0	1	1	0	1	0	2	0	2	3	3	0	3	0	0	1	1	1	1	1	1	
	急性脳炎* ^B	1	1	1	1	3	0	3	0	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	2	1	2	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	2	1	0	1	3	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	1	1	
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	1	1	1	0	0	1	0	2	0	1	1	0	1	2	0	2	0	0	
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	2	0	1	4	3	4	0	3	4	6	1	4	8	0	4	9	5	7	3	4	4	4	3	2	1	1	1	
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
	梅毒	0	0	2	1	1	1	2	1	1	4	2	6	4	4	4	3	4	0	3	4	4	2	5	2	7	3	4	4	
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	
	麻しん	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
疾病名		28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計			
二類感染症	結核	13	19	23	26	30	27	28	25	24	21	20	41	18	21	35	26	25	29	28	23	28	16	25	11	20	1158			
	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
四類感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8		
	つつが虫病	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	9		
	デング熱	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	16		
	日本紅斑熱	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	2	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13		
	レジオネラ症	1	2	1	0	1	1	1	1	2	0	1	2	7	7	0	0	3	1	1	0	0	0	0	2	0	0	71		
	アメーバ赤痢	1	0	1	0	1	2	0	2	0	6	1	0	1	1	1	2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	48		
五類感染症	ウイルス性肝炎* ^A	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	16		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	2	1	1	1	4	0	3	1	7	1	1	2	1	1	2	4	2	0	2	4	1	1	1	1	75		
	急性脳炎* ^B	1	1	0	0	2	0	1	3	1	0	1	0	0	2	2	2	0	1	0	2	0	0	3	2	1	0	52		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	10		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	27	
	後天性免疫不全症候群	0	0	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	3	1	0	0	34		
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	17		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1	0	2	2	1	0	2	1	1	1	0	0	1	4	2	4	1	1	2	4	3	8	0	7	0	142		
	水痘(入院例)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	9		
	梅毒	2	2	5	6	4	4	6	7	6	2	2	3	5	7	2	7	4	7	3	5	4	3	6	3	5	0	184		
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		
	風しん	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	麻しん	0	0	0	0	0	1	3	5	6	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	20	

^AE型肝炎及びA型肝炎を除く。^Bウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-3 全数把握対象疾病の保健所別患者数(届出のあった疾病)(2016年)

疾 病 名		神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
二 類 感 染 症	結核	402	134	97	94	22	62	54	54	73	41
三 類 感 染 症	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症	1 34	1 9	0 12	0 3	0 2	0 5	0 5	0 3	0 7	1 40
四 類 感 染 症	E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 レジオネラ症	1 2 1 5 1 22	2 1 0 1 2 6	0 0 1 1 0 8	0 1 0 3 0 2	0 0 0 0 2 1	0 0 0 0 1 2	0 1 0 1 1 2	0 0 0 1 0 3	0 0 1 2 0 3	0 0 1 0 1 4
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 風しん 麻しん	16 6 23 37 4 13 16 1 7 1 67 1 58 2 4 1	4 1 3 2 1 8 0 3 0 19 2 32 0 3 13	5 0 7 2 0 3 3 0 3 1 13 18 0 0 0	5 3 13 0 4 3 0 0 1 6 2 14 1 0 5	0 0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 4 0 1 0	2 2 6 0 0 0 1 2 3 0 6 3 8 0 0 1	1 0 2 0 0 0 0 1 0 4 7 0 8 0 10 0 0 0	0 1 1 0 0 0 0 1 0 7 0 18 0 1 0	5 1 5 3 1 1 0 1 0 7 1 8 0 1 0	1 1 6 1 0 1 0 0 0 2 8 0 0 0

疾 病 名		龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
二 類 感 染 症	結核	51	19	2	12	8	17	16	1158
三 類 感 染 症	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症	0 1	0 0	0 0	2 1	0 0	0 3	0 4	5 129
四 類 感 染 症	E型肝炎 A型肝炎 つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 レジオネラ症	0 0 0 0 0 4	0 1 0 0 0 2	0 0 0 0 0 1	0 0 0 2 0 4	0 1 3 0 0 3	0 1 1 0 0 3	0 0 1 0 5 1	3 8 9 16 13 71
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎* ^A カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染 急性脳炎* ^B クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 風しん 麻しん	2 0 0 0 0 1 0 0 0 0 2 0 0 0	6 1 8 0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	1 0 0 7 0 0 0 0 0 3 0 0 0 0	0 0 0 0 0 1 0 0 0 0 6 0 0 0	0 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 1 0 0 0 0 1 0 4 0 3 0 0 0	48 16 75 52 10 27 34 2 17 3 142 9 184 3 9 20

^AE型肝炎及びA型肝炎を除く。^Bウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表1-4 全数把握対象疾病の年齢階級別患者数(届出のあった疾病)(2016年)

疾 病 名		0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
二類 感染症	結核	11	17	1	4	4	29	31	39	33	57	54
三類 感染症	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	2	1	1	1	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	1	30	24	6	3	8	9	10	10	8	1
											0	0
											0	1
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
	A型肝炎	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	デング熱	0	0	1	0	0	3	1	1	1	0	4
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
五類 感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	1	1	2	2	4	9
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	0	0	0	0	3	3	3	5	0	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0
	急性脳炎 ^{*B}	4	22	8	4	1	1	1	1	2	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	2	6	3	6	5	2
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	26	8	2	0	1	0	1	3	2	3
	水痘(入院例)	0	1	0	1	0	0	3	0	0	1	0
	梅毒	1	0	0	0	6	19	33	22	18	23	17
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	風しん	0	0	1	0	1	2	2	2	0	1	0
	麻しん	0	7	2	1	3	1	1	0	3	0	1
疾 病 名		50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳	85-89歳	90歳以上	計	
二類 感染症	結核	54	58	70	85	100	129	153	147	82	1158	
三類 感染症	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3	4	4	2	2	1	0	1	129	
	腸チフス											
	パラチフス											
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	A型肝炎	1	2	0	0	1	0	0	0	0	8	
	つつが虫病	0	0	1	3	1	0	2	1	0	9	
	デング熱	3	0	0	0	2	0	0	0	0	16	
	日本紅斑熱	0	1	1	4	3	2	1	0	1	13	
	レジオネラ症	4	7	7	15	8	10	7	7	3	71	
五類 感染症	アメーバ赤痢	9	7	5	6	2	0	0	0	0	48	
	ウイルス性肝炎 ^{*A}	0	0	1	0	0	0	0	1	0	16	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	3	7	9	6	10	10	15	8	75	
	急性脳炎 ^{*B}	0	1	2	1	2	0	1	0	0	52	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	1	2	3	2	1	1	0	0	10	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	2	5	4	6	2	1	2	0	27	
	後天性免疫不全症候群	5	2	2	1	0	0	0	0	0	34	
	ジアルジア症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	1	0	2	2	2	0	3	1	17	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	3	8	18	14	12	11	13	6	142	
	水痘(入院例)	1	1	0	0	0	0	1	0	0	9	
	梅毒	15	11	3	7	4	2	2	0	1	184	
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	
	麻しん	0	0	0	1	0	0	0	0	0	20	

^{*A}E型肝炎及びA型肝炎を除く。^{*B}ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

付表2-1 週報対象疾病の週別患者数(2016年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	323	615	1694	3547	6082	7918	7590	8125	8199	6222	4243	2634	2217	1144	568	433	225	91
RSウイルス感染症	280	138	146	92	57	38	54	30	23	19	15	13	20	12	12	16	15	12
咽頭結膜熱	71	50	66	78	76	79	84	62	83	62	53	49	49	34	44	44	45	45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	229	231	315	326	312	303	298	325	310	271	221	165	172	180	159	227	206	156
感染性胃腸炎	1001	958	1062	951	956	918	878	852	910	928	887	670	962	904	795	983	978	603
水痘	144	91	88	64	63	60	55	29	39	38	34	38	37	41	43	38	53	49
手足口病	4	12	2	1	3	1	3	2	1	1	1	1	1	0	0	5	1	4
伝染性紅斑	78	81	70	61	49	63	42	44	56	69	57	34	45	35	39	39	26	23
突発性発しん	44	47	33	32	43	38	39	26	37	30	35	35	38	53	42	62	60	49
百日咳	2	3	1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	4
ヘルパンギーナ	2	0	6	0	3	0	0	0	0	0	2	2	1	2	1	2	2	4
流行性耳下腺炎	132	93	81	111	90	93	100	112	104	108	108	91	119	135	108	113	97	112
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	1	0
流行性角結膜炎	15	15	16	10	17	16	13	9	16	22	8	6	10	15	10	8	10	15
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2	3	0	1	2	0	1
無菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	1
マイコプラズマ肺炎	8	4	7	2	4	4	9	2	4	4	6	2	6	5	1	4	5	12
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	3	2	3	9	14	14	7	13	19	11	12	10	17	14	9	5	8	5

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	95	50	26	15	6	3	7	3	4	0	1	5	0	0	1	2	1	8
RSウイルス感染症	5	11	1	5	2	2	2	2	5	22	14	15	22	43	30	48	61	86
咽頭結膜熱	70	65	79	59	79	86	75	79	49	60	54	71	57	43	58	54	90	82
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	250	255	297	292	255	258	254	263	239	170	160	155	131	99	80	107	89	129
感染性胃腸炎	1009	1042	1020	1003	1056	1010	895	860	754	670	600	628	567	498	480	610	692	620
水痘	68	66	85	60	69	55	65	40	47	42	35	28	45	35	46	40	41	37
手足口病	4	17	14	14	27	27	44	41	82	71	60	60	66	29	24	39	39	28
伝染性紅斑	49	55	42	43	52	39	42	47	33	30	33	24	20	17	16	14	20	18
突発性発しん	70	60	66	71	62	79	78	69	68	58	53	60	53	49	62	57	58	60
百日咳	6	6	3	1	3	0	4	4	8	2	8	7	1	0	4	1	2	3
ヘルパンギーナ	2	12	23	38	48	126	229	388	546	699	518	363	325	180	80	111	74	52
流行性耳下腺炎	140	131	120	168	103	194	173	150	154	150	187	200	193	123	204	176	174	179
急性出血性結膜炎	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	9	13	15	8	15	11	13	16	14	14	12	19	17	6	10	19	12	20
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	0	3	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	3	2	1	0	1	2	1	0	3	1	3	1	5	0	2	0	0
マイコプラズマ肺炎	6	8	2	7	4	9	9	6	8	11	16	16	16	17	11	18	18	13
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	8	5	0	0	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	計
インフルエンザ ^{*A}	3	5	5	2	16	37	35	73	97	144	214	375	455	722	1271	1200		66751
RSウイルス感染症	101	117	139	210	190	191	205	178	170	203	180	168	167	179	163	139		4068
咽頭結膜熱	63	40	46	43	20	66	33	22	33	34	39	45	51	78	66	60		3023
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	114	101	106	147	90	118	86	132	139	133	144	164	183	174	160	104		9984
感染性胃腸炎	617	499	623	609	547	711	843	1040	1500	1998	2028	2595	3051	3145	2452	1347		53815
水痘	44	40	31	40	42	45	56	36	84	68	92	85	98	84	75	75		2903
手足口病	39	51	44	68	56	46	64	57	47	45	61	42	48	40	24	14		1475
伝染性紅斑	15	13	20	11	8	14	11	7	10	18	16	12	25	18	14	6		1723
突発性発しん	66	53	61	67	57	38	63	43	40	44	42	52	45	51	48	34		2680
百日咳	2	0	2	2	0	3	2	1	0	0	1	1	4	2	1	1		102
ヘルパンギーナ	64	32	51	63	46	28	27	25	23	16	19	9	9	11	9	3		4276
流行性耳下腺炎	184	159	237	190	192	256	186	225	192	162	199	174	185	184	150	98		7799
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0		15
流行性角結膜炎	12	14	20	17	15	9	16	12	14	10	11	19	13	12	22	16		706
細菌性髄膜炎 ^{*B}	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	2	1		33
無菌性髄膜炎	1	0	0	1	0	4	1	2	1	0	3	1	1	2	0	0		50
マイコプラズマ肺炎	16	14	9	28	10	21	13	14	12	15	13	8	15	15	13	8		508
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0		200

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-2 週報対象疾病の週別定点あたり患者数(2016年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^{*A}	1.62	3.09	8.51	17.82	30.56	39.79	38.14	40.83	41.20	31.27	21.32	13.24	11.20	5.75	2.85	2.18	1.13	0.46
RSウイルス感染症	2.17	1.07	1.13	0.71	0.44	0.29	0.42	0.23	0.18	0.15	0.12	0.10	0.16	0.09	0.09	0.12	0.12	0.09
咽頭結膜熱	0.55	0.39	0.51	0.60	0.59	0.61	0.65	0.48	0.64	0.48	0.41	0.38	0.38	0.26	0.34	0.34	0.35	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.78	1.79	2.44	2.53	2.42	2.35	2.31	2.52	2.40	2.10	1.71	1.28	1.33	1.40	1.23	1.76	1.58	1.20
感染性胃腸炎	7.76	7.43	8.23	7.37	7.41	7.12	6.81	6.60	7.05	7.19	6.88	5.19	7.46	7.01	6.16	7.62	7.52	4.64
水痘	1.12	0.71	0.68	0.50	0.49	0.47	0.43	0.22	0.30	0.29	0.26	0.29	0.29	0.32	0.33	0.29	0.41	0.38
手足口病	0.03	0.09	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.04	0.01	0.03
伝染性紅斑	0.60	0.63	0.54	0.47	0.38	0.49	0.33	0.34	0.43	0.53	0.44	0.26	0.35	0.27	0.30	0.30	0.20	0.18
突発性発しん	0.34	0.36	0.26	0.25	0.33	0.29	0.30	0.20	0.29	0.23	0.27	0.27	0.29	0.41	0.33	0.48	0.46	0.38
百日咳	0.02	0.02	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.00	0.03
ヘルパンギーナ	0.02	0.00	0.05	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.03
流行性耳下腺炎	1.02	0.72	0.63	0.86	0.70	0.72	0.78	0.87	0.81	0.84	0.84	0.71	0.92	1.05	0.84	0.88	0.75	0.86
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.03	0.03	0.00	0.03	0.00	0.00	0.03	0.00
流行性角結膜炎	0.43	0.43	0.46	0.29	0.49	0.46	0.37	0.26	0.46	0.63	0.23	0.17	0.29	0.43	0.29	0.23	0.29	0.43
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.14	0.21	0.00	0.07	0.14	0.00	0.07
無菌性髄膜炎	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.14	0.07	0.14	0.00	0.07
マイコプラズマ肺炎	0.57	0.29	0.50	0.14	0.29	0.29	0.64	0.14	0.29	0.29	0.43	0.14	0.43	0.36	0.07	0.29	0.36	0.86
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.21	0.14	0.21	0.64	1.00	1.00	0.50	0.93	1.36	0.79	0.86	0.71	1.21	1.00	0.64	0.36	0.57	0.36

疾 病 名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^{*A}	0.48	0.25	0.13	0.08	0.03	0.02	0.04	0.02	0.02	0.00	0.01	0.03	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.04
RSウイルス感染症	0.04	0.08	0.01	0.04	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.17	0.11	0.12	0.17	0.34	0.23	0.37	0.47	0.67
咽頭結膜熱	0.54	0.50	0.61	0.46	0.61	0.67	0.58	0.61	0.38	0.47	0.42	0.55	0.44	0.34	0.45	0.42	0.70	0.64
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.92	1.96	2.28	2.26	1.98	2.00	1.97	2.04	1.85	1.32	1.24	1.20	1.02	0.77	0.62	0.83	0.69	1.00
感染性胃腸炎	7.76	8.02	7.85	7.78	8.19	7.83	6.94	6.67	5.84	5.19	4.65	4.87	4.40	3.89	3.72	4.73	5.36	4.81
水痘	0.52	0.51	0.65	0.47	0.53	0.43	0.50	0.31	0.36	0.33	0.27	0.22	0.35	0.27	0.36	0.31	0.32	0.29
手足口病	0.03	0.13	0.11	0.11	0.21	0.21	0.34	0.32	0.64	0.55	0.47	0.47	0.51	0.23	0.19	0.30	0.30	0.22
伝染性紅斑	0.38	0.42	0.32	0.33	0.40	0.30	0.33	0.36	0.26	0.23	0.26	0.19	0.16	0.13	0.12	0.11	0.16	0.14
突発性発しん	0.54	0.46	0.51	0.55	0.48	0.61	0.60	0.53	0.53	0.45	0.41	0.47	0.41	0.38	0.48	0.44	0.45	0.47
百日咳	0.05	0.05	0.02	0.01	0.02	0.00	0.03	0.03	0.06	0.02	0.06	0.05	0.01	0.00	0.03	0.01	0.02	0.02
ヘルパンギーナ	0.02	0.09	0.18	0.29	0.37	0.98	1.78	3.01	4.23	5.42	4.02	2.81	2.52	1.41	0.62	0.86	0.57	0.40
流行性耳下腺炎	1.08	1.01	0.92	1.30	0.80	1.50	1.34	1.16	1.19	1.16	1.45	1.55	1.50	0.96	1.58	1.36	1.35	1.39
急性出血性結膜炎	0.03	0.00	0.06	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性角結膜炎	0.26	0.37	0.43	0.23	0.43	0.33	0.37	0.46	0.40	0.40	0.34	0.54	0.49	0.17	0.29	0.54	0.34	0.57
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	0.00	0.21	0.00	0.07	0.07	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.21	0.14	0.07	0.00	0.07	0.14	0.07	0.00	0.21	0.07	0.21	0.07	0.36	0.00	0.14	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.43	0.57	0.14	0.50	0.29	0.64	0.64	0.43	0.57	0.79	1.14	1.14	1.14	1.21	0.79	1.29	1.29	0.93
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.57	0.36	0.00	0.00	0.21	0.14	0.14	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07

疾 病 名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	週平均
インフルエンザ ^{*A}	0.02	0.03	0.03	0.01	0.08	0.19	0.18	0.37	0.49	0.72	1.08	1.88	2.29	3.63	6.39	6.03	6.45
RSウイルス感染症	0.78	0.91	1.08	1.63	1.47	1.48	1.59	1.38	1.32	1.57	1.40	1.30	1.29	1.39	1.26	1.08	0.61
咽頭結膜熱	0.49	0.31	0.36	0.33	0.16	0.51	0.26	0.17	0.26	0.26	0.30	0.35	0.40	0.60	0.51	0.47	0.45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.88	0.78	0.82	1.14	0.70	0.91	0.67	1.02	1.08	1.03	1.12	1.27	1.42	1.35	1.24	0.81	1.49
感染性胃腸炎	4.78	3.87	4.83	4.72	4.24	5.51	6.53	8.06	11.63	15.49	15.72	20.12	23.65	24.38	19.01	10.44	8.02
水痘	0.34	0.31	0.24	0.31	0.33	0.35	0.43	0.28	0.65	0.53	0.71	0.66	0.76	0.65	0.58	0.58	0.43
手足口病	0.30	0.40	0.34	0.53	0.43	0.36	0.50	0.44	0.36	0.35	0.47	0.33	0.37	0.31	0.19	0.11	0.22
伝染性紅斑	0.12	0.10	0.16	0.09	0.06	0.11	0.09	0.05	0.08	0.14	0.12	0.09	0.19	0.14	0.11	0.05	0.26
突発性発しん	0.51	0.41	0.47	0.52	0.44	0.29	0.49	0.33	0.31	0.34	0.33	0.40	0.35	0.40	0.37	0.26	0.40
百日咳	0.02	0.00	0.02	0.02	0.00	0.02	0.02	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.03	0.02	0.01	0.01	0.02
ヘルパンギーナ	0.50	0.25	0.40	0.49	0.36	0.22	0.21	0.19	0.18	0.12	0.15	0.07	0.07	0.09	0.07	0.02	0.64
流行性耳下腺炎	1.43	1.23	1.84	1.47	1.49	1.98	1.44	1.74	1.49	1.26	1.54	1.35	1.43	1.43	1.16	0.76	1.16
急性出血性結膜炎	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
流行性角結膜炎	0.34	0.40	0.57	0.49	0.43	0.26	0.46	0.34	0.40	0.29	0.31	0.54	0.37	0.34	0.63	0.46	0.39
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.07	0.07	0.00	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.14	0.07	0.05	0.05
無菌性髄膜炎	0.07	0.00	0.00	0.07	0.00	0.29	0.07	0.14	0.07	0.00	0.21	0.07	0.07	0.14	0.00	0.00	0.07
マイコプラズマ肺炎	1.14	1.00	0.64	2.00	0.71	1.50	0.93	1.00	0.86	1.07	0.93	0.57	1.07	1.07	0.93	0.57	0.70
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	0.07	0.00	0.27

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表2-3 月報対象疾病の月別患者数(2016年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	63	59	71	69	74	86	61	89	85	60	72	73	862
性器ヘルペスウイルス感染症	24	25	27	25	28	18	31	25	30	26	26	25	310
尖圭コンジローマ	12	16	9	8	13	20	14	16	14	18	17	14	171
淋菌感染症	26	22	27	20	27	29	28	21	25	21	24	27	297
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	33	35	38	40	49	31	29	45	34	41	44	32	451
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	5	7	5	9	4	7	5	4	5	5	6	71
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0	0	3	0	1	1	1	1	1	9

付表2-4 月報対象疾病の月別定点あたり患者数(2016年)

疾 病 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	月平均
性器クラミジア感染症	1.37	1.28	1.54	1.50	1.61	1.87	1.33	1.93	1.85	1.30	1.57	1.59	1.56
性器ヘルペスウイルス感染症	0.52	0.54	0.59	0.54	0.61	0.39	0.67	0.54	0.65	0.57	0.57	0.54	0.56
尖圭コンジローマ	0.26	0.35	0.20	0.17	0.28	0.43	0.30	0.35	0.30	0.39	0.37	0.30	0.31
淋菌感染症	0.57	0.48	0.59	0.43	0.59	0.63	0.61	0.46	0.54	0.46	0.52	0.59	0.54
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2.36	2.50	2.71	2.86	3.50	2.21	2.07	3.21	2.43	2.93	3.14	2.29	2.68
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.64	0.36	0.50	0.36	0.64	0.29	0.50	0.36	0.29	0.36	0.36	0.43	0.42
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	0.21	0.00	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.05

付表3-1 週報対象疾病の保健所別患者数(2016年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ ^{*A}	15704	4835	9000	3566	864	5030	2971	3444	4240	4869
RSウイルス感染症	606	302	685	217	13	124	173	284	501	409
咽頭結膜熱	502	210	210	192	25	223	159	90	138	787
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2133	339	2590	488	61	906	422	326	365	553
感染性胃腸炎	11509	3114	8863	3670	753	3146	1751	2611	2772	5121
水痘	683	130	365	166	21	319	177	169	170	217
手足口病	455	49	165	91	14	90	112	31	43	106
伝染性紅斑	426	41	233	97	22	68	60	171	151	215
突発性発しん	582	152	416	195	40	158	140	132	205	221
百日咳	16	2	36	1	0	5	3	13	8	5
ヘルパンギーナ	1050	256	636	395	46	257	300	128	295	316
流行性耳下腺炎	2024	537	978	203	123	957	356	584	453	601
急性出血性結膜炎	3	0	4	0	0	4	0	0	2	0
流行性角結膜炎	117	86	52	46	3	98	39	10	106	73
細菌性髄膜炎 ^{*B}	12	3	0	1	—	—	—	—	4	0
無菌性髄膜炎	10	3	0	0	—	—	—	—	17	3
マイコプラズマ肺炎	48	80	0	0	—	—	—	—	153	43
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	—	—	—	—	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	12	51	2	0	—	—	—	—	61	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
インフルエンザ ^{*A}	2213	1824	907	2830	1417	847	2190	66751
RSウイルス感染症	47	131	1	92	22	131	330	4068
咽頭結膜熱	70	170	3	28	19	91	106	3023
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	113	406	52	244	220	185	581	9984
感染性胃腸炎	1951	1556	488	2699	411	937	2463	53815
水痘	49	28	23	138	42	76	130	2903
手足口病	88	10	28	60	33	63	37	1475
伝染性紅斑	84	36	2	56	14	17	30	1723
突発性発しん	69	64	7	110	55	40	94	2680
百日咳	8	2	0	0	2	1	0	102
ヘルパンギーナ	127	32	27	128	56	82	145	4276
流行性耳下腺炎	218	152	45	286	61	185	36	7799
急性出血性結膜炎	0	—	1	0	—	—	1	15
流行性角結膜炎	39	—	9	12	—	—	16	706
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	6	—	7	0	0	0	33
無菌性髄膜炎	0	2	—	12	0	2	1	50
マイコプラズマ肺炎	6	90	—	42	14	31	1	508
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	—	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	37	—	9	0	27	1	200

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-2 週報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2016年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
インフルエンザ ^{*A}	327.17	322.33	473.68	254.71	288.00	419.17	330.11	313.09	302.86	374.54
RSウイルス感染症	19.55	30.20	52.69	24.11	6.50	15.50	28.83	40.57	55.67	51.13
咽頭結膜熱	16.19	21.00	16.15	21.33	12.50	27.88	26.50	12.86	15.33	98.38
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	68.81	33.90	199.23	54.22	30.50	113.25	70.33	46.57	40.56	69.13
感染性胃腸炎	371.26	311.40	681.77	407.78	376.50	393.25	291.83	373.00	308.00	640.13
水痘	22.03	13.00	28.08	18.44	10.50	39.88	29.50	24.14	18.89	27.13
手足口病	14.68	4.90	12.69	10.11	7.00	11.25	18.67	4.43	4.78	13.25
伝染性紅斑	13.74	4.10	17.92	10.78	11.00	8.50	10.00	24.43	16.78	26.88
突発性発しん	18.77	15.20	32.00	21.67	20.00	19.75	23.33	18.86	22.78	27.63
百日咳	0.52	0.20	2.77	0.11	0.00	0.63	0.50	1.86	0.89	0.63
ヘルパンギーナ	33.87	25.60	48.92	43.89	23.00	32.13	50.00	18.29	32.78	39.50
流行性耳下腺炎	65.29	53.70	75.23	22.56	61.50	119.63	59.33	83.43	50.33	75.13
急性出血性結膜炎	0.30	0.00	1.33	0.00	0.00	2.00	0.00	0.00	0.67	0.00
流行性角結膜炎	11.70	28.67	17.33	15.33	3.00	49.00	19.50	5.00	35.33	36.50
細菌性髄膜炎 ^{*B}	4.00	3.00	0.00	1.00	—	—	—	—	4.00	0.00
無菌性髄膜炎	3.33	3.00	0.00	0.00	—	—	—	—	17.00	3.00
マイコプラズマ肺炎	16.00	80.00	0.00	0.00	—	—	—	—	153.00	43.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—	—	0.00	1.00
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	4.00	51.00	2.00	0.00	—	—	—	—	61.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
インフルエンザ ^{*A}	276.63	304.00	453.50	353.75	472.33	141.17	273.75	335.43
RSウイルス感染症	9.40	32.75	1.00	18.40	11.00	32.75	66.00	31.53
咽頭結膜熱	14.00	42.50	3.00	5.60	9.50	22.75	21.20	23.43
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	22.60	101.50	52.00	48.80	110.00	46.25	116.20	77.40
感染性胃腸炎	390.20	389.00	488.00	539.80	205.50	234.25	492.60	417.17
水痘	9.80	7.00	23.00	27.60	21.00	19.00	26.00	22.50
手足口病	17.60	2.50	28.00	12.00	16.50	15.75	7.40	11.43
伝染性紅斑	16.80	9.00	2.00	11.20	7.00	4.25	6.00	13.36
突発性発しん	13.80	16.00	7.00	22.00	27.50	10.00	18.80	20.78
百日咳	1.60	0.50	0.00	0.00	1.00	0.25	0.00	0.79
ヘルパンギーナ	25.40	8.00	27.00	25.60	28.00	20.50	29.00	33.15
流行性耳下腺炎	43.60	38.00	45.00	57.20	30.50	46.25	7.20	60.46
急性出血性結膜炎	0.00	—	1.00	0.00	—	—	1.00	0.43
流行性角結膜炎	39.00	—	9.00	12.00	—	—	16.00	20.17
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	6.00	—	7.00	0.00	0.00	0.00	2.36
無菌性髄膜炎	0.00	2.00	—	12.00	0.00	2.00	1.00	3.57
マイコプラズマ肺炎	6.00	90.00	—	42.00	14.00	31.00	1.00	36.29
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0.00	37.00	—	9.00	0.00	27.00	1.00	14.29

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表3-3 月報対象疾病の保健所別患者数(2016年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	228	121	170	70	17	11	50	26	78	22
性器ヘルペスウイルス感染症	78	34	29	6	1	12	38	20	16	7
尖圭コンジローマ	39	19	26	35	2	8	10	7	3	2
淋菌感染症	67	48	63	35	10	5	10	2	47	3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	62	112	55	32	—	—	—	—	30	14
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	48	0	0	7	—	—	—	—	1	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	5	2	1	0	—	—	—	—	0	0

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	計
性器クラミジア感染症	31	6	9	10	2	9	2	862
性器ヘルペスウイルス感染症	1	1	51	9	0	4	3	310
尖圭コンジローマ	0	2	6	10	0	1	1	171
淋菌感染症	3	0	0	0	1	0	3	297
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	27	19	—	35	4	28	33	451
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	—	6	0	0	8	71
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	—	1	0	0	0	9

付表3-4 月報対象疾病の保健所別定点あたり患者数(2016年)

疾 病 名	神戸市	尼崎市	姫路市	西宮市	芦屋	伊丹	宝塚	明石	加古川	加東
性器クラミジア感染症	19.00	30.25	42.50	23.33	17.00	5.50	16.67	13.00	19.50	7.33
性器ヘルペスウイルス感染症	6.50	8.50	7.25	2.00	1.00	6.00	12.67	10.00	4.00	2.33
尖圭コンジローマ	3.25	4.75	6.50	11.67	2.00	4.00	3.33	3.50	0.75	0.67
淋菌感染症	5.58	12.00	15.75	11.67	10.00	2.50	3.33	1.00	11.75	1.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20.67	112.00	55.00	32.00	—	—	—	—	30.00	14.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	16.00	0.00	0.00	7.00	—	—	—	—	1.00	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.67	2.00	1.00	0.00	—	—	—	—	0.00	0.00

疾 病 名	龍野	赤穂	福崎	豊岡	朝来	丹波	洲本	全県
性器クラミジア感染症	31.00	6.00	9.00	10.00	2.00	9.00	1.00	18.74
性器ヘルペスウイルス感染症	1.00	1.00	51.00	9.00	0.00	4.00	1.50	6.74
尖圭コンジローマ	0.00	2.00	6.00	10.00	0.00	1.00	0.50	3.72
淋菌感染症	3.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	1.50	6.46
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	27.00	19.00	—	35.00	4.00	28.00	33.00	32.21
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.00	0.00	—	6.00	0.00	0.00	8.00	5.07
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	—	1.00	0.00	0.00	0.00	0.64

付表4-1 週報対象疾病の年齢階級別患者数(2016年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	
インフルエンザ ^{*A}	185	713	2346	2645	3287	4302	5036	5163	4931	4444	3904	
RSウイルス感染症	716	812	1307	685	279	134	58	19	17	7	9	
咽頭結膜熱	18	164	669	450	439	369	293	189	136	79	51	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	77	353	623	959	1222	1406	1194	1017	795	578	
感染性胃腸炎	476	2786	6956	5639	5543	5655	5129	3939	2979	2506	2029	
水痘	30	105	239	204	242	392	493	374	265	199	119	
手足口病	5	117	447	291	169	155	124	58	31	17	13	
伝染性紅斑	3	23	78	109	163	254	310	240	178	147	97	
突発性発しん	65	1023	1298	221	40	17	6	2	2	0	1	
百日咳	12	3	6	8	5	7	5	8	6	5	5	
ヘルパンギーナ	16	342	1207	947	608	465	303	147	75	43	31	
流行性耳下腺炎	2	22	167	437	716	1105	1323	1096	884	657	458	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
流行性角結膜炎	3	5	37	25	32	24	33	13	11	9	8	
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	
細菌性髄膜炎 ^{*B}	3	0	3	0	0	0	0	1	2	1	1	
無菌性髄膜炎	9	4	8	2	2	4	6	5	1	1	3	
マイコプラズマ肺炎	3	140	165	93	21	12	14	11	16	5	6	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	15	138	40	2	0	0	0	1	0	0	0	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計		
インフルエンザ ^{*A}	12274	2455	2190	3620	3869	2173	1706	901	607	66751		
	10-14歳	15-19歳	20歳以上									
RSウイルス感染症	16	1	8									4068
咽頭結膜熱	125	14	27									3023
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1239	97	414									9984
感染性胃腸炎	4815	1064	4299									53815
水痘	208	14	19									2903
手足口病	28	1	19									1475
伝染性紅斑	112	1	8									1723
突発性発しん	4	0	1									2680
百日咳	20	2	10									102
ヘルパンギーナ	60	10	22									4276
流行性耳下腺炎	762	46	124									7799
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上				
急性出血性結膜炎	0	1	2	4	0	3	3	1				15
流行性角結膜炎	22	17	76	142	91	59	64	35				706
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上							
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0	4	4	1	13							33
無菌性髄膜炎	1	0	2	2	0							50
マイコプラズマ肺炎	2	2	4	3	11							508
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0							1
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	2	0	0	0	2							200

^{*A}鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 ^{*B}インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-2 週報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (2016年)

	0-5カ月	6-11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
インフルエンザ ^{*A}	0.28	1.07	3.51	3.96	4.92	6.44	7.54	7.73	7.39	6.66	5.85
RSウイルス感染症	17.60	19.96	32.13	16.84	6.86	3.29	1.43	0.47	0.42	0.17	0.22
咽頭結膜熱	0.60	5.43	22.13	14.89	14.52	12.21	9.69	6.25	4.50	2.61	1.69
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.10	0.77	3.54	6.24	9.61	12.24	14.08	11.96	10.19	7.96	5.79
感染性胃腸炎	0.88	5.18	12.93	10.48	10.30	10.51	9.53	7.32	5.54	4.66	3.77
水痘	1.03	3.62	8.23	7.03	8.34	13.50	16.98	12.88	9.13	6.85	4.10
手足口病	0.34	7.93	30.31	19.73	11.46	10.51	8.41	3.93	2.10	1.15	0.88
伝染性紅斑	0.17	1.33	4.53	6.33	9.46	14.74	17.99	13.93	10.33	8.53	5.63
突発性発しん	2.43	38.17	48.43	8.25	1.49	0.63	0.22	0.07	0.07	0.00	0.04
百日咳	11.76	2.94	5.88	7.84	4.90	6.86	4.90	7.84	5.88	4.90	4.90
ヘルパンギーナ	0.37	8.00	28.23	22.15	14.22	10.87	7.09	3.44	1.75	1.01	0.72
流行性耳下腺炎	0.03	0.28	2.14	5.60	9.18	14.17	16.96	14.05	11.33	8.42	5.87
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.67	0.00
流行性角結膜炎	0.42	0.71	5.24	3.54	4.53	3.40	4.67	1.84	1.56	1.27	1.13
	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
細菌性髄膜炎 ^{*B}	9.09	0.00	9.09	0.00	0.00	0.00	0.00	3.03	6.06	3.03	3.03
無菌性髄膜炎	18.00	8.00	16.00	4.00	4.00	8.00	12.00	10.00	2.00	2.00	6.00
マイコプラズマ肺炎	0.59	27.56	32.48	18.31	4.13	2.36	2.76	2.17	3.15	0.98	1.18
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	7.50	69.00	20.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	計	
インフルエンザ ^{*A}	18.39	3.68	3.28	5.42	5.80	3.26	2.56	1.35	0.91	100.00	
	10-14歳	15-19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	0.39	0.02	0.20							100.00	
咽頭結膜熱	4.13	0.46	0.89							100.00	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12.41	0.97	4.15							100.00	
感染性胃腸炎	8.95	1.98	7.99							100.00	
水痘	7.17	0.48	0.65							100.00	
手足口病	1.90	0.07	1.29							100.00	
伝染性紅斑	6.50	0.06	0.46							100.00	
突発性発しん	0.15	0.00	0.04							100.00	
百日咳	19.61	1.96	9.80							100.00	
ヘルパンギーナ	1.40	0.23	0.51							100.00	
流行性耳下腺炎	9.77	0.59	1.59							100.00	
	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	0.00	6.67	13.33	26.67	0.00	20.00	20.00	6.67		100.00	
流行性角結膜炎	3.12	2.41	10.76	20.11	12.89	8.36	9.07	4.96		100.00	
	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎 ^{*B}	0.00	12.12	12.12	3.03	39.39					100.00	
無菌性髄膜炎	2.00	0.00	4.00	4.00	0.00					100.00	
マイコプラズマ肺炎	0.39	0.39	0.79	0.59	2.17					100.00	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	—	—	—	—	0.00					100.00	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	1.00	0.00	0.00	0.00	1.00					100.00	

*A 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *B インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

付表4-3 月報対象疾病の年齢階級別患者数(2016年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	72	234	207	116	75
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	14	34	32	45	39
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	6	33	28	23	28
淋菌感染症	0	0	0	0	22	67	50	35	36
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20	15	8	1	2	4	10	9	12
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	3	1	1	0	1	1	1	0
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	64	42	27	13	6	4	2	862
性器ヘルペスウイルス感染症	26	36	21	20	17	9	17	310
尖圭コンジローマ	15	15	10	6	2	1	4	171
淋菌感染症	36	27	15	4	2	2	1	297
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	7	12	10	14	24	38	265	451
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	2	3	0	7	12	37	71
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	1	0	0	1	7	9

付表4-4 月報対象疾病の年齢階級別患者割合(%) (2016年)

疾 病 名	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
性器クラミジア感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	8.35	27.15	24.01	13.46	8.70
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	4.52	10.97	10.32	14.52	12.58
尖圭コンジローマ	0.00	0.00	0.00	0.00	3.51	19.30	16.37	13.45	16.37
淋菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	7.41	22.56	16.84	11.78	12.12
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4.43	3.33	1.77	0.22	0.44	0.89	2.22	2.00	2.66
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.41	4.23	1.41	1.41	0.00	1.41	1.41	1.41	0.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

疾 病 名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上	計
性器クラミジア感染症	7.42	4.87	3.13	1.51	0.70	0.46	0.23	100.00
性器ヘルペスウイルス感染症	8.39	11.61	6.77	6.45	5.48	2.90	5.48	100.00
尖圭コンジローマ	8.77	8.77	5.85	3.51	1.17	0.58	2.34	100.00
淋菌感染症	12.12	9.09	5.05	1.35	0.67	0.67	0.34	100.00
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1.55	2.66	2.22	3.10	5.32	8.43	58.76	100.00
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.41	2.82	4.23	0.00	9.86	16.90	52.11	100.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	11.11	0.00	0.00	11.11	77.78	100.00

付表5 月報対象疾病の性別患者数と割合(%) (2016年)

疾 病 名	男 (%)	女 (%)	計 (%)
性器クラミジア感染症	458 (53.13)	404 (46.87)	862 (100.00)
性器ヘルペスウイルス感染症	81 (26.13)	229 (73.87)	310 (100.00)
尖圭コンジローマ	124 (72.51)	47 (27.49)	171 (100.00)
淋菌感染症	249 (83.84)	48 (16.16)	297 (100.00)
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	286 (63.41)	165 (36.59)	451 (100.00)
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	46 (64.79)	25 (35.21)	71 (100.00)
薬剤耐性緑膿菌感染症	5 (55.56)	4 (44.44)	9 (100.00)

兵庫県感染症発生動向調査事業実施要領

第1 目的

感染症対策については、近年の新たな感染症の出現とともに、これまで制圧されてきた感染症の再興など感染症の脅威と感染症を取り巻く状況の変化に対応するため、健康危機管理の観点から、迅速かつ的確な対応、感染症の発生、拡大に備えた事前対応型の行政の構築などを柱として、平成11年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が施行された。

感染症発生動向調査事業は、県内の感染症の発生情報を正確に把握・分析、その情報を速やかに地域に公表することにより、地域住民の感染症に対する理解と協力を促し、医療機関における適切な初期診療や予防接種・衛生教育等の適切な予防措置を進め、感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報（検査情報も含む。以下同じ。）を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施する。

第2 法令等の遵守

本事業の実施にあたっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、「国要綱」という。）を遵守する。

第3 対象感染症

本事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施主体

実施主体は、兵庫県（以下、「県」という。）及び神戸市、姫路市、尼崎市及び西宮市（以下「保健所設置市」という。）とする。

第5 実施体制

1 基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、県又は保健所設置市の感染症所管課に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、県又は保健所設置市ごとに、原則として、地方衛生研究所内に地方感染症情報センターを設置する。

また、基幹地方感染症情報センターを県の感染症情報センター内に設置し、保健所設置市の地方感染症情報センター等と連携のうえ県全域にわたる患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を地方感染症情報センター、県健康福祉部健康局疾病対策課（以下、「県疾病対策課」という。）に報告するとともに、全国情報と併せて、これらをインターネット等により速やかに情報公開する。

なお、基幹地方感染症情報センターは情報の収集、分析の効果的、効率的な運

用を図るため、必要に応じて兵庫県健康づくり審議会感染症対策専門委員会の助言を求める。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

(1) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として患者定点及び疑似症定点をあらかじめ指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

(2) 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ指定する。

また、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を指定する。

なお、保健所設置市内の定点については、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

3 検査施設

県及び保健所設置市の管轄区域内における本事業に係る検体等の検査については、地方衛生研究所若しくは県健康福祉事務所（以下、「健康福祉事務所」という。）又は保健所設置市の検査施設において実施する。

地方衛生研究所若しくは健康福祉事務所又は保健所設置市の検査施設（以下、「地方衛生研究所等」という。）は、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める検査施設における病原体検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

また、所管する地方衛生研究所等において実施できない検査について、保健所設置市は県立研究所に協力を依頼し、県立研究所において実施できない検査については、県又は保健所設置市は国立感染症研究所等に協力を依頼するなど検査実施体制を確保する。

第6 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び全数把握対象の五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 健康福祉事務所・保健所

(ア) 感染症法第12条に基づく医師からの届出、または感染症法第13条に基づく獣医師からの届出を受けた健康福祉事務所又は保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持する医療機関に対して、病原体検査のための検体等の提供

について、県又は保健所設置市がそれぞれ別に定める様式の検査票（以下「検査票」という。）を添付して依頼等を行うものとする。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じてそれぞれの感染症所管課及び地方衛生研究所と協議する。

(イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

(ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

イ 地方衛生研究所等

(ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を健康福祉事務所又は保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに送付する。

(イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査については、必要に応じて県立研究所に依頼する。

なお、県立研究所においても実施することが困難な検査については、必要に応じて国立感染症研究所に依頼する。

(ウ) 患者が一類感染症と診断されている場合、県域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急的な場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

ウ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは、管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所から情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは、管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報。以下同じ。）等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所や保健所等の関係機関に提供・公開する。

エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集し、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合や国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

2 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の指定

ア 患者定点

感染症法第14条に定める定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

なお、保健所設置市内の患者定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定する。

(ア) 小児科定点

別表2の小児科定点の対象感染症については、小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。小児科定点の数は国要綱に基づき算定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努める。

(イ) インフルエンザ定点

別表2のインフルエンザ定点の対象感染症については、前記（ア）で指定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。内科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(ウ) 眼科定点

別表2の眼科定点の対象疾患については、眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定すること。眼科定点の数は国要綱に基づき算定する。

(エ) 性感染症定点

別表2の眼科定点の対象疾患については、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和23年政令第326号）第3条の2第1項第1号ハ及び二（2）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として各々の標榜科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。性感染症定点の数は国要綱に基づき算定する。

(オ) 基幹定点

別表2の基幹定点の対象疾患については、対象患者がほとんど入院患者であるため、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を2次医療圏域毎に1カ所以上、基幹定点として指定する。

なお、基幹定点においては、別表2のインフルエンザ定点の対象感染症のうち、入院患者も届出対象とする。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、県は、次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、原則、患者定点として指定された医療機関の中から病原体定点を指定する。

また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の発生状況を把握できるよう考慮する。

同様に感染症法第14条の2に規定されている別表1の(97)に掲げるインフルエンザの病原体の分離等検査情報を収集するために、次の(エ)のインフルエンザ病原体定点を指定提出機関として指定する。

なお、病原体定点の数等については、次の基準の範囲内で、県が保健所設置市と協議して決定する。

(ア) 小児科病原体定点

アの(ア)により指定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

(イ) 眼科病原体定点

アの(ウ)により指定された患者定点の概ね10%を眼科病原体定点として指定する。

(ウ) 基幹病原体定点

アの(オ)により指定された患者定点の全てを基幹病原体定点として指定する。

(エ) インフルエンザ病原体定点・指定提出機関

アの(ア)及び(イ)により指定された患者定点の概ね10%とし、それぞれ3定点と2定点を下回らないよう指定する。

(3) 調査単位等

(ア) 患者定点に係る調査単位の期間等は、別表2のとおりとする。

(イ) 小児科病原体定点に係る調査単位の期間等は、別表3のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準（平成18年3月8日健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下同じ。）により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)のアにより指定された定点把握対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれ調査単位の患者発生状況等を記載する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより病原体検査のために検体等を採取する。

(イ) 小児科病原体定点においては、患者発生状況を踏まえ、県又は保健所設置

市が別に定めるところにより、別表3の対象感染症のうち複数の感染症について、毎月、原則として概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を、検査票を添えて、梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出するものとする。

(ウ) インフルエンザ病原体定点として指定された医療機関は、インフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに1検体程度を梱包のうえ、地方衛生研究所等に提出する。

(エ) その他の病原体定点として指定された医療機関は、県又は保健所設置市が別に定めるところにより、検体等について、検査票を添えて、梱包のうえ、速やかに地方衛生研究所等に送付する。

ウ 検体等を所持している医療機関等

健康福祉事務所又は保健所から当該患者の病原体検査のための検体等を提供の依頼を受けた場合にあっては、健康福祉事務所又は保健所に協力し、検体等を提供する。

エ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 健康福祉事務所又は保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに報告する。

なお、健康福祉事務所又は保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、検査票を添付して病原体検査のための検体等の提供の依頼等を行い、地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。病原体検査の必要性の判断及び実施等については、必要に応じて県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方衛生研究所等と協議する。

(イ) 健康福祉事務所又は保健所は、検体等の提供を受けた場合には、検査票を添付して地方衛生研究所等へ検査を依頼するものとする。

(ウ) 健康福祉事務所又は保健所は、定点把握対象の五類感染症の発生状況を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

オ 地方衛生研究所等

(ア) 地方衛生研究所等は、検査票及び検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体を検査し、その結果を病原体情報として健康福祉事務所又は保健所を経由して病原体定点に通知するとともに、県疾病対策課及び保健所設置市感染症所管課並びに地方感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報については、速やかに中央感染症情報センター（国立感染症研究所感染症疫学センター。以下同じ。）に報告する。

(イ) 保健所設置市の地方衛生研究所等において実施することが困難な検査については、必要に応じて県立研究所に検査を依頼する。

なお、県立研究所においても検査が困難な場合は、必要に応じて国立感染症研究所に協力を依頼するものとする。

(ウ) 地方衛生研究所等は、県域を超えた集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められ場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

カ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域の患者情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは、県又は保健所設置市の管轄区域内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

キ 基幹地方感染症情報センター

基幹感染症情報センターは、県内の全ての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

ク 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課は、基幹地方感染症情報センター及び地方感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県とも連携の上、迅速な対応を行う。

3 感染症法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 疑似症定点の指定

県は次の点に留意し、関係医師会等の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に疑似症定点を指定する。また、定点の指定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ県全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮すること。

なお、保健所設置市内の疑似症定点の指定にあたっては、保健所設置市の推薦に基づき指定すること。

(ア) 第一号疑似症定点

対象疑似症のうち、別表1の(113)に掲げるものについては、内科又は小児科を標榜する医療機関（主として内科又は小児科医療を提供しているもの）を第一号疑似症定点とする。

また、第一号疑似症定点の数は国要綱に基づき算定する。

なお、小児科定点又はインフルエンザ定点を兼ねることができる。

(イ) 第二号疑似症定点

対象疑似症のうち、別表1の(114)に掲げるものについては、内科、小児科又は皮膚科を標榜する医療機関（主として内科、小児科又は皮膚科医療を提供しているもの）を第二号疑似症定点とする。ただし、当面の間は第一号疑似症定点を第二号疑似症定点として指定する。

(3) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として指定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、診療時において、届出基準により、直ちに疑似症発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2)の(ア)により選定された定点把握対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況等を保健所に連絡する。

(ウ) (イ)の届出に当たっては感染症法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 健康福祉事務所・保健所

(ア) 届出を受けた健康福祉事務所又は保健所は、当該疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに、症候群サーベイランスシステムに入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、県疾病対策課又は保健所設置市感染症所管課及び地方感染症情報センター並びに中央感染症情報センターに報告する。

(イ) 健康福祉事務所・保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町、医療機関、地域医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

ウ 地方感染症情報センター

(ア) 地方感染症情報センターは管轄区域の疑似症情報について、健康福祉事務所又は保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 地方感染症情報センターは管轄区域内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される県情報、全国情報と併せて、健康福祉事務所又は保健所等の関係機関に提供・公開する。

エ 基幹地方感染症情報センター

基幹地方感染症情報センターは、県内の全ての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、県疾病対策課、保健所設置市感染症所管課及び健康福祉事務所、保健所、地方感染症情報センター等の関係機関に情報提供する。

オ 県疾病対策課・保健所設置市感染症所管課

地方感染症情報センターが収集、分析した疑似症情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県と連携の上、迅速な対応を行う。

4 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、県の実情に

応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査を構築していくこととする。

(2) 本実施要領に定める事項以外の内容については、保健所設置市の意見を聴取したうえで、必要に応じて県健康福祉部健康局長が定めることとする。

5 保健所設置市との関係

兵庫県は、本事業を実施するため保健所設置市と協議し、連携を図る。

なお、本要領に定める保健所設置市内の保健所設置市感染症所管課、保健所、地方衛生研究所等及び地方感染症情報センターの機能及び役割分担等については、実情に応じて保健所設置市が別に定めることができる。

附 則

- 1 この実施要領は、平成22年9月1日から施行する。
- 2 兵庫県結核・感染症発生動向調査事業実施要綱（昭和62年1月1日施行）は廃止する。
- 3 この実施要領の一部改正は、平成23年2月1日から施行する。
- 4 この実施要領の一部改正は、平成23年9月5日から施行する。
- 5 この実施要領の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。
- 6 この実施要領の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。
- 7 この実施要領の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。
- 8 この実施要領の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。
- 9 この実施要領の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。
- 10 この実施要領の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。
- 11 この実施要領の一部改正は、平成28年2月15日から施行する。
- 12 この実施要領の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。

なお、第6（2）イ（イ）及び（エ）の規程にかかわらず、姫路市内、尼崎市内、西宮市内の病原体定点（インフルエンザ定点を除く）として指定された医療機関は、当面の間、検体等を県立研究所に送付するものとする。

別表1 兵庫県感染症発生動向調査事業の対象感染症

類型	疾患名	届出
一類	(1)エボラ出血熱、(2)クリミア・コンゴ出血熱、(3)痘そう、(4)南米出血熱、(5)ペスト、(6)マールブルグ病、(7)ラッサ熱	全数
二類	(8)急性灰白髄炎、(9)結核、(10)ジフテリア、(11)重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、(12)中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、(13)鳥インフルエンザ(H5N1)、(14)鳥インフルエンザ(H7N9)	全数
三類	(15)コレラ、(16)細菌性赤痢、(17)腸管出血性大腸菌感染症、(18)腸チフス、(19)パラチフス	全数
四類	(20)E 型肝炎、(21)ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。）、(22)A 型肝炎、(23)エキノкокクス症、(24)黄熱、(25)オウム病、(26)オムスク出血熱、(27)回帰熱、(28)キャサナル森林病、(29)Q 熱、(30)狂犬病、(31)コクシジオイデス症、(32)サル痘、(33)ジカウイルス感染症、(34)重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス属 SFTS ウイルスであるものに限る。）、(35)腎症候性出血熱、(36)西部ウマ脳炎、(37)ダニ媒介脳炎、(38)炭疽、(39)チクングニア熱、(40)つつが虫病、(41)デング熱、(42)東部ウマ脳炎、(43)鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く。）、(44)ニパウイルス感染症、(45)日本紅斑熱、(46)日本脳炎、(47)ハンタウイルス肺症候群、(48)B ウイルス病、(49)鼻疽、(50)ブルセラ症、(51)ベネズエラウマ脳炎、(52)ヘンドラウイルス感染症、(53)発しんチフス、(54)ボツリヌス症、(55)マラリア、(56)野兎病、(57)ライム病、(58)リッサウイルス感染症、(59)リフトバレー熱、(60)類鼻疽、(61)レジオネラ症、(62)レプトスピラ症、(63)ロッキー山紅斑熱	全数
五類	(64)アメーバ赤痢、(65)ウイルス性肝炎（E 型肝炎及び A 型肝炎を除く。）、(66)カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、(67)急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）、(68)クリプトスポリジウム症、(69)クロイツフェルト・ヤコブ病、(70)劇症型溶血性レンサ球菌感染症、(71)後天性免疫不全症候群、(72)ジアルジア症、(73)侵襲性インフルエンザ菌感染症、(74)侵襲性髄膜炎菌感染症、(75)侵襲性肺炎球菌感染症、(76)水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）、(77)先天性風しん症候群、(78)梅毒、(79)播種性クリプトкокクス症、(80)破傷風、(81)バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(82)バンコマイシン耐性腸球菌感染症、(83)風しん、(84)麻しん、(85)薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数
	(86)RS ウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎、(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）、(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎、(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く。）、(105)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）、(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症	定点
疑似症	法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症 (113)摂氏 38 度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）、(114)発熱及び発しん又は水疱（ただし、当該感染症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)	定点
新型インフルエンザ等感染症	(111)新型インフルエンザ、(112)再興型インフルエンザ	全数

別表2 定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科定点	(86)RSウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、(88)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、(95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎	1週間(月曜日から日曜日)
インフルエンザ定点	(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	1週間(月曜日から日曜日)
眼科定点	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎	1週間(月曜日から日曜日)
性感染症定点	(100)性器クラミジア感染症、(101)性器ヘルペスウイルス感染症、(102)尖圭コンジローマ、(103)淋菌感染症	各月
基幹定点	(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)*ただし、入院患者に限定する。	1週間(月曜日から日曜日)
	(89)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(104)クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、(105)細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、(107)マイコプラズマ肺炎、(108)無菌性髄膜炎	
	(106)ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、(109)メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、(110)薬剤耐性緑膿菌感染症	各月

別表3 病原体定点把握対象の五類感染症の調査単位

定点種類	対象疾患	調査単位
小児科病原体 定点	(86)RS ウイルス感染症、(87)咽頭結膜熱、 (88)A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、(89)感染 性胃腸炎、(90)水痘、(91)手足口病、(92)伝 染性紅斑、(93)突発性発しん、(94)百日咳、 (95)ヘルパンギーナ、(96)流行性耳下腺炎	各月
インフルエン ザ病原体定点	(97)インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び 新型インフルエンザ等感染症を除く。）	流行期（兵庫県におけるインフ ルエンザ定点の1定点あたりの 患者数が1を超えた時点から1 を下回るまでの期間には1週間 （月曜日から日曜日） 非流行期（流行期以外の期間） には各月
眼科病原体 定点	(98)急性出血性結膜炎、(99)流行性角結膜炎	各月
基幹病原体 定点	(89)のうち病原体がロタウイルスであるも の、(105)細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、 髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く。）、(108)無菌性髄膜炎	各月